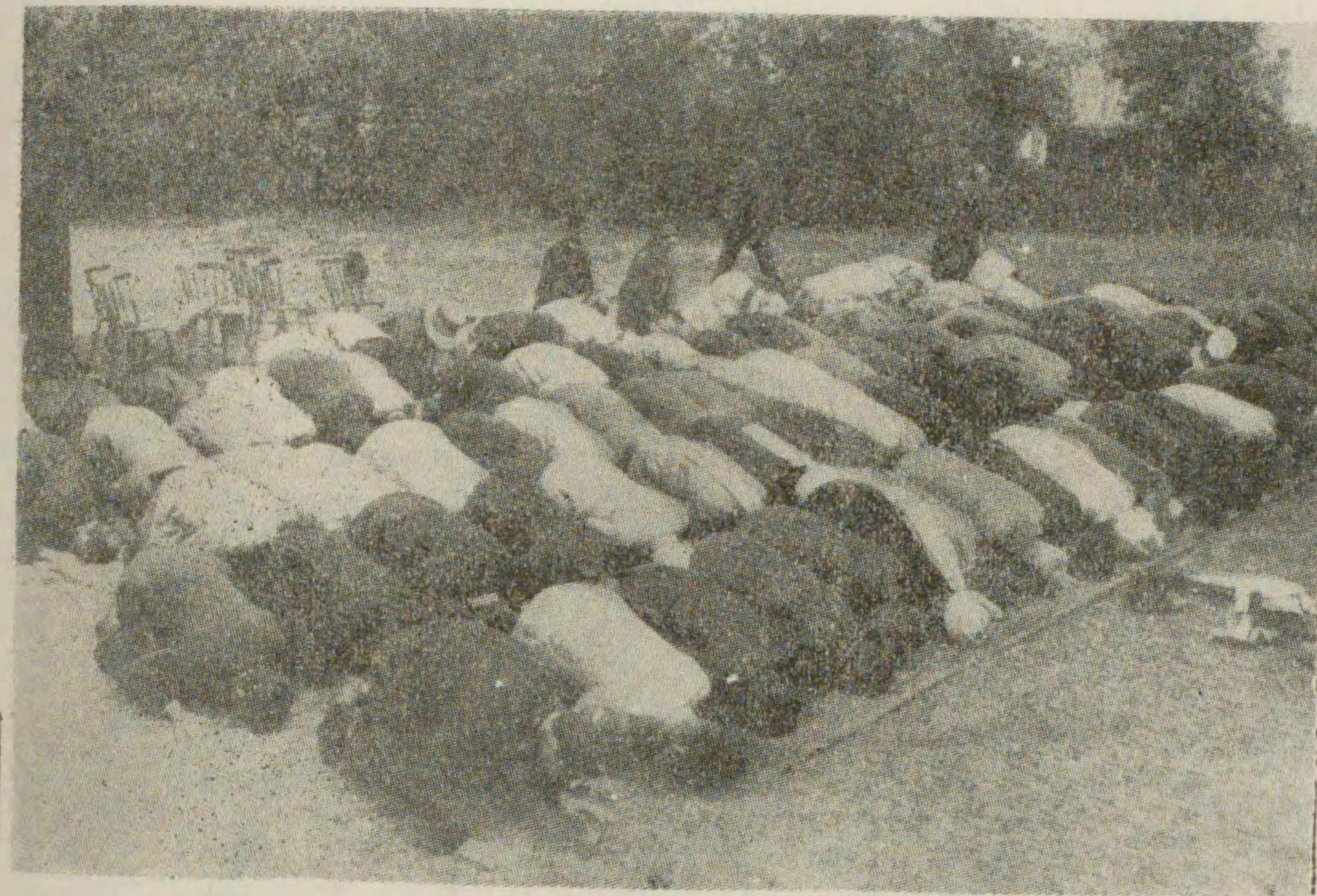


新興土耳其の地位



回教徒の禮拜 回教徒は大斷食の時の集合し合つて望んで
禮拜の行ふに地上に額を地を祈りながら捧げ眞剣
の態度は偉大な回教の力を想像せしめるに餘りある。

ら、その一員たる土耳其を眺めるに當り、かうした運動が存することだけは記憶に入れておかなければならない。

要するに新興土耳其が立國の地盤とする小亞細亞は、歐亞交通の要衝に當る重要な地點である。地理の上からして東西兩洋の文化の接合を計る役目が其處に荷はされてゐると共に、茲に強い國家が蟠居して居れば、亞細亞はそれだけ安全性を確保することが出来るのである。この意味からして小亞細亞が歐洲諸國に瓜分されないで、亞細亞民族たる土耳其人によつて固められたことは全亞細亞民族に取つて喜ばしいことゝいはなければならぬ。

風俗

○國民性 土耳其人は總じて懶惰で、愚直で、不活潑であるが、その半面には丁寧で、慇懃な國民だといふことが出来る。しかし歐洲大戰後は著しく活動的になつて、國民中のよい分子は商工業其他の方面で却々機敏活潑に働いてゐる。これは從來、希臘人やアルメニヤ人によつて營まれてゐた經濟活動が、人口交換後必然に土耳其人自身の活動を促すことゝなつた結果にも因るのである。

○トルコ風呂 トルコ風呂は土耳其だけに限らず西南亞細亞一帯を通じて見られる回教徒特有の風呂であるが、土耳其の公衆浴場は却々凝つたもので、脱衣室で着物を脱いでタオルに身を包み、木履を穿いて大理石の床の上を幾つかの戸口を潜つて奥へ奥へと行くと、次第に温度が高まる組織となつて居り、最後の廣間に入ると大理石の寢臺がよく暖められてゐて、その上に横臥してゐると全身が適當に濕ふて来る。すると更に又温度の高い一室に入つて三助に洗はれたり按摩されたりした上、別室で新しいタオルに身を包みつゝ珈琲や煙草を命じて休息するといふ寸法である、入浴料は五十錢位であるが、土耳其人はかうして月に二三回この蒸風呂に入る習慣となつてゐる。

○服装 土耳其人は紋平袴のやうに腰の周圍のだぶ／＼して足首の處で狭くなつたズボン

國民性に變化を呈す

凝つた浴場

入室の制度が破壊され、正しい一夫一婦の制度に則るべきことを強調され、今では解放されたハレムの女達が忙しげにタイプライターをたたくといふ程の變化を示してゐる。

○政教の分離 土耳其は第十四世紀の初頭小亞細亞に於て建國した當初から回教國であり、一九二〇年新土耳其共和國の成立後も、其の新憲法第二條に於て明に「回教を以て土耳其國家の宗教とす」と規定してゐたが、一九二八年土耳其議會に提出された憲法改正案中には宗教に關する條項を削除し、議會に於て議員が誓約をなす際に於ては「神の名により」といつてゐたのを爾今「名譽に誓つて」といふことに改め、右議案を可決した。

○羅馬字採用 土耳其民族は約六百年前から亞刺比亞文字を使用してゐたが、初學者の學習に不便なので一九二八年から羅馬字を使用することになり、大統領ケマル・パシヤは羅馬字採用に關して各所で演説を試み、羅馬字採用は土耳其に於ける最大革命にして、之に比すれば在來の政治的革命的如きは比較するに足らず、之によつて土耳其將來の發展は期して待つべしと述べ代議士を召集して羅馬字を教授したり、軍隊内でも兵士に羅馬字を教へさせたり、或は各官吏會社銀行商店員等に對する講習會を開いたりしてゐる。又各學校に於ては勿論羅馬字を教へ、着々として成功を収めてゐる。併し國語に就ては何處までも國民主義の立場から土耳其語を尊

國粹主義
による國
語尊重

重し外國語源の文字の使用を排斥し、大學生などをして「祖國の同胞よ、土耳其語を話せ」といふやうな宣傳に努めさせてゐる。米國人經營の學校などもそれに制せられ土耳其語を正課とするに至つた。

希領及伊領諸島

島嶼の歸
屬

元土耳其領たりし地中海の島嶼中、歐洲大戰後、ローザンヌ條約によつて割讓された島嶼は次の如き所屬に歸してゐる。

○希臘領 サモトラキ島、レムノス島、ミチリニ島、キオス島、サモス島、ニヤリヤ島。

右の諸島に對して希臘は如何なる海軍根據地も、又如何なる要塞をも建設するを許されぬことになつてゐる。

○伊太利領 ロードス島、コス島、カルパトス島、カリムノス島、其他全部で十四の島嶼。

右の内ロードス島は最も大きく人口約四萬二千を有し、果物、野菜、海綿、オリブ油、葡萄酒等を産する。そして伊領の島には軍事的の制限が設けてないので伊國はガセノ及カステロリツオの二島には要塞を設け、ロードス、コスの二島には守備隊を置いてゐる。

面積人口

第二節 シリヤ

位置 面積 人口

土耳其の南にあつて、西は地中海、東はイラク王國、南は亞刺比亞沙漠に接す。面積約五萬八千方哩(十五萬方呎)、人口二百四十萬を算する。

政治上の區劃

殆ど名ばかりの共和國族立

元土耳其領であつたが歐洲大戰の結果佛國の委任統治地となつたのであつて、政權は佛國の高等委員の手にあるも、左の如き小さな共和國が建設されてゐる。

國名	面積(方呎)	人口	首府
大レバノン	九、三二一	五九、八〇六	ベイルート
シリヤ	一、二七、〇〇〇	一、五〇三、五〇〇	ダマスクス
アル・ウイト	六、五〇〇	二六一、一六二	ラタキエー
ヂュベルドルーズ	六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	エルスベダ

人種、宗教

全土民の約八割が亞刺比亞人で回教を奉じ、殘餘の二割が基督教を奉ずる他の人種である。

都市

沙漠の都

ベイルートは全シリヤの首府で、近世式の海港である。清い飲料水が豊富なために發達した都市で、ベイルートとはフェニキヤ語で泉の王といふ意味である。人口十五萬を有す。ダマスクスはバラダ河の水によつて惠まれた世界最古の都で、沙漠の中に鬱蒼たる森に包まれた市街がある。こゝはカイロ、バグダード、バストラの間に定期飛行のある航空路の要地となつてゐる。人口は二十五萬。アレツポ二十萬。ラタキエー二萬。トリポリ二萬。

交通

鐵道は次のやうに開通してゐる。

ベイルート―ダマスクス間百四十六呎。ラヤク―アレツポ間三百三十一呎。ベイルート―マ

亞刺比亞
馬の產地

産業

主要産業は農業でレバノン山から流れ出る諸川に沿ふた土地が耕作されてゐるが、大部分の土地は開墾されてゐない。産物は大麥、小麥、棉花、玉蜀黍、葡萄、橄欖、キャベツ、メロン、無花果、棗、バナ、等で、葡萄酒の醸造が行はれ、輸出品として重要な地位を占めてゐる。牧畜は古來亞刺比亞馬の產地として知られ、沙漠内の土民の重要財源である。又駱駝、騾馬、羊の飼養も行はれてゐる。工業はダマスクス地方の眞鍮細工、螺鈿細工、アンチオキア地方の絹織物位のものである。

歴史、現状

シリヤは古代のフェニキヤの地で、フェニキヤは小國ながらも國民が航海に長じ、盛んに貿易植民を營んで經濟の發達と知識の傳播に貢献し、特にその發明せる文字は今日の歐洲文字の源となつた。その後アッシリヤに征服せられ、更に波斯の領土となり、西曆紀元前三百三十年

歐洲文字
の源泉地

最新亞細亞大觀

三六六

メルテーン間十七籽。ホムトリポリ間九十八籽。ダマスクスエルハンマ間百九十九籽。

統治の困難



軍民士のヤリシ 現在佛國の委任統治を受けらるゝ
が、亞刺比亞人は常に獨立を希望し、その土民は佛國に對して反抗の勢を有してゐる。

立國たる名目を得ることになつた。これらの諸國は皆國會を有し大統領を推戴してゐるが、そ

頃亞歷山大王の領地となつたが、後又この地にシリヤ國が起り、一時獨立を保ちしも羅馬に滅ぼされやがて亞刺比亞の領土となり、土耳其の興起するに及んで土國に併合され久しくその治下に在つた。歐洲大戰には英國に味方して土耳其に叛旗を翻へし、戦後國際聯盟の議決により佛國の委任統治地となつたのである。しかしシリヤの土民は完全なる獨立を願つて起つたのであるから、委任統治の下に置かるゝを喜ばず、先づ一九二〇年マロニト、トリポリ、サイダ地方がレバノン國の建國を謀つたのを始めとして、一九二三年にはヂュベルドルズ國、翌一九二四年にはシリヤ、アルウイトの兩國が相次で獨

れらを一括して佛國が最高の統治權を有してゐるは勿論である。斯く複雑なる内容を有する爲め、佛國も統治上困難を感じ、一時はシリヤの統治を伊太利に移譲するといふ説さへ傳へられた程で、シリヤ人(即ち亞刺比亞人)は往昔フェニキヤの文化を生んだ民族であるといふ自負心が強く、委任統治に對し絶えず非難の聲を發するのみならず、中には回教國としての關係より土耳其と合併を希望する一派もあり、相當なる既成文明を有する國民だけに、佛國に取り統治上多難なる前途を有するものと思はれる。

風俗

西亞細亞地方は歐洲大戰後に舊土耳其領が瓦解して、各地方が或は獨立したり、英佛の委任統治地となつたりして、甚しく分立的の状態になつて居る。従つて各地方によつて風俗を一々記述しては重複するから、茲に西亞細亞地方の風俗を概括的に記すこととする。

○回教の風習 シリヤ、パレスタイン、ケラク、イラクの各地とも回教徒たる亞刺比亞人が住民の大部分を占めてゐる。彼等は回教曆の第九月には宗教上の慣例に従ひ三十日間斷食をする。しかし斷食といつても日中に食事を攝らないといふだけで、日出前と日没後に一回づゝ食事を

斷食祭

するのだから事實は絶對の斷食ではない。斷食の期間が終ると砂糖祭(セケル・バイラム)といふ祭禮が三日間も續いて、どの家でも菓子類を澤山造り親戚や貧困者に配り、奇麗に着飾つて知己親戚の許へ廻禮する。これは丁度我國の新年の廻禮のやうなものである。砂糖祭が終つて七十日經つと又羊祭といふのがあつて、どの家でも羊を一頭づゝ料理して親戚知己や貧困者の家へ配り、寺院に參詣したり多數の客を集めて饗宴を開いたりする。羊祭の前には回教寺院の前に羊市が立つて非常に雜鬧するのが例である。

結婚風俗

○婚姻 子供の嫁探がしは母親の務めとなつてゐて、年頃の男子を持つ家では、母親が娘のある家を頻りに訪問して理想の嫁を見立て、これならばと思ふのが見付かると初めて父親と息子とへそれを告げ、同意を得た上で娘の家へ交渉を始める。娘の家でも新郎の家を訪ねてよく調査した上で婚約を結ぶ。新郎の母親の調査振りは徹底したもので、土地によつては浴場で新婦の體格をまで調べる風習がある。斯くまで行届いた手續を履むが、結婚の根本觀念には今でも賣買結婚の遺風が存してゐる。結婚の際には身分に應じて手切れ金の約束をなし、少きは四五十圓、多きは四五千圓まで證書にして渡し、それだけの財産は確實に保存して置かなければならないことになつてゐる。結婚式には男客は表門から、女客は裏門から入り、回教僧侶が式を

割禮の行事

司つて新郎新婦に變らざる夫婦の契りを誓はせた上握手をさせる。握手が終ると新郎は新婦が被つてゐる薄絹を取除けて初めて新婦の顔を見るのである。結婚後、新婦が處女でなかつたことが知れると、新婦は生家へ歸らせて離縁してしまふなど、貞操觀念は嚴重である。回教の諛により男子は四人まで妻を持つことが出来、一夫多妻の制度は今日でも行はれてゐるが、賣買結婚の遺習が存するだけに、貧しきものは數妻はおろか一人の妻を迎へることさへ出来ぬ。

○割禮 男子は普通七八歳、地方によつては十二三歳で割禮を受ける。割禮は一人前の回教徒となる儀式で、両親は回教の僧侶を招き、子供に白い着物を着せ、僧侶をして子供の包皮を切らせるのである。子供は驚きと痛みとで泣き叫ぶが両親は懇ろにそれを介抱しつゝ子供が一人前の回教徒になつたのを祝するのである。男兒に對すると同様に女兒に對しては處女膜に軽い疵をつける。斯くして一旦割禮を受けたものは、他の宗教に改宗することが出来ぬといふことになつてゐる。

第三節 パレスタイン

位置面積人口

亞刺比亞半島の要地

西部亞細亞に位置し、東部地中海と亞刺比亞半島西北部の咽喉を扼する要地にあり、北はシリアに接し、南東部はケラク王國（トランス・ヨルダニヤ王國ともいふ）に接してゐる。面積一萬二千三百方哩（三萬二千方呎）で、我國の四國より稍廣く、人口は約九十三萬を算する。

都市

首府エルサレムは基督墳墓の地、人口六萬を有し、ベツレヘムは基督出生の地で、人口一萬あり、共に各國からの巡禮者が多い。

人種宗教

總人口の七割強が亞刺比亞人で彼等は回教を奉じ、一割五分が猶太人、一割が基督教徒たる他民族である。北境地方には約七千人のドルース人が居て遊牧生活を營んでゐるが、全人口中今尙遊牧生活をなす者が約十萬人を算する。

産業

死海の産物

人口稀薄で草原地帯が多く、氣候は十一月から四月までが雨季で温暖であるが、その他の月は一般に暑氣酷烈である。住民は農業を主とし、麥類、オレンヂ、メロン、扁桃、葡萄、煙草等を産し、牧畜も發達し、皮革類の産額が多い。近年猶太人の歸住によりて資金が流入し、石鹼、絹織物、皮革、製粉、煉瓦、綿織物等の工場が出現するやうになつた。特殊産物としては眞珠細工があり、死海からはポツタシユーム、マグネシウムクロイド、ソジニウムクロイドが採取され、礦物類は岩鹽、石膏、硫黃、瀝青、石灰石、石油を産する。

交通

- 鐵道 バレスタイン鐵道(四七二籽)シナイ鐵道(二四三籽)ヘヂヤス鐵道(二四二籽)ヘヂヤス・トランスヨルダン鐵道(四四七籽)が開通してゐる。
- 自動車路 近時自動車道路が漸次發達して自動車の交通が便利になつた。
- 港灣 ヤツファ、ハイファ、アツカー、カザ等の諸港があるけれど何れも良港ではない。

歴史現情

猶太の古國

バレスタインは所謂猶太の古國にして基督教發祥の地である。歴史を説けば甚だ古く、アブラハムがカルデヤからこの地に移住したのは西曆紀元前二千年の昔で、その後饑饉に遇つて大舉埃及に移住したが、約五百年を経て彼等の人口が甚だ増殖した爲めに埃及で迫害を受け、部會モーゼに率ゐられて再びバレスタインに歸つて來てこゝに居を定めた。

斯くしてこの民族はヘブライ文化をバレスタインの地に建設したのであるが、所謂ソロモン王の榮華の時代を経て幾何もなく國內は二つに分裂し、イスラエルとユダヤとの二國となり、互ひに抗争を續けて、紀元前七百二十二年にイスラエル王國が滅亡し、次でユダヤもバビロニヤに滅ぼされたのである。そのバビロニヤが又やがて波斯に滅ぼされ、更に又波斯が歴山大王に擊滅されるといふ有様で、諸強國の盛衰興亡に伴ひバレスタインの地も幾變轉かを経たる後西曆紀元前後には羅馬帝國の版圖に歸してゐた。

第十五世紀に至り土耳其帝國が勢威を振ひバレスタインも遂に土耳其の領地となり、以て最近に及んだのであるが、歐洲大戰の時、英國はアレンビト將軍に二十萬の兵を附して、シナイ半島からバレスタインに進軍せしめ、一九一六年十二月エルサレムを攻略し、漸次土耳其軍を壓迫して、シリヤ、バレスタイン方面を掌裡に收め、大戰後シリヤを佛國に讓つて、その代り

興亡盛衰幾變轉

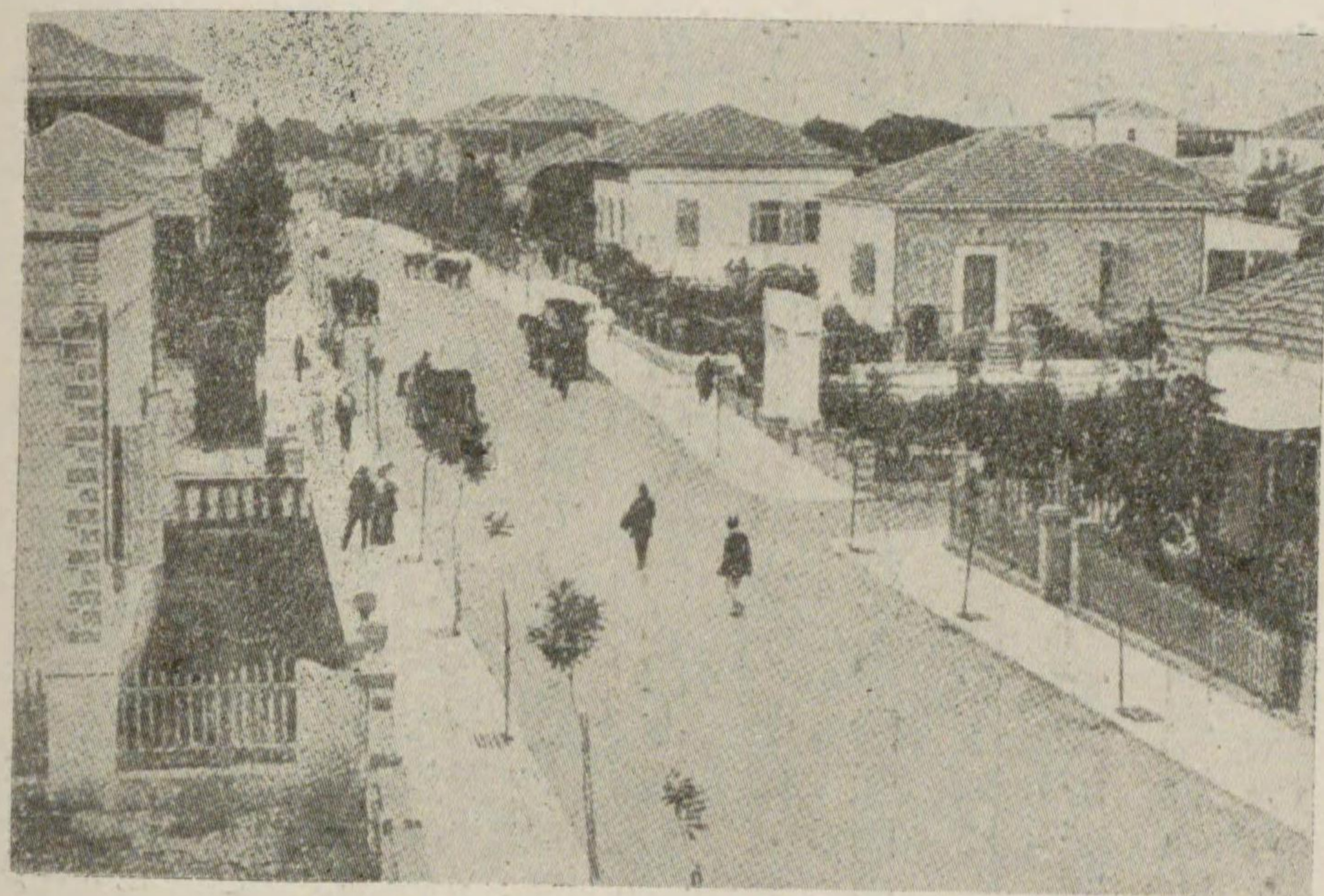
英國の経略

にパレスタインの委任統治權を得、ケラク王國と共に之を自己の勢力下に置き、埃及及び亞刺

比亞に對する緩衝國として、印度に至る交通路を確保する目的を達したのである。

之より前、猶太人の間には所謂シオニズム(猶太建國)なる運動が起り、久しく亡國の歎を抱いて世界各地に流寓しつゝある猶太人のために新國家を建設する希求が現はれてゐた。この運動に對しては猶太人出身の富豪たる倫敦のロスチャイルド、紐育のシッフ等も基金を醸出する有様であつた。斯る折柄、世界大戰が起つたので、世界各地に散在する猶太人はこの機會に故國の山河を恢復して、パレスタインに新國家を建設せんと猛烈なる運動を開始した。この運動の熾烈なるを知つてそれを利用したのが、即ち

猶太復興の運動



新興猶太人街 猶太人の故國パレスタインは歐大戦後猶太人が再び現出するにあつた。この圖によつても新興の氣が窺はれる。

亞刺比亞人の反猶太運動

英國で、一九二〇年七月始めてパレスタインに民政を布くに當り、猶太人出身のサー・ハーバート・サミュエルを總督に任じ、猶太人を援助することによつて自國の勢力をこの地に扶植する方策を執つた。然るに猶太人が各地よりパレスタインに移住し來り、多數の猶太人村落が出現するを見て、先住民族たる亞刺比亞人は甚しき反感を示し、猶太建國運動に反對の態度を取るに至りしは止むを得ないことであつた。しかし兎に角英國は一九二二年七月國際聯盟よりこの地に對する委任統治權を與へられ、翌一九二三年九月から之を實施した。英國は亞刺比亞人の反猶太運動乃至反英運動を鎮壓するを得ず、一九二二年九月、亞刺比亞人は新にパレスタイン憲法を制定し、回教徒のために最高回教徒議會を設けて、自治國たる形態を有することゝなつた。

猶太民族は故國の復活を喜び、猶太人復興協會なるものを設け、或はエルサレムに猶太人大學を設立する等、世界各国に散在せる猶太人の歸住を奨勵してゐるけれど、何分にも境域が狭く且つ産業的の價値の乏しい土地とて、一旦歸住して見ても、經濟生活の發展を庶幾し難いため、再び他國に移住するといふ有様で、將來この地に猶太人の大なる民族的發展を見るべき可能性は稀薄である。加ふるに亞刺比亞人の國民運動は頗る熱を帯び、反英運動により英國の

猶太人の
パレスチ
ンに非
ず

委任統治を脱せんとする要望を強く表示してゐる。亞刺比亞人の生活程度は概して低いが、都會地の居住者は相當に近代的文化生活を營み、亞刺比亞人によつて新聞なども發行され、その新聞を通じて國民運動の主張を宣傳しつゝある。だから、猶太の故國が恢復されたといつても、事實は猶太人のパレスチンではなく、亞刺比亞人のパレスチンたるべき運命にあるものと見られる。

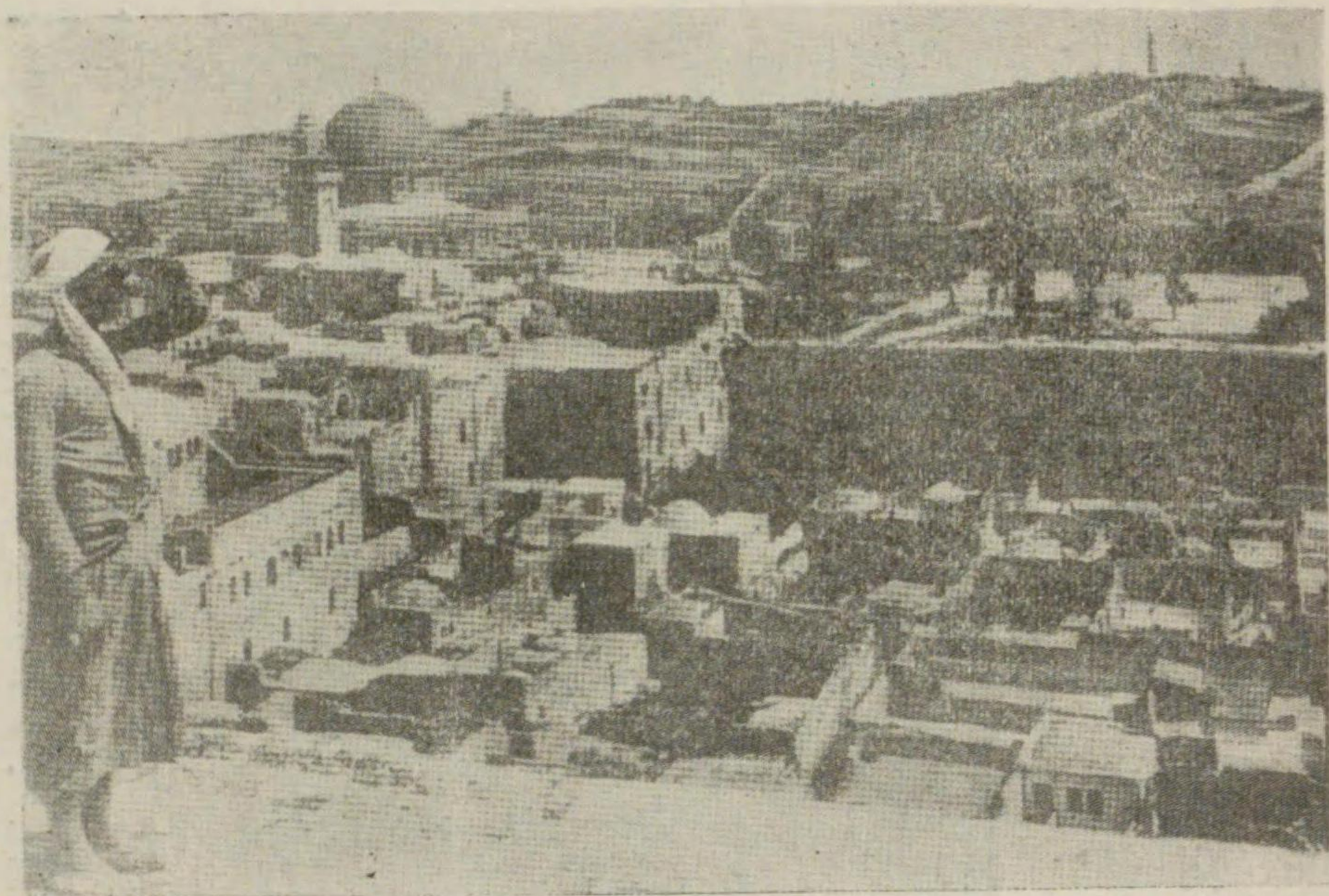
聖地エルサレム

パレフタインは古のカナンの地である。基督教の祖耶蘇はこの地に生れて、その大宗教を創成した。首府エルサレムは世界の聖地と稱せられ、單に基督教徒のみならず、回教徒も、猶太教も、この聖地を尊崇して各地から巡禮に來る者が多く、今でも非常に宗教的な氣分に満ち、様々の舊い儀式や行事が住民の間に多く残つて、古國の面影を傳へてゐる。殊に不朽の大文字たる新舊聖書に書き記された山や河や地名などが今も尙ほ存して巡禮者に深い感銘を與へるの

で、基督教徒ならずとも遍歴の興味は一入と深いのである。ヘブリエー人即ち猶太人は昔から宗教心の極めて厚い國民で、周圍の諸國が偶像教を奉ずる

世界の聖地

羅馬帝政
の末期

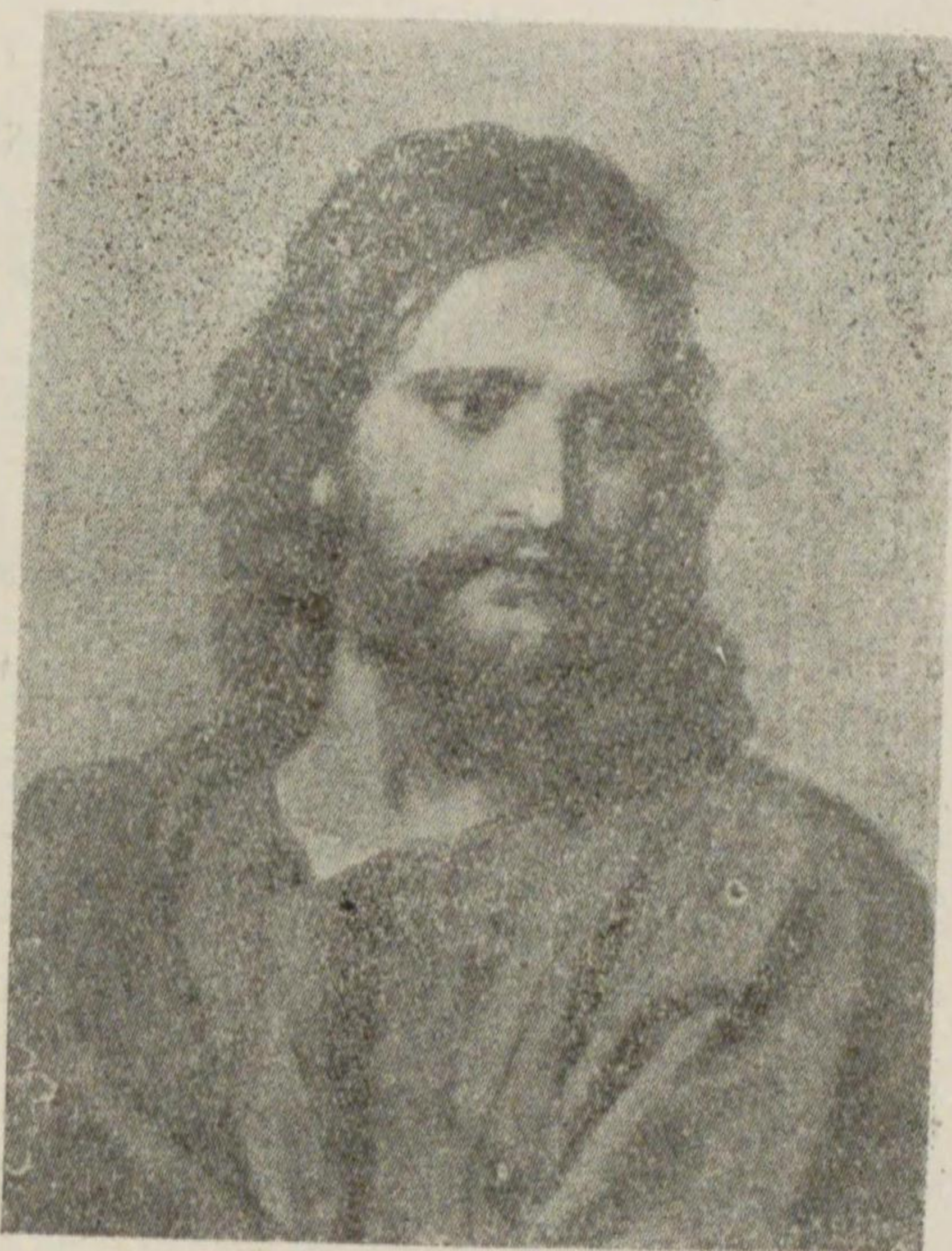


ムレサルエ 猶太教徒や基督教徒にとつてはエルサレムは聖地として尊重されてゐる。四時集來り諸國の巡禮者によつて

爛し盡して、頻りに新しき何物かを求めつゝある時であつた。豫て猶太人の間には「遠からず

中に、猶太人のみは一神教を奉じてゐたが、基督教誕生に先だつこと一千五百年の昔、モーゼが出で、一神的法制教を立て、信條道義、祭祀儀式、民法律律の三部から成る教によつて國民を指導した。これが所謂猶太教で、その教義により猶太人は今でも強い結合力を有し、能く艱難に耐へ得る性格を有してゐるのである。この猶太教から出で、新に一派の宗教を開いたのが基督で、基督の生れた當時の猶太は羅馬帝國の屬領となつてゐて、羅馬皇帝から任命されたヘロデが猶太の王として暴虐な政治を行ふてゐた頃である。羅馬の帝政は既に末年に近づいて、人は肉體的歡樂に飽き果て、その生活は頹廢し靡

眞神は天使を降して、眞神の教により萬國民を感化統合する」といふ豫言が信せられてゐたが、さうした場合に「イエスはヘロデ王の時ユダヤのベツレヘムに生れ給ひしが、そのとき博士たち東の方よりエルサレムに來り、曰ひけるは、ユダヤ人の王として生れ給へる者は何處にいま



基督の像

すや、われら東の方にてその星を見たれば、彼を拜せん爲めに來れり」(馬太傳)といふやうな奇蹟的な天象に伴ふて基督が生れたのである。ヘロデ王は他日猶太人の王となるべき者が生れたといふ説を耳にして、之を尋ね索めて殺さうとしたので、兩親は基督を連れて埃及に遁れ、ヘロデ王が病死するに及んで、ナザレに歸つた。その基督が成長して黙示を説き、天國を教へ、禁慾愛他主義を奨め、猶太人の信する豫言と合致するやうな布教を始めたのであるが、その質實な温順な行動は豫言にある天使とは趣を異にし、勢力も威厳もないやうに見受けられたので、僞天使であるとの疑ひを起さしめ、遂に人民を誘惑す

基督の生涯

る山師として羅馬の代官に捕へられ、西暦紀元三十二年磔刑に處せられたのである。其後羅馬歴代の皇帝は甚しい迫害を基督教徒に加へたが、殉教者は死に臨んで少しも悲まず、聖なる教のために身を殉ずるを、此上もなき幸福として感謝し、現世の肉的生活を脱して天國に行くことを樂んだので、その偉大なる信仰の力が世人を動かし、年所を経る裡に肉的現世主義の希臘思想を壓して勝利を占め、遂に全歐洲に擴まるに至つた。亞細亞に發生した基督教がその故郷なる亞細亞に弘布しないで、却つて歐洲に擴まつたのは、猶太が羅馬帝國の屬領となつてゐて、その交通關係が密接であつた結果に外ならない。

第四節 ケラク王國

位置面積人口

ヨルダン川を境としてパレスタインに接し、東方は沙漠地帯で明確なる境界を有しないが、面積は約一萬五千五百方哩(四萬方浬)と計算されてゐる。人口は約二十六萬。一名をトランスヨルダニヤ王國ともいふ。住民は亞刺比亞人である。

人口僅かに二十六萬

歴史現狀

この地方は歐洲大戰當時までは土耳其領であつた。大戰に際し英國がパレスタインと共に攻略した土地で、元々パレスタインと區別されてはゐなかつたのだが、國際聯盟會議に於てパレスタインの委任統治を決定するに當り、その條項中からこの地方を除外してゐたので、亞刺比亞人が自治政府の樹立を要望し、一九二三年五月パレスタインから分離して王國と稱することになり、元のヘチヤス王フツセインの第二子エミルを擁立して國王とした。政治機關としては大臣會議及び國民代表會議の組織を有し、約六百人から成る國境守備軍を有してゐる。一九二五年にはヘチヤスの領域に侵入してアカバ、デブク、マアンなど、稱する地を攻略し、小國ながらも活動してゐるが、實際に於てはパレスタインと共に英國の高等委員の監督下に置かるゝ委任統治地である。首府アムマンは人口五千を有し、他にエルケラクといふ都邑がある、産業に就ては殆ど見るべきものがない。

小國ながらも活動

第五節 イラク王國

位置面積人口

古のバビロンの地

チグリス、ユウフラト兩河流域の平原で、波斯と亞刺比亞の間に挟まれ、東南部は波斯灣に臨み、北は土耳其に接してゐる。元土耳其領であつたメソポタミヤの地である。面積十五萬二千八百方哩(三十七萬方呎)、人口二百八十萬を算する。

住民宗教

住民は亞刺比亞人が大部分を占め、宗教別にすれば回教中のシート派に屬する者が全體の約五割強、スンニー派の者約四割、猶太教約三分、基督教二分八厘の割合である。

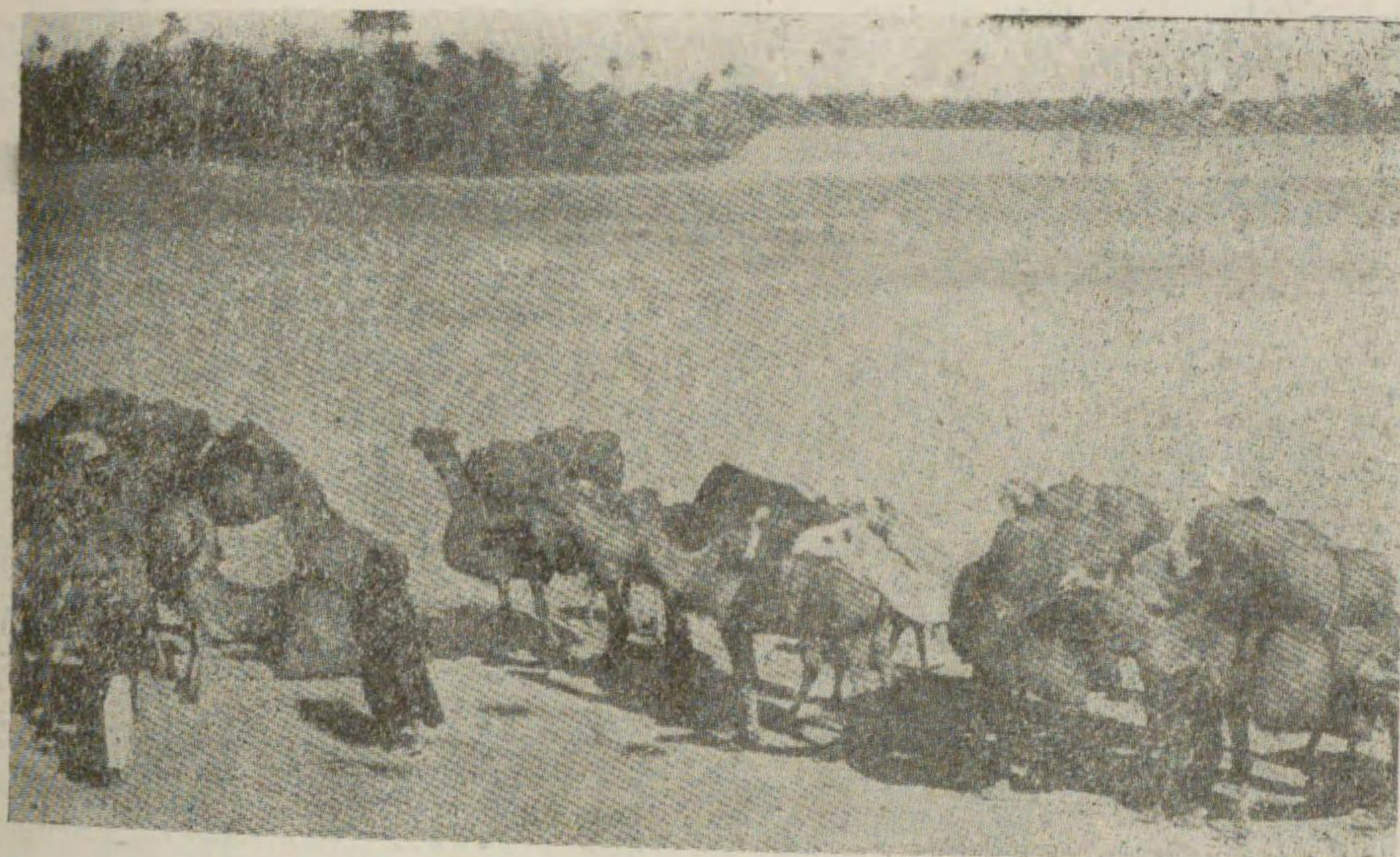
政治上の區劃

國王の下に内閣があつて行政事務を執り、立法部は主要なる政治家中から任命された二十名の議員から成る上院と、國民の選舉した八十八名の議員から成る下院がある。全土を十四州に分ち知事を置いてある。但し英國の委任統治國であるから英國官吏が優越せる權力を以て政治上の監督を行つてゐる。

都 市

首府バグダード（二十五萬）、モスル（三十五萬）、バスラ（十七萬）。バグダードは今も隊商

人頭獅身像の發掘



商隊のヤミタボツメ 昔かツボツミヤの平原を往來する
駝駱の行列は、今も尚ほ西部亞細亞の名物である、この商隊のつよ
つよ資物の配給が行はれてゐるのである。

の集中する商業都市で、南に古きバビロンの廢址がある。モスルは中央の門といふ意味の名稱で古來黒海と波斯灣と裏海と地中海との交通路の中央に當つてゐたからこの名が起つたのである。毛織物の名産地でモスリンといふ織物の名もこの地名に因んで出來たのである。一八四一年この附近の沙漠中から人頭獅身羽翼の石像が發見され、發掘調査の結果それがアッシリヤの古都ニネヴェエの古址であることが判明した。

産 業

氣候炎熱で雨が少いから現在では耕作に適する土地は少ない。併しチグリッス、ユーフラト兩

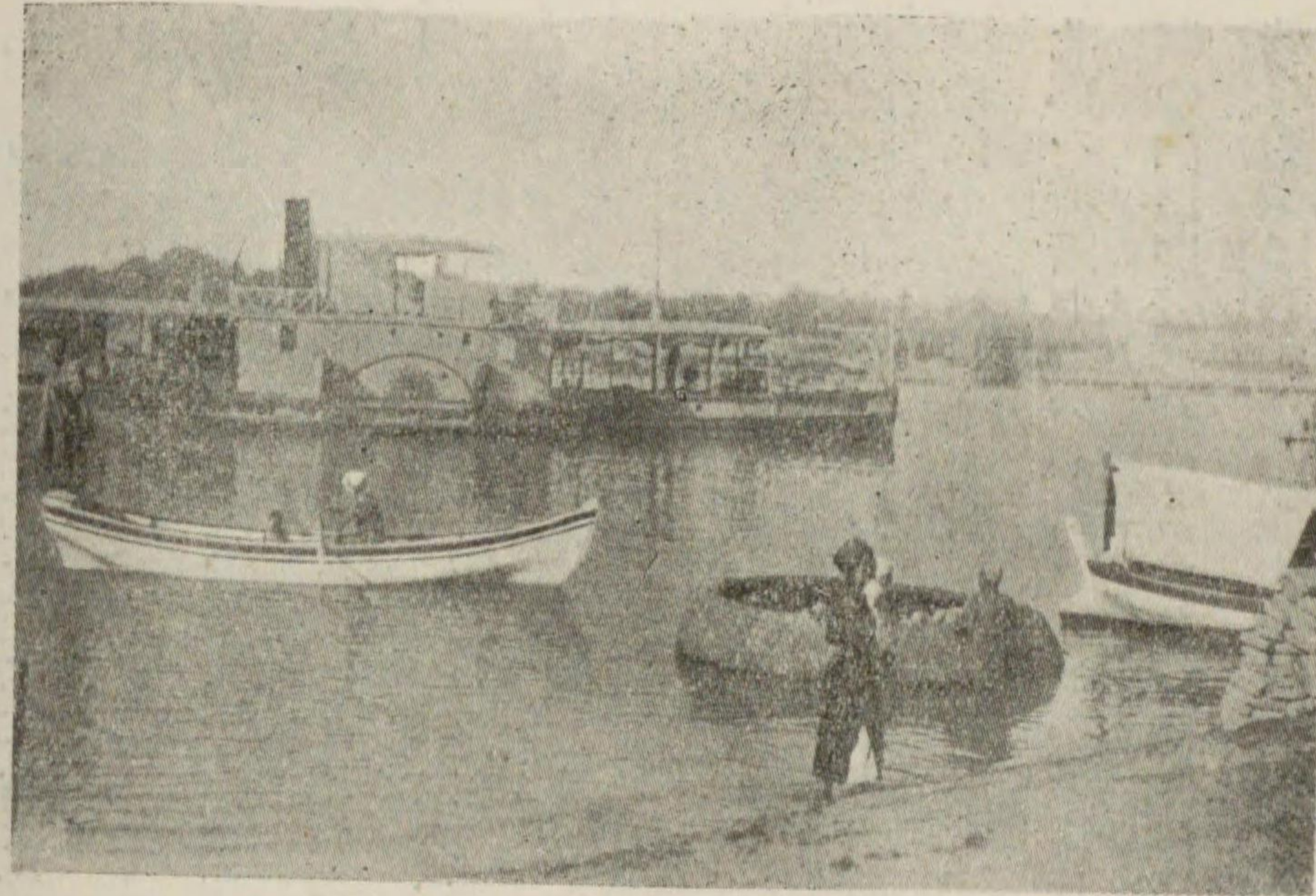
沃地開拓は可能
油田

河の流域は平地が多く、土耳其の領有時代には水路を全く放任してゐたため低濕の荒廢地と化してゐるが、今後溝渠を通じて治水設備を完全にし、且つ灌漑の便を開けば多大の沃地が得られ、多量の農作物を産するに至るだらうといはれてゐる。草原地方には牧畜が行はれ、國內の産物は、羊毛、毛織物、絨氈、棗、椰子、穀物、家畜等が主要なものである。最も特筆すべきはモスル地方が豊富なる石油産地たることで、年産額三百五十萬噸を算し、更に開發すべき油田が多く、その埋藏量は殆ど無限といつてもよい程であるが、この寶庫は英國の獨占に歸してゐる。

交 通

バグダード鐵道がシリアとの西北國境から入つて、モスル、バグダードの諸市を經由し波斯灣沿岸のバスラまで貫通してゐるが、英國政府は更にバグダードを起點として亞刺比亞沙漠の北部を横斷し、パレスタインのハイファに繋ぐ延長六百哩の沙漠横斷鐵道を敷設し、イラク王國の油田開發に資するため、同鐵道に石油輸送管を併合敷設する計畫を立てゝゐる。この建設費は約六千萬圓で、完成までに五ヶ年を要する豫定である。

沙漠横斷鐵道の計畫



チツピを籠の形碗おい丸たつ造で藤 舟碗おの河スリグチ
チ。る來出がとこる乗も人十が人、でのもたしと舟てめ固り塗
。るあで關機通交な異特いし珍の河兩トラフーユ、スリグ

歴史

が起るに及び、土耳其の版圖に歸して最近に至つたが、此の地はヨーロッパから印度洋に至る

メソポタミヤは紀元前三千年の頃既にバビロンの文明が起つた由緒ある地で、チグリス、ユウフラト兩河の間に挟まれた川中島の如き平野は地味肥沃だつたから、夙に人口が集中して文明の發達を促したのである。其後アッシリヤ、新バビロニア等の諸國が文化の光を放つて盛衰興亡の歴史を留め、中世に及んで回教徒の占領する所となり、現在のバグダードを中心に西暦七五〇年頃から東カリフ國として榮え、十三世紀の半頃蒙古人に占領されるまでの間、所謂亞刺比亞文化の華を咲かせた。オットマン土耳其



隊兵のドーダグバ 特獨たれ垂を布い長細るす稱とヤエフケ
方地漠沙がるへ與をじ感な奇珍、はることるみてつ冠を子帽の
。るあで子帽たつ起らか要必ぐ防をさ暑の

戦ひ、一時は土耳其軍の包圍攻撃を受けて散々なる敗衄を嘗めたが、再び新銳の軍を派して遂

交通の要路に當り、軍事上甚だ重要な地位を占めて居るのみならず、經濟的にも多大の價値を有してゐるので、英獨の兩國は夙に之に着目して進出を企て、一八三四年英國は先づ土耳其からユウフラト河の航行權を得、次いで獨逸は土耳其を動かしてバグダード鐵道の敷設に着手し、コニヤよりバスラに至る約二千四百軒の大鐵道を出現せしむるに至つた。此の鐵道は獨逸が伯林からビザンチンの古都によつて、はるくバグダードに出でんとする所謂三B政策を示現するものであるから、英國は非常なる不安を感じつゝあつたのである。されば歐洲大戰の起るや、英國は逸早く印度方面から兵を進めて土耳其と

イラク王
國の成立

に一九一五年三月バグダードを占領したのである。メソポタミヤの住民たる亞刺比亞人は、此の機會に乗じて土耳其の羈絆を脱する獨立運動を起し、一九二〇年八月セーザル條約により、國際聯盟の保護下に一獨立國を形成することを認められた。蓋し之は英國の好む所ではなかつたけれど、當時英國は回教徒の動搖を極度に恐れてゐたから、強て反對するを得ず、同年十月英國高等委員の下に亞刺比亞豫備政府が建設され、翌年八月國王の選舉を行つた結果、亞刺比亞の元ヘヂヤス王フイセンの第三子たる現王フェサル第一世が擁立されて、茲にイラク王國が成立したのである。しかしながら英國はセーザル條約に基き國際聯盟により、イラクの委任統治國となり、爾來其の監督權を行使する一面イラクとの間に同盟條約を締結して其の關係を密ならしむる政策を取つて居る。

熱烈なる
民族運動

英國としては、イラクの委任統治權を得ることにより、多年の不安を除き、且つ豊富なる油田を手中に收めて、經濟的にも軍事的にも有利なる地位を占めた譯であるけれど、亞刺比亞人たるイラク國民は、常に徹底的なる獨立を欲し、英國の委任統治から脱せんとする熱烈なる希望を抱き、その民族運動は次第に表面化してゐるから、恐らく前途は平安なるを得ないであらう。

第六節 亞刺比亞

位置面積人口

亞細亞の西南端に位し、波斯灣と紅海とに挟まれて南方に突出する世界第一の高原性大半島である。西北はバレスタイン及びシリヤに、東北方はメソポタミヤに境を接し、西は紅海を隔て、亞弗利加洲に對する。面積約百萬四千方哩(二百六十萬方呎)、人口は約七百萬である。

高原性の
大半島

政治上の區劃

歐洲大戰に因る土耳其の失勢、竝に大戰前後に於ける國際的の變化により政治上の區劃は甚だ複雑となつて居るが、大體英國の勢力下にあつて左の如き諸國及び屬領に分れてゐる。

- 一、ネヂド王國 この王國の下にヘヂヤス、アシル、ネヂランの諸國が從屬してゐる。
- 二、エーメン王國。
- 三、英領アデン。

四、印度帝國保護下のオスマン王國、同海賊岸、同カタル半島、同バトレン諸島、同トール

イト公國。

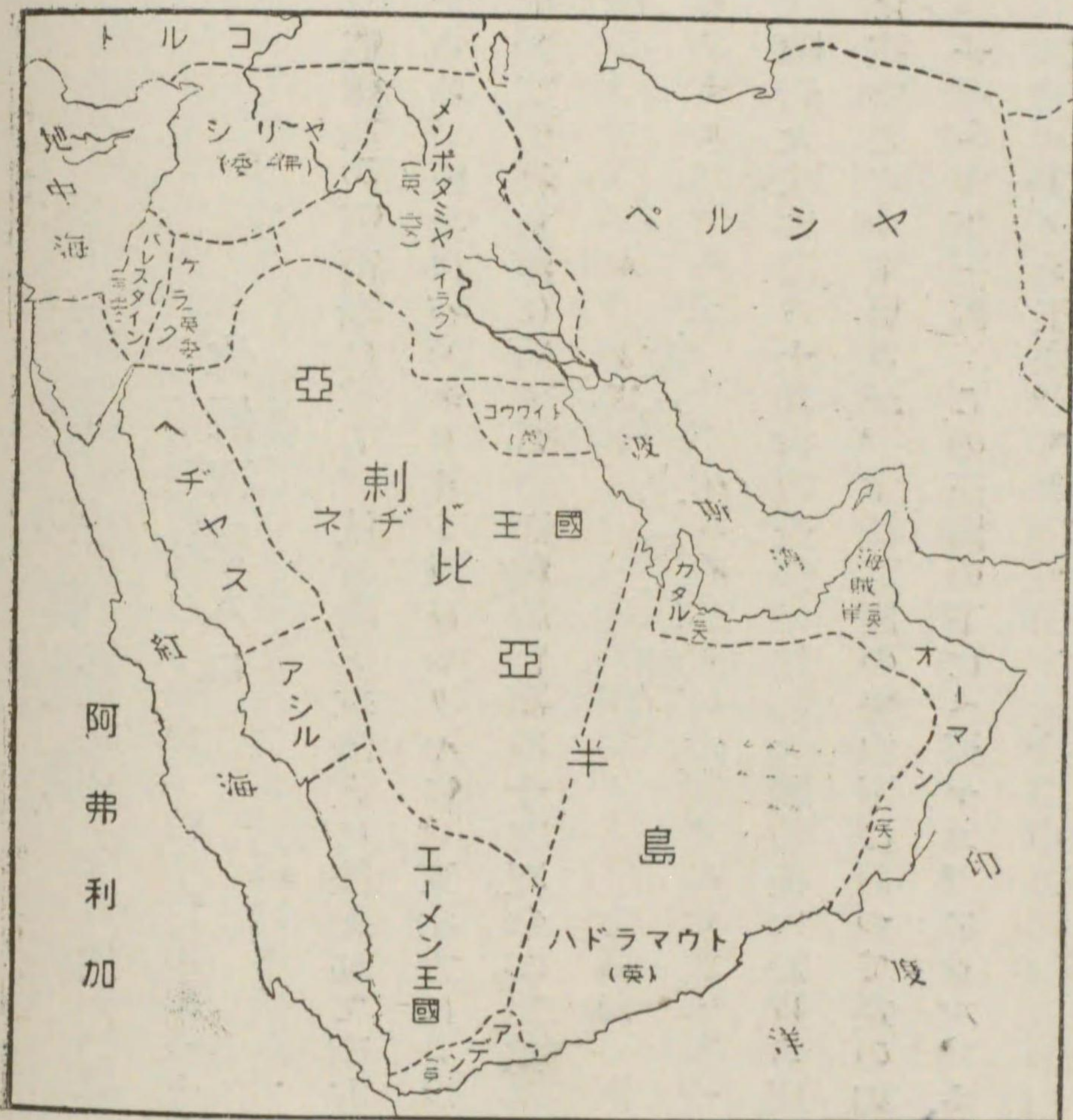
五、佛領シエヌクサイド。

以下それらの區劃に従つて記述を試みることにする。

第一 ネヂド王國

ネヂド王國は一九二六年ヘヂヤス王國を併合して以來、普通ネヂド及ヘヂヤス王國と稱せられるが、現在は左の如き構成によつて一國家を成してゐる。

ネヂト王國の構成



力勢的治政の國英るけ於に亞比刺亞

亞刺比亞人の亞刺比亞

構成國名	面積(方浬)	人口
ネヂド	一、〇七二、〇〇〇	五八五、〇〇〇
ヘヂヤス	四七二、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
アシル	三五九、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
ネヂラン	境界不詳	不明

○建國の歴史 ネヂドは亞刺比亞の中央部を占むる地方で、十九世紀の中頃まで埃及副王の領土であつたが、後土耳其がこの地方を領有することゝなつたので、被征服者たる亞刺比亞人は非常な敵愾心を抱き、獨立の機會を窺ひつゝあつた。之より前一七五〇年頃この地方に建設されたワヒト國の後裔なるアブダル・アチス・イブンサウドは先づ内部の統一を圖り、一九一三年土耳其の一州であつた波斯灣沿岸のエルハサを占領し、歐洲大戰には英國に味方し、一九二一年には土耳其に屬してゐたヂエメルシャンマルを獲得して、同年秋英國から獨立のサルタン國たることを承認され、土耳其の代表が大戦の結果亞刺比亞を退却したるにより、完全に亞刺比亞人の亞刺比亞たる實を收むるに至つたのである。

ヘヂヤスは元土耳其領の一州であつたが、一九一六年五月メッカの大シエリフ(市知事)たるフセイン・イブン・アリが英國の同意を得て土耳其より獨立することを宣言し、同年十一月ヘヂ

メッカ、
メチナの
陥落

最新亞細亞大觀

三九〇

ヤス王と稱することゝなつたのが建國の始である。之より前ヘヂヤスはメッカ及びヂツダを從へ、翌一九一七年六月アカバを併せ、大戦中に歐洲諸國から獨立國たることを承認されてゐたのであるが、一九二四年に至りネヂド王國のイブンサウドは兵をヘヂヤスに送つて征服を企て同年十月メッカを、翌年十二月メチナを陥落せしむるに至つたので、アリ王は退位し一九二六年一月ネヂドに併合されたのである。

アシルは一八三〇年頃から存立する公國であつたが、一八七一年土耳其に征服され、一九一四年一たび英國の勢力下に獨立を宣し、歐洲大戦には英國側に與みしてゐたけれど、一九二五年ネヂドに攻略され、内政の自治を認められることを條件としてネヂドの保護國となつた。

ネヂラン公國は元エーメン國に屬してゐたが、一九二六年以來ネヂドに從屬することゝなつてゐる。この公國は宗教國で面積人口共に不明である。

回教の聖地

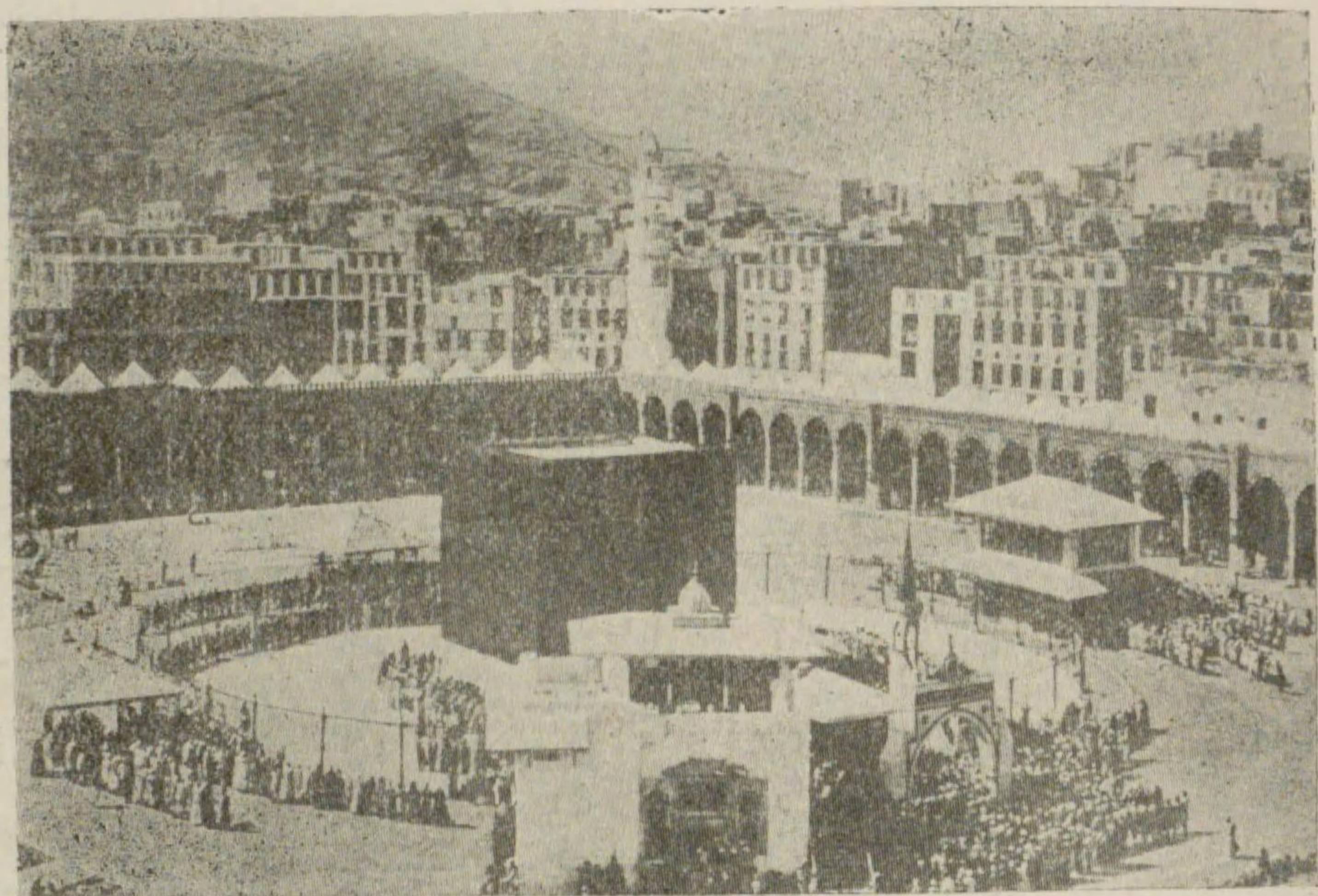
○都市 首府エルリヤド人口二萬、メッカ七萬、メチナ一萬、タイプ八千、ヂツダ二萬五千、アブ・アリシ七千五百、この内メッカは回教の始祖マホメットの生地、メチナはその墳墓の地として知られ、メッカにはカーバの殿堂あり、市の周圍百軒内は非回教徒には閉鎖され、各地からの回教徒代表者が在留して居て年々此地で大回教徒會議が開催される。一年の巡禮者は

十餘萬人に及ぶ。

○産業 海岸には屈曲なく斷崖岸に迫り、土地は東方に向つて低下してゐるが、氣候酷熱で降雨乏しく、内地は大體沙漠であるから産業の見るべきものはない。棗、椰子、珈琲、ゴム、波斯灣の眞珠等が重なるもので、牧畜は可なり發達し、馬、駱駝、羊、山羊の飼養多く、従つて皮革、羊毛を産出する。

○鐵道 メチナを起點とするヘヂヤス鐵道があつて、ヘヂヤス地方の中央を北上してバレストインとの國境を通過し、エルサレムに連絡してゐる。回教巡禮者のために設けられた所謂神聖鐵道である。

神聖鐵道



メッカの聖堂
二億五千萬の回教徒の崇拜の中心となつてゐる。この聖堂の中心に、黒い石の建物が、有名な名刺である。その中心に、降つたといふ石の祭壇がある。

第二 エーメン王國

紅海沿岸
の一獨立
國

紅海沿岸の南部にあつて面積約七萬五千方哩(十九萬四千方呎)、人口約二百萬、人種は亞刺比亞人が大部分を占め猶太人も商業方面に勢力を有してゐる。

○建國の歴史 久しく土耳其の權力下に置かれ、内部の自治權について土耳其政府と争つてゐたが、一九一三年遂に自治權を得、次で歐洲大戰により獨立した國である。現王イマン・ツァイドが專制君主として統治してゐる。

○都市 首府サアナ(舊名オセイル)は人口二萬を有し、その内八千は猶太教徒である。その外アルミハル、モカ、ホデイタの三市街地があり、中にもモカは世界最良の珈琲産地として有名である。

○産業 國土は概して不毛の地が多く氣候酷熱であるが、東經四十四度附近は氣候稍よく、山間地方には農耕に適する土地がある。産物は珈琲を第一とし、皮革、胡麻、眞珠、ゴム等を産する。

○鐵道 チエバナ―ホヂヤイラ間に鐵道が敷設されてゐる。

ミネアン
帝國の故
蹟

○國際關係 歐洲大戰後英獨伊諸國は、この國の將來に着目して互ひに經濟的勢力を扶植することに努めてゐる。エーメン地方は西曆紀元前三千年頃ミネアン帝國の起つた地で、大なる貯水所を造り、その貯水を利用して農事を營んだ遺跡などもあり、開發上有望と見られてゐるが故である。

第三 英領アデン

軍事上の
要地

英領アデンは亞刺比亞の西南端バベルマンデブ海峽の咽喉を扼する要地を占め、その屬地たるペリム島、クリヤムリヤ諸島、ソコトラ諸島、及び南亞刺比亞のハドラマウトを併せると面積合計十七萬六千方呎を算し、人口も二十七萬五千に達する。その内アデンは僅に百九十四方呎に過ぎないが、首府アデンは亞刺比亞灣第一の良港として、將又石炭供給地として重要な位置を占めてゐる上に、ペリム島には堅固なる要塞をも設け軍事上に於ける價值は多大である。

○行政上の區劃 アデンの行政關係は稍複雑で、軍政及び行政に就ては英本國が之を管轄し、アデン市の市政に就てのみ印度政府の統治下にあることになつてゐる。屬地のハドラマウト及びソコトラ諸島に對しては、英政府から酋長に年金を與へて英國との特殊關係に服従せしむる

ことに定めてゐる。クリヤムリヤ諸島はオーマン國との條約によつて獲得したものだが、これら

の諸島には極めて僅少な住民が居るだけで、面積も亦狭小な殆ど無人島のやうなものである。

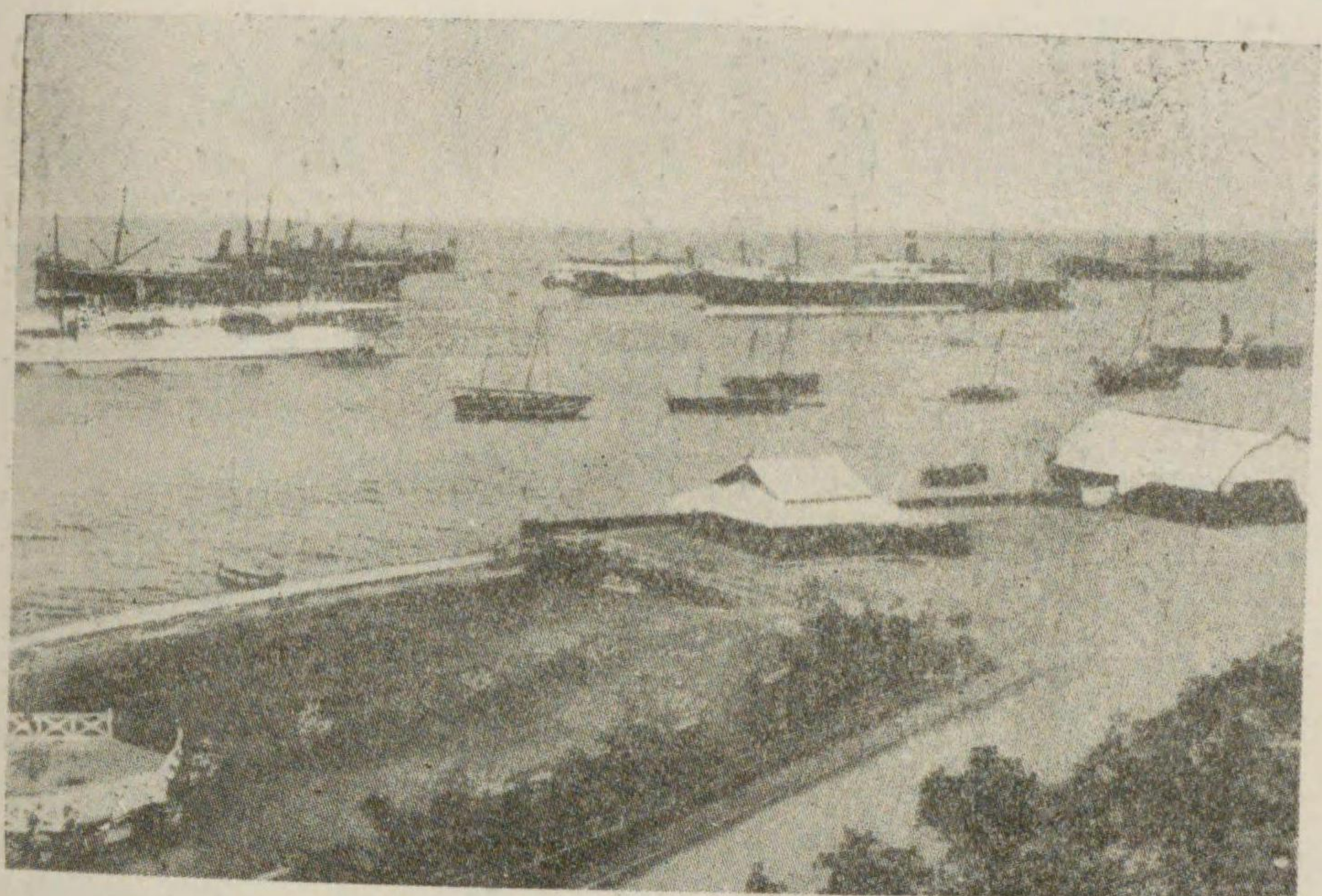
○都市 アデン二萬、ハドラマウトのマカラ一萬八千、ソコトラ島首府タムリダ一千五百

○産業 殆んど擧ぐべきものがない。

○人種 大部分が亞刺比亞人で、回教が行はれ、ハドラマウト地方には、黒奴も住んでゐる。

第四 印度保護地

英領であつて、印度政府の統治を受けてゐるのは左の諸地方である。



港のンデア 港のンデアは紅海の入口を扼する重要な要地な點にあつて、英國の領有に歸して以來、全く改築されず、勢力に亞比刺亞と港軍又して港商をよこは國英のるゐるあでのたつ

英國の勢力下にありたる諸地方

面	積(方)	人	口
オ	一五〇、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	
海	一五、六〇〇	八〇、〇〇〇	
カ	二二、〇〇〇	二六、〇〇〇	
バ	、五五二	一二〇、〇〇〇	
コ	五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	

右の内、オーマンは現在尙ほ一個の王國であるが、一八九一年の條約によつて英國の保護國となり、英國から同國王に年金六千磅を與へることになつてゐる。種族は亞刺比亞人が人口の八割七分を占め、その他は、印度人、メルチスタン人、波斯人等で回教を奉ずるものが多い。海賊岸は波斯灣の南岸にあつて、長い間の鬭争の結果英國人に征服されたのである。住民は大部分が亞刺比亞人である。カタルはエルカタルとも稱せられ、波斯灣西岸の半島で、元土耳其領であつたが一九一四年以來英領となつたのである。住民は亞刺比亞人で、その内約六千人の黒奴がある。尙ほこの地方には今でも王があつてエドドハに居住してゐる。バレーン諸島は住民の大部分が亞刺比亞人で回教を奉じ、總人口の一割弱は黒奴である。この諸島にも領主たる王があつて、英國はこの王と保護條約を結び保護領としたのである。コトワイトも亦波斯灣北部にある

公國で、名義上は一九一四年まで土耳其領であつたけれど、事實は一八八〇年以來英國の保護下に歸してゐたのである。住民は概ね亞刺比亞人で、黒奴、波斯人、猶太人も少しは住んでゐる。

波斯灣の眞珠



波斯灣の眞珠 少女の亞比刺亞はこれ
遊牧生活の中心に生れた人である。その生活は、
青春の美、健康によつて、その層を揮散する。

首府マスカットは人口一萬、海賊岸のシャルヂャ一萬五千、カタルのエル・ビダ五千、パールン島のマナマ二萬五千、ムハルラク島のムハルラク二萬、コーワイトの首府コーワイトが三萬である。

○産業 以上の各地方を通じ主たる産業は眞珠の採取で多數の眞珠採取船が波斯灣で活動してゐる。其他漁獵、牧畜、棉花、果實、穀類の栽培が行はれてゐる程度に過ぎない。

○都市 オーマン國の

第五 佛領シエイクサイド

亞刺比亞の西南端バベルマンデブ海峡に臨んだ面積一千六百万方呎の猫額大の地で、人口約一千に過ぎない。一八七〇年頃佛國が占領して、土耳其との條約により獲得した地であるが、英國が右の佛土條約を承認せぬため、佛國は事實上の占有により佛領たることを主張して今日に及んでゐる。

政治上の地位

歐洲大戰を機として亞刺比亞の形勢には一大變化を呈した。土耳其は久しく瀕死の境に彷徨しながら兎に角老大帝國の餘威を以て亞刺比亞の各地に支配權を存し、その支配力の薄弱なるに拘らず回教國たる特殊の立場から王の王となり國の上の國として立つてゐたのであるが、大戰を機會として完全にその勢力を亞刺比亞半島から一掃され、その跡に英國の勢力が伸びると共に、一面には亞刺比亞人の亞刺比亞が出現したのである。すなはち紅海の波に洗はれる西南部の回教聖地地方にはネヂド及ヘヂヤス王國が亞刺比亞人によつて建設せられ、廣く沙漠地帯

英佛の係争地

土耳其帝國の覆没と英國勢力の伸張及び亞刺比亞人の出現

ので、メツカ、メヂナの聖地を目指して亞細亞、亞弗利加の各地から參拜する者は引きも切らず、メツカのカーバ殿堂を守るためには、各地からの代表者が詰め切つて居り、年々大回教會議をこの地に開いて回教擁護の道を議する慣例となつてゐる。だから眇たる半開國であるといふ理由から之を輕視することは出来ないのである。

次に亞刺比亞内部の問題として注意すべきはエーメン王國の存在で、ヘヂヤス國との境界も決定せず、その上にヘヂヤス、エーメン兩國の中間地帯に別に獨立の形を存するサツビヤ族がゐて、互に對抗する勢を呈し、近時ヘヂヤスとサツビヤは攻守同盟を結びてエーメンに對抗してゐるから、この方面の平和は何時亂れるに至るか測られない。然るに伊太利は最近エーメンと通商條約を結び外交官を交換し、英、獨諸國もこの國に經濟的勢力を扶植すべく活動中だと傳へられ、佛國も亦之を自己の勢力範圍に入れんと試みてゐる。斯く諸國の勢力が競合しては勢力均衡により却つて獨立が保持されるであらうが、歐洲各國が常に新天地を求めて活動するの狀は之によつても知らるべく、日本の如きも從來閑却したる亞刺比亞方面に新市場を開拓すべく積極的に乗出す必要が存するのである。

エーメン
王國の地
位

風俗

亞刺比亞人が殺伐で争闘を好むことは、昔も今も變りがない。殊に内地の住民はそれが甚しく、井戸と牧場とは其數が少ない爲に、毎時奪ひ合ひをする。又隊商を掠奪するのは當然の事になつてゐる。茲には主としてベドウィン人の風俗に就て述べることにする。

彼等は君主をサルタン、知事をワレー、長者をシーク、支配人をエミール、先輩をイマムと呼んでゐる。その南方に住んでゐるものは色が黒い上に、髪が黒くて硬く、眼も黒く、鼻は鷲鼻で、髭が少なく、恰度醜い日本人の格好である。

○服装 衣服は甚だ簡單に出來てゐて、胸を披ろげて著てゐる。時には下まで開き放しにすることもある。革の帶を締めて、毛でこしらへた外套を羽織り、頭に手拭を折つて載せ、その上に髪を卷く。手拭には黒か赤黄色の條が入つてゐる。足に草鞋を穿いて手に鞭を持ち、鞭を振り廻しながら歩いて行く。女は裾の廣くて寛やかな着物を着て、裳を引きすつてゐる。長い襯衣の上に濃青色の布を頭から足まで被つてゐる。覆面はしてゐないが、途で男に會うと、かつぎ布で顔を隠してしまふ。耳環や鼻環がない代りに、腕と腰と踵とに、青硝子や銀や赤銅や

争闘性と
掠奪性

服装

鐵の飾環をつけてゐる。富裕な階級の女は、もつと華美な飾をつけて盛装する。男の子は青年になるまで裸體で、女の子でも六七歳までは裸體で育てられる。

○武器 は亞刺比亞人の爲には重要な品である。身には鎧をつけて、劍と小刀とを佩び、槍を携へ、又鐵砲も所持する。劍は直刀と曲刀とあるが、何れも赤銅で形式に止り、鐵砲は火繩銃



比刺亞 嫁花のスールドの亞
の婚結は人スールドの亞
に婦新らかづ手が郎新時
らぶかを冠なうやの圖せ
婦新たつたと妻人、るせ
き起もて寢を冠のこは
のいならなはでい脱も
るあ

式のものである
然しその百發百
中の腕前は感心
すべきである。
槍は實に彼等の
主要武器で、或
は肩に擔ひ、或

刀鎗と鐵
砲

は小脇にかいこみ、或は手に提げるが、その保持法によつて、種族の見分けがつく。槍の切尖は極めて鋭く、柄は波斯や亞弗利加で産するケーン(蘆の一種)で出來てゐて、彼等は之を主に投げ槍として使用する。

料理に堪
能



てみてれらけ分に段二は會宴の人亞比刺亞 宴饗の亞比刺亞
の式本々愈とつ經程間時に更、後てつあが應饗の單簡は初最
るれき供が肴佳味珍、リ移に宴

○飲食 亞刺比亞人は小食で、その常食は至つて簡單である。一日一食、而も日没後にバターで小麦を煎り上げた麩麵を食べる。その間には棗を噛るか、黍製の菓子や摘まんで茶を喫む位であるが、金持は米の飯や魚類を食べる。然し來客に對しては大に馳走をする。一體來客を厚く接待するのは亞刺比亞人の通性で、先づ香を焚いて之を嗅がせ、次に珈琲を勧める。大切の客には珈琲の中へ香料の種を砕いて入れる。それから平常は滅多に口にしない駱駝や、鷓鴣や、雀の肉の珍味を出して馳走する。料理は皆女がするのであるが、一般に亞刺比亞人は料理が上手で、支那人と共に世界の名料理人である。

○住居 メツカ府や其他の都會には、歐米に劣らない大理石や、石造の大厦高樓が聳えてゐる

が、田舎に行けば、外觀こそ壯大だが、構造は粗末で、無格好な斷石を不器用に積み上げて、石灰で壁を塗つてある。室内は石の床で、それに泥土を塗つて、上に蓆を敷いてある。裝飾はなく、天井、廊下の構へも無風流極まる。更にかのベドウィン人のアール・ベズー族に至つては、一定の住居とはなく、峽谷に天幕を張つたり、又は土窟を掘つて住み、水草を逐うて遊牧してゐる。彼等はその住家を名づけてカーウーといつてゐる。その意味は珈琲を飲む家といふことである。

宗 教

回教の僧侶及び宗教上の儀式は、中央亞細亞や土耳其とは同様であるが、こゝでは主として回教の沿革と教義とに就いて語ることにする。昔の亞刺比亞が蒙昧野蠻であつたことは歴史に於て述べた通りで、隨てその宗教の如きも、偶像教の一種であつた。但しハニフと稱する團體だけは多少進歩してゐた。彼等は亞刺比亞從來の宗教に満足しないで、且つ私闘復讐の惡風に苦んだから、一大新宗教の起るのを待望してゐた。マホメットは實にこのハニフの一人として西曆紀元五七〇年にメッカに生れた。

回教の沿革と教義

ハニフの待望とマホメットの出現

マホメットは幼少の折、兩親を喪つて親戚の家に養はれてゐたが、赤貧のために何等の教育をも受けず、唯だ幼少の頃から荒野に出で、牧羊の傍ら自然の教化を受たばかりだ。九歳になると亞刺比亞の風習である



回教々祖マホメット

年一回の山入を始めて、メッカの近傍のヘエラの山中に隱遁靜坐して純潔なる天然と親み、沈思冥想して宇宙の神靈に接觸した。十四歳の時から隊商の群に入つて、度々シリヤやバレスチナに旅行して異境の風俗を見聞し、且つ猶

太教や基督教の思想に親むだ。

其後マホメットの思想が圓熟し、その天才が練磨された時、一方亞刺比亞の宗教は益々混亂した。彼れは再びヘエラの山中に入り、日夕樹蔭に靜坐して具さに斷食苦行を嘗め、遂に豁然

大悟した。彼れは民族腐敗の大原因は全く偶像崇拜にあるから、之を救ふには迷信を打破して唯一天神の眞宗教に歸せしむるより道はないと斷定した。マホメットがヘエラ山中で得た所の自覺信念は凝つて萬言の哥蘭經コーランとなつた。彼れは此の哥蘭經を懐いて蹶然ヘエラの山中を出てメカツに歸り、熱誠を揮つてアラ一(天神)の唯一神教を鼓吹した。是れ回教即ちイスラム教の世に現はれた始めである。

回教の教義は哥蘭經に明かである。その大本旨は神を信すべきこと、人の神に對する義務と人の人に對する義務とである。又た特殊の條節と認むべきは、『戰死した人は不死で樂園の鳥となる。妻は四人まではもつても差支ない。多くの婦に對して公平にすることが出来ないなら、唯一人の女を娶れ。神の眼に最も悪しき家畜(豚)は不潔である。之を食ふと身心共に穢るゝと知れ』等であるマホツメトが此教義を唱へ始めると、之れに對する非難攻撃は先づメツカの異教徒から起つたが、更に屈する色なく各地に説教を試みて盛んに偶像を罵倒した。そこでメツカ人の迫害益々加はつて遂には教敵に暗殺されやうとしたので、マホメットはメチナの信者に勧められ、已むなくメツカを去つてメチナに逃れた。メチナに来てからマホメットの布教は頗る好境に進んで、遂には神政廳を立て自ら首長となつて、政教共に人民に適するやうにしたか

ら、大に時人の尊敬を博した。

爾來マホメットは右手に殺人劍を掲げ、左手に哥蘭經を捧げてメチナの教徒を率ゐ、長い間猶太教徒や基督教徒と激しく鬭争した後、遂にメチナにゐた猶太人の勢力を全滅し、又基督教の勢力を亞刺比亞以外に驅逐した。次でメツカを征伐して、亞刺比亞半島を席捲し、メツカを以て回教の中心靈場として、一切巡拜者の模範的祭式典を制定した。

かくてマホメットは二十餘年の間、回教傳播の爲に奮闘して、小亞細亞から波斯、埃及の人民を説服統一して法王兼國王となつたが、六十三歳で圓寂した。マホメットの死後、次王及諸弟子は能くマホメットの遺志を紹いで、熱血を以て哥蘭經を染めつゝ、亞細亞、歐羅巴、亞弗利加三洲を征服して、遂に二億數千の信徒を作り回教を世界的宗教とした。

第七節 波斯

位置

波斯は亞細亞の西南部に位して、北は中央亞細亞のトルコマン共和國及び裏海、高架索の

ルメニヤ及びアゼルバイジャン共和國に接し、西は土耳其及び英國の委任統治地たるメソポタミア(イラク王國)に連り、東は亞富汗斯坦及び俾路直斯坦に境し、南西は波斯灣、南は亞刺比亞海に臨んでゐる。

面積人口

面積六十二萬八千方哩(百六十二萬五千餘方呎)を有し、人口は未だ正確なる調査が行はれてゐないため、或は千二百萬と稱され、或は九百萬内外に過ぎぬとも稱せられるが、約一千萬内外には達してゐるであらう。國土は裏海方面の諸州及び波斯灣沿岸地方を除けば、山脈に圍繞せられた高原で、海拔三千呎乃至四千呎に達する。裏海方面の諸州は雨量が多いけれど、高原地方は雨量に乏しく、氣候が大陸的で乾燥が甚しいため沙漠の如き不毛地が多い。

人種、宗教

國民の大部分はアリヤン系の所謂イラン種族で、この種族中には歐洲で新教育を受けた教養の高い者もあるが、近年まで國民教育が閉却されてゐた爲めに文盲者が多く、全體の約九割強

國土の狀
況

國民の九
割は無學

は無學である。イラン種の外には亞刺比亞人、蒙古人、韃靼人、トルコマン人等がある。國民の約二割は今尙ほ遊牧民若くは半遊牧民である。宗教は回教を信奉し、國民は寧ろ狂信的の傾向を帯びてゐる。

政治上の區劃

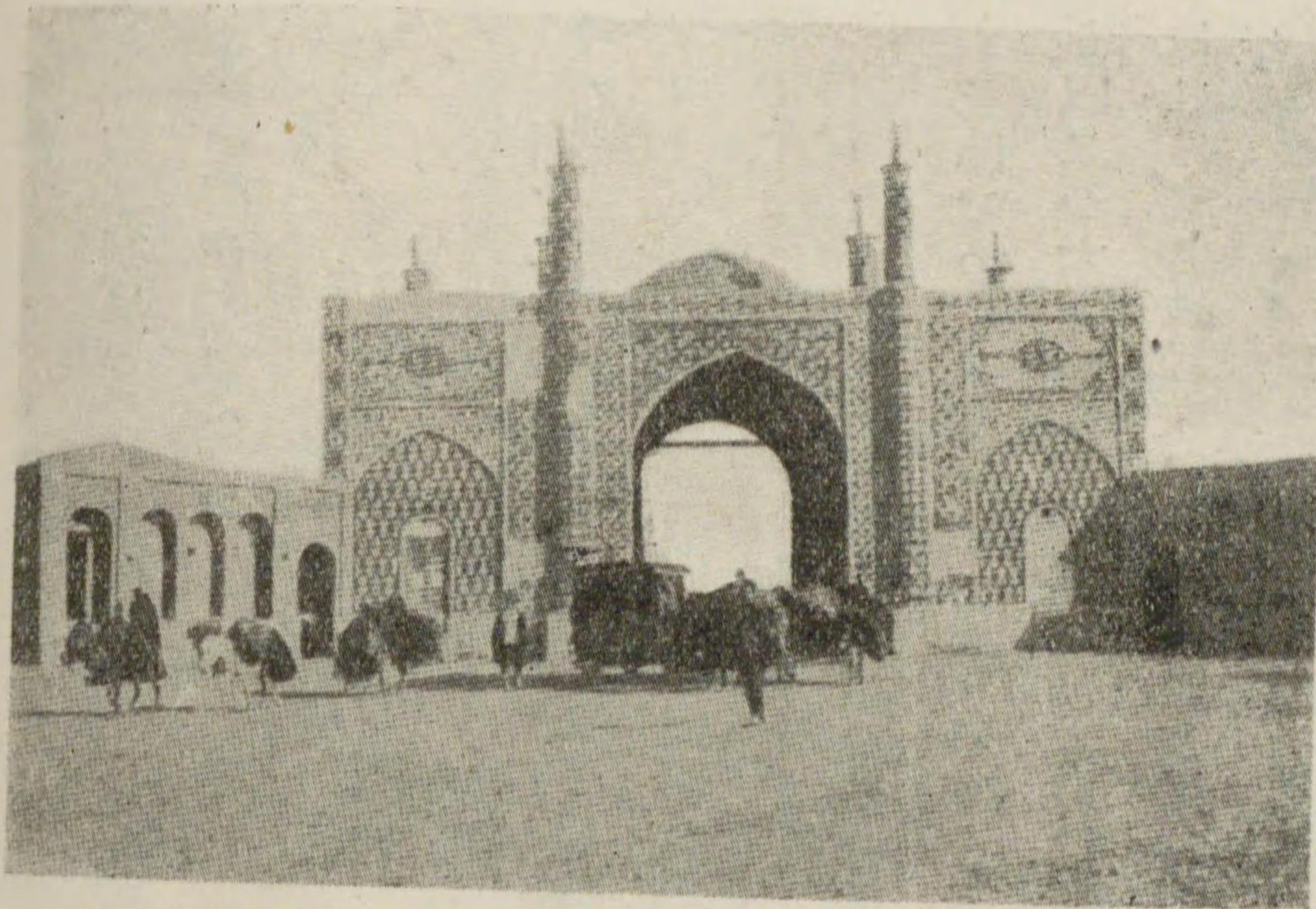
全國を二十六州に分ち、各州に總督を置き、州は更に小地方に區分して知事を置く。都市町村には長を置き、それらは土地に應じて或は民選により或は官選により任命せられ、遊牧民は酋長によつて治められてゐる。

王の王

國の政治は立憲君主制で、皇帝の稱號はシャール・イン・シャールと稱する。これは王の王といふ意味である。憲法上の立法機關は國民議會で、議員百三十六人、任期二年で、人口に比例し全國二十六區から選出せられるが、被選舉資格は三十歳以上七十歳を越えないものといふ最高年齢の制限があり、二十歳以上の男子は選舉權を與へられてゐる。國民議會は租税の賦課、減額及び廢止、經費の割當、起債承認、並に利權許否の決定權を有する。曩に國內諸種族の武装撤廢を實行し、中央集權主義の徹底を期してゐるので、國內は一般に平靜で能く秩序が保持さ

れてゐる。

首府テヘ
ラン



門城のシラヘテ 門城のシラヘテは諸方に設けられてゐる。門城は煉瓦で築き上げられた高きな壯麗な、まなまの街市は城壁を囲まれている。

都市

首府テヘランはエルブールズ山脈の南麓にあつて、周圍三十軒の城壁に囲まれ、人口二十五萬を有し、各種の教育機關も完備してゐる。米人經營の大學もあつて數百名の波斯人が在學してゐる。ダブリーズは國の西北部にあつて黒海方面への交通の要衝に當り、絹、米、綿、煙草敷物等貨物の集散多く、人口十八萬を算する。其他イスファハン(八萬)、ハマダン(七萬)、レシト(五萬)、ブシエール(五萬)、メシエド、ケルマンシア、ケルマン、カスザイン、シラズ、イズド、モハマラ、カシヤン、スルタナバド等

の諸市がある。

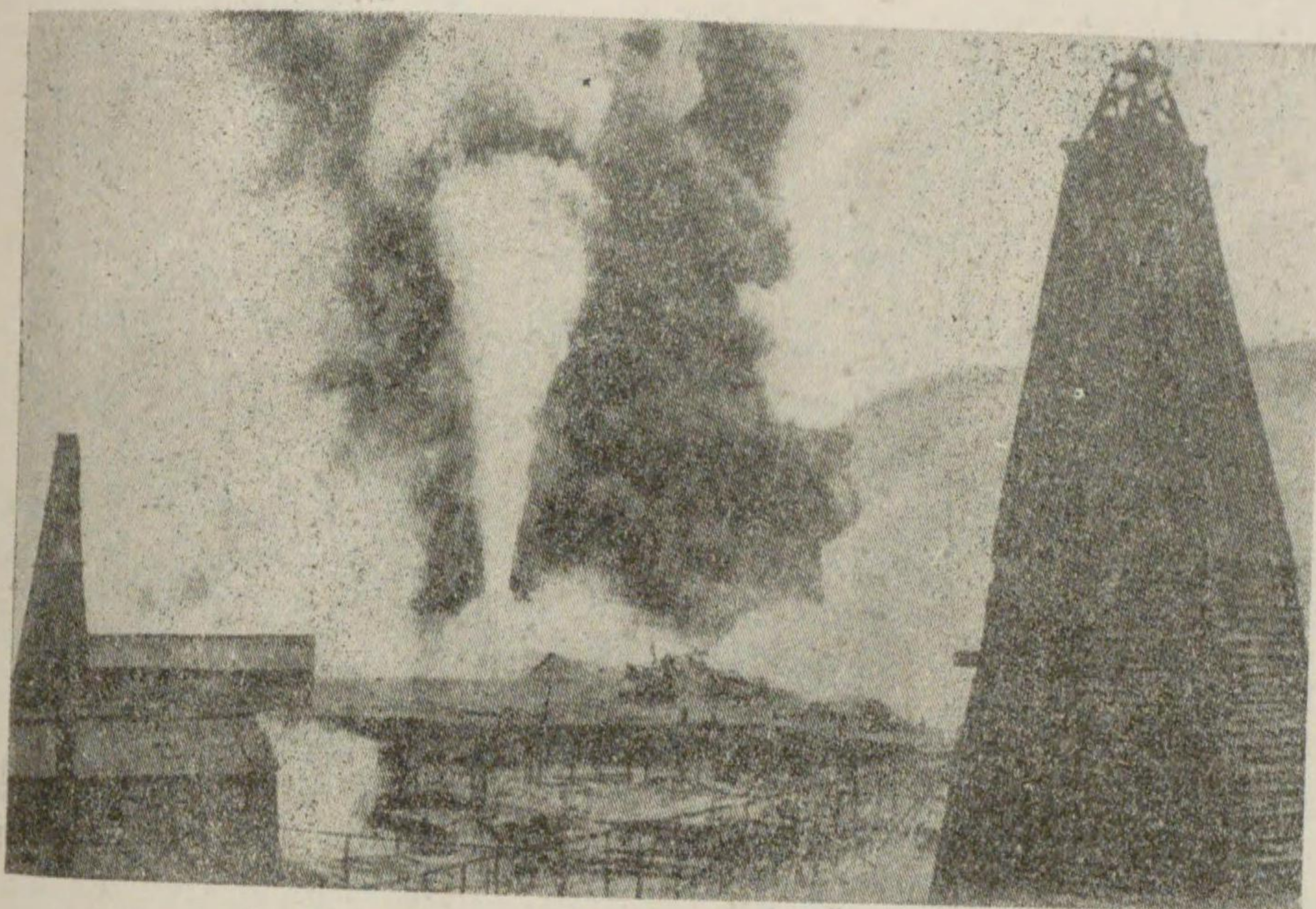
産業

棉花栽培
の進歩

國土内には不毛の沙漠地帯があつて、それらは産業上價值に乏しいが、全國を通じて農業が主要な地位を占め、小麦及び大麦が豊富に收穫される。裏海沿岸地方は氣候、水利及び地質ともに米作に適し、多量の米が收穫されてゐる。煙草も良質のものを産し、綿は纖維が短いのを缺點とされてゐたけれど、近年埃及および米國から種子を輸入して試作した結果良好の成績を挙げ、棉花栽培は國內産業及び外國貿易に於て重要な地位を占むることゝなつた。果物はメロン、杏、葡萄、林檎、梨、オレンジ、レモン、椰子を産し、乾果が重要輸出品となりつゝある。養蠶は以前に比し稍不振であるが、桑が豊富に存するので白耳義から技師を聘して改良を計つて居り、昭和三年頃日本からも蠶種を取寄せて改良に資して居る。畜産は交通機關不備の結果却つて發達し、馬、騾馬、驢、駱駝の飼養數が多く、特に緬羊、山羊の牧畜が盛んで、羊毛を原料とせるベルシヤ絨氈、クラサン織は世界的に有名である。金屬器、陶器も生産されるが、陶器は嘗て優良なものを産せしに拘はらず、現代では却つて兪惡となり名聲を失墜してゐる。

工業としては將來纖維工業が漸次發達を見るに至るであらう。

王座を占むる石油



田油の地方一タスヤン
ま。るあで油石は物産要重の斯波
の用掘探油石は構い高。よ見をのるゐてし出噴の油石で勢いじ
。るあでのも

石油は波斯の産物中の王座を占め、年産額一千萬噸内外を算し、一つの油田から年百萬噸を産するやうな豊富なものもあるが、約五十萬方哩の油田區域は英人經營のアングロ・ペルシャ石油會社が採掘權を有し、北部地方の油田に對しては、米國のシンクレヤー會社が利權を獲得して採掘に従つてゐる。鐵、石炭、銅、鉛等の埋藏量は豊富なるも、大部分は未開發の状態に置かれ、波斯政府は之を國有として鑛山資源の開發に必要な調査を行つてゐる。森林は裏海沿岸諸州に可なり廣大なる面積に亘つて存在し、燃料用の木材として露西亞に輸出する外、國內に於ける建築用材又は木炭として伐採され居り

クルチスタン方面にも豊富なる森林が存在してゐる。漁業は裏海に於て行はれ、生魚又は鹽魚として輸出され、波斯灣内には世界最良と稱せられる眞珠産地がある。

波斯では勞働賃金が低廉であるし、未開發の資源も多いので、外國資本家は波斯の産業に對する投資に關し近年漸く注意を拂ひつゝあるが、波斯としても國內の開發には外國資本の投下に依るの外なきことを了得してゐるやうである。

交通

○鐵道 (一) タブリーズ―チュルファ間及び其支線二七二哩、(二) 裏海沿岸バンドルガス―サーリ間八〇哩、(三) 波斯灣ホール・ムサ(バンドルシャブール)―アーワーズ間一五六哩が敷設されてゐる。以上既設鐵道の二と三とは連絡して裏海と波斯灣とを繋ぐ一〇六〇哩の鐵道となる豫定の下に起工されたのであるが、途中に大山脈や高原があつて工事頗る困難な爲め行惱みとなり、工事を請負つてゐる獨米シンヂゲートは豫定工費では實行不可能なる旨を述べ、目下善後策を講究中である。

○港灣 波斯灣にはブシール、マホメラ、バンドルアバス、リング、ジアスク、アバダン等の

外國資本家の注目

計畫鐵道

諸港があるが、何れも水深が浅くその上風雨に晒されてゐるので、交通上の要求を充すに足らず、新にホール・ムサ(バンドルシアプール)に築港工事を起し、波斯灣第一の良港とする計畫が進められてゐる。裏海沿岸にはバハレヱイ(舊名エンゼリー)メシエデイサール、バンドルガスの諸港がある。バハレヱイはバクーと直接貨客の連絡をする定期船の往復ある良港である。

○道路 一九二三年頃から交通の大動脈は自動車が行復するやうになつたが、大體に於て道路不良のため、依然駱駝及び驢馬による貨客の輸送が多い。

要するに現在では交通運輸が不便であつて、歐米及極東に對する取引上の交通にはバグダード鐵道その他第三國を通過しなければならぬ立場にあるのは、國際貿易上甚だ不利である。

○航空 獨佛兩國は久しく波斯に於ける航空上の特權獲得を競争してゐたが、先年遂に獨逸のユンケル商會が飛行郵便輸送の特權を得、テヘランを中心にして國內及び國外への航空事業を開始してゐる。露西亞と波斯の間にも航空協定が成立して、兩國間の旅客及び郵便物が飛行機により輸送されてゐる。

航空利權
は獨逸が
獲得

日本との關係

東に日本
西に波斯

我が政府は大正十三年波斯へ視察委員を特派し、其後無條約國のまゝ、外交代表委員を駐在させてゐたが、昭和四年三月通商暫定取極が成立しテヘランに於て文書の交換を終へ、我が公使館はテヘランに設置された。世界大戰に際し初めて日本商品は波斯に輸入され、爾來貿易状態は増進の趨勢を示してゐる。波斯國民の對日感情は甚だ良好で、彼等は歐米各國を除いて立憲君主國は「東に日本、西に波斯」だけだといふ誇りと兩國共に基督教國でないといふ宗教的觀念から特に親みを持つてゐる。日本からの輸出品は綿糸、陶磁器、綿織物、小間物、雜貨、硝子類等で、波斯から日本への輸入品は主として石油、阿片である。一九二九―三〇年度の對波貿易は左の如くである。(單位千クラン)

輸出 四、〇〇一 輸入 一七、九九三

註一クランは日本の約二十錢

歴史

波斯は紀元前六百年頃、アッシリヤ帝國の一屬領であつたが、キロス大王が出てメディア、アルメニア、メソポタミヤ、シリヤの諸國を併合したので、東方の強國となつた。當時波斯の版

往古の大
波斯

圖は、東は印度河より西は多島海に及び、北は阿母河、裏海、黒海より南はエチヲビヤの境に達したが、後希臘と戦つて敗北し、次で歴山大王の侵略を被つて滅びた。

歴山大王は希臘と波斯とを加へて東西兩洋の大帝國を建設したが、大王の死後國內再び亂れ、其部將セリュクスは波斯及び小亞細亞の地に王となつて、國を條支シリヤといつた。後安息國が波斯の地に興つた。安息の名は支那人の音譯で、『アルシヤク』と讀むのである。これは國王が代々アルサケスであつたから起つたのだ。安息は屢々羅馬と抗争し、國勢頗る盛んであつたが、アルサケス十三世の時、サマニ朝の爲に滅された。

サマニ朝は拜火教を中興し、アルメニアを略取し、羅馬を破つて之を朝貢させた。マホメツトが亞刺比亞に起つて、四方を攻撃するに及び、サマニ朝も亦其攻撃を受けて滅亡し、拜火教國は一變して回教國となつた。

マホメツトが死んで、回教國が二つに分れた時、波斯は東回教國に屬した。後セルジユーク土耳其の版圖に歸し、次にゴール家やガズニー家の王朝を経て、花刺子模ホラズムのムハメツドの版圖に歸したが、蒙古の成吉思汗の爲に併呑された。成吉思汗の孫の旭烈兀フラウクは、波斯及土耳其を統一して伊兒汗國イルカニと稱し、ウルミヤ湖畔のマラグワに都した。後國勢が衰へて、帖木兒チムールの爲に滅

され、波斯は帖木兒帝國の一部となつた。

帖木兒の死後、波斯は帖木兒の末子のロークが治めてゐたが、後イスマイル・シヤアといふ者が回教徒の力を借りてソフイ朝を起し、大に國勢を振興して亞富汗を征服し、アルメニアをも併せた。後百年を経て國政の紊亂に乗じ、亞富汗人が叛を謀り、國都を陥れ國王を殺した。そこでソフイ朝の遺族のタマスブはナヂール將軍の力で國を恢復したが、後ナヂールの爲に篡はれた。

ナヂール・シヤアは東、印度を討つて印度河畔の地を奪ひ、西、土耳其と戦つて領土を擴めたが、性質が殘忍なので、國民の怨みを受けて弑され、其一族が互に相争つて、國內が大に亂れた。そこでゼンドの會長ケルム汗が出て之を統一した。ケルム汗は能く波斯を中興して國威を揚げたが、其子の時に兄弟一族が互に争つたので、波斯は再び亂れた。此時アガ・ムハメツドがマザンデランから起つて、波斯を統一して王位に即いた。之が最近まで續いた波斯王朝の始祖である。

ムハメツド王の時以來、波斯の北境は屢々露國の侵略を受けて、チヨルジャ及ダゲスタンを奪はれ、後裏海沿岸の要處も過半露國に占領せられ、且つ 그리스 タン媾和條約で裏海には軍艦

を浮べる事が出来なくなつた。爾後十三年の間論争紛糾絶間なく、遂に一八二六—二八年の露波戦争となり、次でトルコマンチャイの媾和條約で波斯はエリザン及ナキチエザンを露國に割譲し、三千萬留の償金を出した。之で高架索は南西の一隅(土耳其領)を除く外、悉く露國のものになつた。後露國のアシユラダ島占領事件が起つて、兩國の間は再び縋れを生じたが、アトレック河を以て兩國の境界として局を收めた。其後波斯は英國がカルン河航道の許可を強要したので、露波密約を結び、露國に波斯鐵道の敷設權を與へ、露國は又波斯の借款に應じて經濟上の勢力を得、次でテヘランに哥薩克騎兵旅團を建設した。

波斯と英國との關係は一八〇一年の英波同盟に始まつてゐる。之は那翁一世が露國と同盟して印度遠征を企てたので、英國が波斯と力を協せて、之を防ぐ爲に結んだ攻守同盟であつた。然るにアミアンの媾和條約が成立して、那翁の印度遠征の計畫は當分なくなつたので、英國は安心して、此同盟を反古にしてしまつた。然るに一八〇七年のチルシットの條約で、那翁は歴山一世と通謀し復た印度遠征を企てたので、英國は大に狼狽して百方波斯の歡心を買つて、遂に一八〇九年再び攻守同盟を約した。其後露國の波斯侵略の念は益々強くなつて、遂に露波の戦となり、波斯が敗れて 그리스タン條約を結んでも、英國は波斯を助けなかつたので、波斯は憤

波斯と英
國との關
係

慨したが、露國への對策上、翌年更に英國と同盟條約を結んだ。其後十年を過ぎて三たび露波戦争が起つたが、英國は此時も知らぬ顔をしてゐたので、波斯は愈々英國の不信を憤慨した極、遂に露國と提携するやうになつた。實に波斯は三度英國と同盟して、三度英國に賣られたのだから、茲に至るは當然である。

次で波斯は露國の後援の下にヘラートを遠征したが、忽ち英國の武力干渉を受けて兵を引き揚ぐるの止むなきに至つた。然るに波斯王はヘラートのことが思ひ切れぬ爲め再び兵を出したので、又々英國に攻撃されて窮迫し、佛國の仲裁で一八五七年巴里で、英國と媾和條約を結び、向後ヘラート又は亞富汗の地に覇權を主張しないことを盟つた。

次いで一八七一年に、カラート汗の領地とメクランの境界とに關する英波協約が結ばれ、翌年セイスタンの境界に關して亞富汗と紛議を生じたのを英國の仲裁で解決をつけ、一八八二年奴隸賣買禁遏に關する英波協約を締結し、一八八八年英國にカルン河の航行權を與へた。然るに一九〇七年八月三十一日に至り、英露兩國は波斯に於ける各自の勢力範圍を決定し、中間に僅かな瘠地を残して緩衝地帯とし、同時に兩國で波斯の財政を監督することにして、波斯を手も足も出ないやうにしてしまつた。此時兩國の取つた遣方は波斯には勿論何等の斷りもなく、

英波協約

極秘の間に其協定を成立させ、迅雷疾風、一夜の間に實行の手配をした。波斯では翌朝其通告によつて、始めて之を知つて憤慨したが、どうすることも出来ないで、泣寝入りとなつてしまつた。

憲政運動の消長



波斯王斯波 ンカザリ王
英雄の風を備へてゐる。
身長六尺以上、威風凛々とした眞に
かまら身起して王位に即位したる
波斯現王の一兵卒

止するに至つた。やがて一九〇九年に至り再び憲政派が勢力を盛返してムハメッド・アリを退位せしめ、皇子アマッド・ミルザを擁立して憲政を恢復し爾來國內には激烈なる政争を繰返し、

一九〇六年國內に憲政運動が起り、専制政治に對する反抗の氣運が漲つたので、同年ムサファルド・ヂン帝は憲法を附與したが、翌年ヂン帝崩じムハメッド・アリが帝位に即くに及び憲政反對派が擡頭して一時憲法を廢

新王推戴

政界は親英派と親露派との對立状態を保ちつゝ屢々政變を捲起したが、一九二五年國民議會は時の國王アマッド・カチャールを退位せしめ、且つ憲法會議を開き王朝に關する憲法規定を改正せんことを議決し、憲法會議の任務を終るまでの間、時の總理大臣リザ・カン・パーラザイを臨時政府首領に任命した。憲法會議は同年十二月六日開會せられ、リザ・カンを國王に推戴し、同王朝をパーラザイ王朝と稱し男系の男子をして王位を繼承せしむることに決定した。同月十五日リザ・カンは國民議會に於て宣誓式を舉行し、翌十六日王位に即いた。リザ・カン・パーラザイはジラン州の農家に生れ、天稟の偉才を抱いて遂に王位に昇つた波斯近代の英傑で、王位に即いて以來銳意國政の刷新を圖り、その治績は刮目すべきものがある。

政治上の地位

近代に於ける波斯は國情甚だ振はず、外來の勢力に掀翻されて殆ど獨立國とは名ばかりのやうな存立を續けて來たのである。歐洲大戰の起つた當初には、英露兩國とも土耳其に對する政策上より波斯を嚴重に拘束する必要を感じ、一九一六年波斯の處分に關する英露密約が締結され、四圍の情勢如何によつては波斯の獨立を奪ひ、英露二國で適當に處分してしまつたかも知

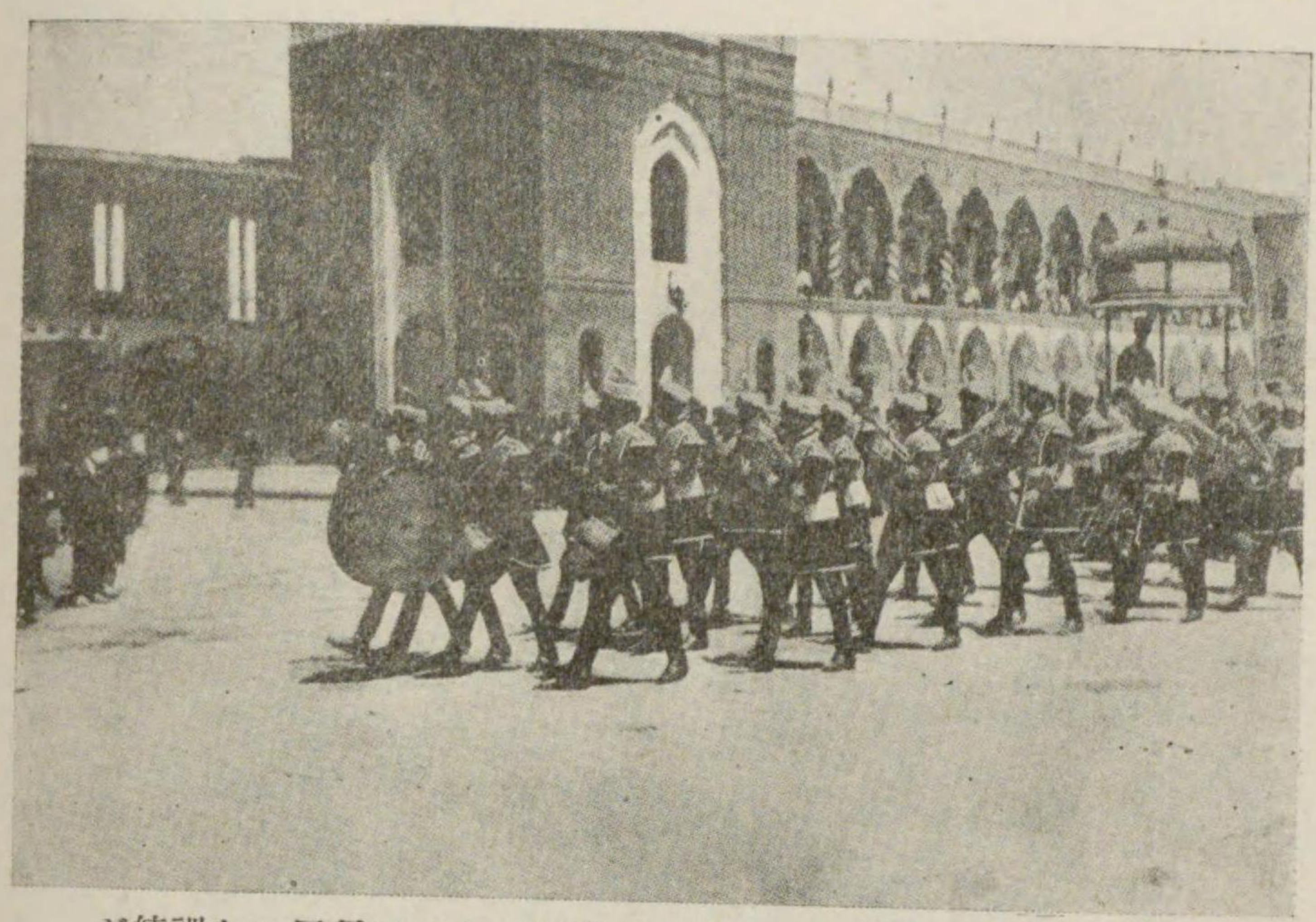
危険なりし國情

られぬ程の危険に曝されてゐたのである。

然るに偶然にも露國に革命が起つて、右の密約は一

片の反古と化し、却つて露國は從來の態度を一變して全然不干渉の方針を取るに至つたのみならず、波斯の治外法權撤廢を承認して全然對等國たる待遇を與へるに至つた。從來英露兩國の優勢なる國力の下に活殺自在の運命を負はされてゐた波斯としては、先づその一方の勢力が崩れたのであるから、それによつて頓に一道の活路が開かれた譯で、奮然起つて國運の打開に猛進することゝなつた。しかし、英國は夙に波斯の死命を制するだけの實權を握つてゐたのだから、たやすく之を拋棄する筈はなく、表面波斯に獨立國たる名目を與へておいて事實上の權利は飽くまでも確保して行くといふ方寸の下に、

歐洲大戰
後の國運
の打開



波斯軍の隊 波斯は四萬の常備軍があつて行進訓練が加へられ、眞實の規程は波斯軍隊がヘラツ市を進行してゐる。

英國の對
波野心挫
折

一九一九年先づ英波協定を結び、英國は波斯の獨立保全を維持することを承認する代りに、波斯は内政改革のため英國人を顧問に聘用することゝし、これによつて從來維持し來つた實權を確保すべく心掛けた。然るに該協定は波斯議會の議に附せらるゝに及び、波斯の主權を侵害する條約であるとの反對論沸騰し、議會が斷然否決したゝめ協定は遂に不成立となり、英國の對波野心は敢なくも挫折してしまつたのである。これは實に波斯に取つては破天荒の英斷であつたと共に、事實の上に國際的地位の向上せることを内外に向つて宣明したものである。かうした氣運に乗じて波斯國民の國權回復運動は彌々熱を加へ、列強に對する主權喪失の不名譽から免かれるべく、國際社會に對し熱心にその希望を主張し、一面内政の整理改善に邁進しつゝあるのである。

英國は夙に波斯に於ける油田の利權を獲得してゐる上に波斯帝國銀行の實權を握り、財政經濟上の死命を制する立場にあるけれど、波斯は之を排除すべく、或は米國や白耳義から財政顧問を招聘し、又は新に國立銀行を設立して財政上の獨立を確保せんとする等拮据經營餘念なく英國も亦表面何等の高壓的手段を以て臨む能はざる事情に餘儀なくされ、聊か煩悶を重ねてゐる状態である。殊に現國王は元來政治家の出身だけに舊王朝の諸王とはその選を異にし、國民

現王の英

文化の向上に最も留意して、教育施設や交通機關の發達等に努力を傾け、漸次國情の一新せらるべき可能性のあることを示してゐる。日露戦争以來、波斯國民が日本に憧憬する感情は一般に濃厚で、諸事日本を範として進まうといふ觀念は朝野の識者間に盛である。彼の新興土耳其と同じく、國民主義の上に立つて健全なる獨立國家の實を擧げやうとする希求は隨所に漲り、それが回教徒特有の狂熱的精神に彩られてゐるだけに英國は甚しく脅威を感じ、これが反感を刺戟して萬一波斯國民をして劍を取つて起たしむる如きことゝなれば、印度方面も收拾し難きことゝなるので、輕々しく波斯に壓迫を加へることの出來ぬ事情にある。是れ英國の對波政策が著しく緩和の状態にある最大の原因である。しかも波斯が解放されんとして、尙ほ且つ解放し盡されないのは、幸か不幸か波斯が豊富なる石油産地であるためで、石油によつて波斯は尙尠からざる束縛を受けてゐる。因つて茲に少しく石油利權について記述を試むることゝする。

抑々波斯の石油利權は、濠洲人ダルシーなるものがテヘラン駐劄英國公使の斡旋により一九〇一年波斯國王より六十箇年の期限で廣大なる油田の探掘權を得たのに始まる。ダルシーは一九〇三年資本金六十萬鎊を以て、ザ・ファースト・エクスプロイテーション・コンパニーを組織し、波斯政府に會社の持株二萬鎊に相當するものと現金二萬鎊を提供し、鑛山税として純益の

石油利權
の沿革米國も油
田利權獲
得

一割六分を波斯政府に納付する條件の下に事業を開始した。當時ダルシーの得た油田利權の面積は約五十萬方哩で、波斯總面積の三分の二を占め、同利權區域外には僅にアダルバイジャン、ジラン、マサンドラン、アストラバード、コラサンの五州が存するのみであつた。ダルシーは次で別にバクチアリ・オイル・コンパニーなる別會社をも創設して探掘に手を擴げつゝあつたが、一九〇九年右兩會社の利權と事業とを擧げて英波石油會社に讓渡した。而して英國政府は英波石油會社と交渉の結果、遂に會社の株券の三分の二を所有することゝなり、茲に愈々波斯の石油利權は事實上英國政府の手中に歸することゝなつたのである。然るに波斯の石油産出量が甚だ豊富で、世界の市場へ頻りに進出するに對し、不安を感じるに至つたのは世界第一の石油産國たる米國である。米國は波斯石油のため米國石油の販路が侵蝕せらるゝこと漸く著しきを感じるや、先づ一九二一年スタンダード石油會社をして英波石油會社の利權區域外にある北部地方の油田利權の獲得に努めさせ、ほゞ其の目的を達したが、英國は之を知つて波斯政府に干渉を試み、中途に破約せしめてしまつた。併し米國は尙ほ斷念し得ないで、更にシンクレヤ石油會社をして利權獲得に努めしめ、遂に波斯政府當局を動かして探掘權を得た。これに對しては國內に反對論が沸騰し、折角の富源を悉く外國人の手に委ぬるは國家の不利益で且つ國

辱であるといふやうな主張が勢力を占め、結局北部五州中の一州だけは波斯が自ら採掘するといふことで局面を糊塗し、シンクレヤー會社が四州に於ける採掘權を獲得した。斯くして石油利權の殆ど大部分が外國人の手に歸してしまつたのである。

波斯の地勢は一帶に高地が多く、氣候が大陸的で乾燥が甚しく、國內各地に沙漠が存する状態であるから、豊饒なる農作地が多くない。従つて國富の上よりして石油は最も重要な産物であるに拘はらず、斯く外國人の利權となつてしまつたのは甚だ惜むべく、波斯將來の發展上非常に不利益なるはいふまでもない。而して米國が新に石油利權を得た結果は、漸次國內に米國の勢力を増大することゝなるのも争ひ難い所である。英波石油會社は上述の如く英國政府が大株主である上に、一朝有事の際には會社の事業全部を擧げて政府が管理することゝなつてゐる由であるから、これによつても英國の燃料政府が周到なる用意の下に準備されてゐることを察するに足ると同時に、波斯が斯の如き事情の下に英國の勢力を排除し得ない關係に置かれてゐることを知らねばならぬ。

元來イラン地方は英國が自己の勢力下にある東西の地を連絡せんとする中間に挟まれて、その併呑を免れ難き位置に据へられ、先づ最も力の微弱な俾路直斯坦がその爪牙に掛けられて印

惜むべき
石油採掘
權の讓渡

時勢の變

度の一部となり、やがて同じ運命が亞富汗斯坦か波斯かの上に来るべく危惧されてゐたのである。若し英國の呑噬を免れても、露西亞が印度に出でんとすれば、これ又イラン地方はその通路に當れる關係上、決して安泰なるを得ざるべき危険に曝されてゐたのである。この危険を救ふたのは一に時勢の變化そのものに外ならぬが、今や領土を全ふする上に於て漸く危険が去つたといつても、自ら國力を充實すべき産業上の活動に束縛を加へられてゐたのでは、國家として完全なる發達を期し難いのであつて、波斯のためにその新興的氣運を慶する者も、この點に想到すれば甚だ遺憾を感ぜざるを得ないであらう。若し波斯の石油が完全に波斯國民の手に歸してゐたならば、波斯はこの新氣運に乗じて飛躍的の發展をなし、イラン高原の上に再び輝き渡る新文化を建設するに、より一層の便宜を得たに相違ない。英波石油會社の利權は既に遠き既往に設定されたものであるから致方はないとしても、近年まで保持してゐた油田をも米國會社の利權に委ねるに至つたことは、新興波斯として決して得策の道ではなかつた。しかしながら波斯に於ても近年國民主義の思潮は澎湃と湧き返り、國民は熱烈なる愛國心を基礎として經濟的發展を圖りつゝあるのであるから、將來の事は敢て悲觀するにも當らず、必ず相當の國家的發展を示すに至るものと豫期される。當面の急務としては萬難を排して南北縱貫鐵道の豫定

南北縱貫
鐵道の必
要

計畫を遂行することであつて、産業的に恵まれてゐる裏海沿岸地方と南部海岸とを鐵道で連絡し、國外との交通貿易を促進するに至れば、高原地帯に閉ぢ込められてゐた國民の精神上にも好影響を與へ、併せて又國內の經濟資源を開發するに多大の便宜を得るに至るであらう。

西南亞細亞に於て新興の氣運を示せる諸邦を見るに、土耳其、ネヂド、波斯、亞富汗の各國は、何れも回教徒によつて形成された國家であつて、國情が亦頗る似通つたものばかりである。各國相互の利害關係は比較的に少いけれど、回教國たる點に於て一脈相通する所があり、歐洲の勢力の押寄せんとするを防止せむべき立場にある點に於ても、おのづから聯携を有利とするのである。土耳其は回教國として自らその宗教の社會的に及ばず弊害に目覺めて改革を行つたが、波斯の如きも國民の知識と能力とを進めるためには舊い宗教的因襲から脱却し、國民の素質を向上する必要がある。曩に波斯の國民議會に於ては、普通教育費として地租収入の七分の一を割當てることを議決し、義務制に依り新式教育を國民に授ける方針を取つて居り、一方には閨房ハレムにのみ蟄居して、外出時にはベールで覆面してゐたやうな婦人の間に、新しき解放運動が起りつゝある。これは舊い神秘の國に開明の曉鐘が鳴り響き初めたことを物語るもので、甚だ喜ばしき現象である。殊に波斯は古き文化の歴史を有してゐるだけに、國家に對する國民

開明の曉
鐘鳴る

の傳統的信念はおのづから養はれてゐるから、爲政者の指導宜しきを得れば、案外速に文化の進展を期することが出来ると思ふ。

風 俗

○民情 波斯の中堅をなすイラン族たる波斯人は往古剛健雄大なる國民精神に富む民族であつたが、現在では甚しく利己的となり且つ迷妄なる宗教の囚虜となり、そして時代の文化の流れから全く取殘されたやうな民族となつてゐる。しかし詩に對しては不思議に深い趣味を持つ國民で、無學な者でさへ古來波斯が産んだ詩人の詩句を暗誦してゐるといふやうな床しい性情を持つてゐる。回教寺院及び回教婦人に對しては特殊な觀念を有し、異教徒には斷じて回教寺院に足を踏み入れさせず、若し回教婦人に對して寫眞の撮影をでも企てやうものなら如何なる亂暴を加へられるか計られない。外國から來た旅行者が波斯婦人を撮影しようとして、ひどい暴行を加へられたやうな事例は澤山ある。

○服装 男は高いアストラ干アストラカンの黒い羊皮の帽子を被り、袖の寛濶な襟の廣い袍衣を着て、野袴のやうなだぶ／＼した股引をはいて、淺い革靴を穿いてゐる。然しハイカラな分子は帽子だけが

詩を愛好
する國民

波斯帽で、著物は洋服を着てゐる。女は頭から足先まで搔取りで蔽ひ裏んで、眼の所は薄い紗



波斯の成年式 波斯のアサテ教徒は七歳から一十歳までの間に成年式を擧げ、その儀は森厳な重流階級の者

で窓を作つてゐる、途で男に逢ふと顔をそむけるか、掩ひ隠くしてしまふ。男女とも一體におしやれで、みなりは瀟洒の風をした者が多い。
○住居及飲食 家屋は昔ながらの構造で建築には煉瓦を用ひてゐる。この煉瓦は土砂に鹽水をかけて太陽で乾かしたもので脆弱である。近頃は木造の家を建て出したが、要するに波斯の家屋は粗末で寒暑を防ぎ難い程度のものである。
食物の主なるものは米で、之を羊脂で爨ぐ。副食物には羊肉や、野菜や、肉麩がある。食事をする時は左手で手攫みで口に移す。右手は汚い物を取扱ふものとしてゐるからである。回教國ではコーランにより飲酒を禁せられてゐる

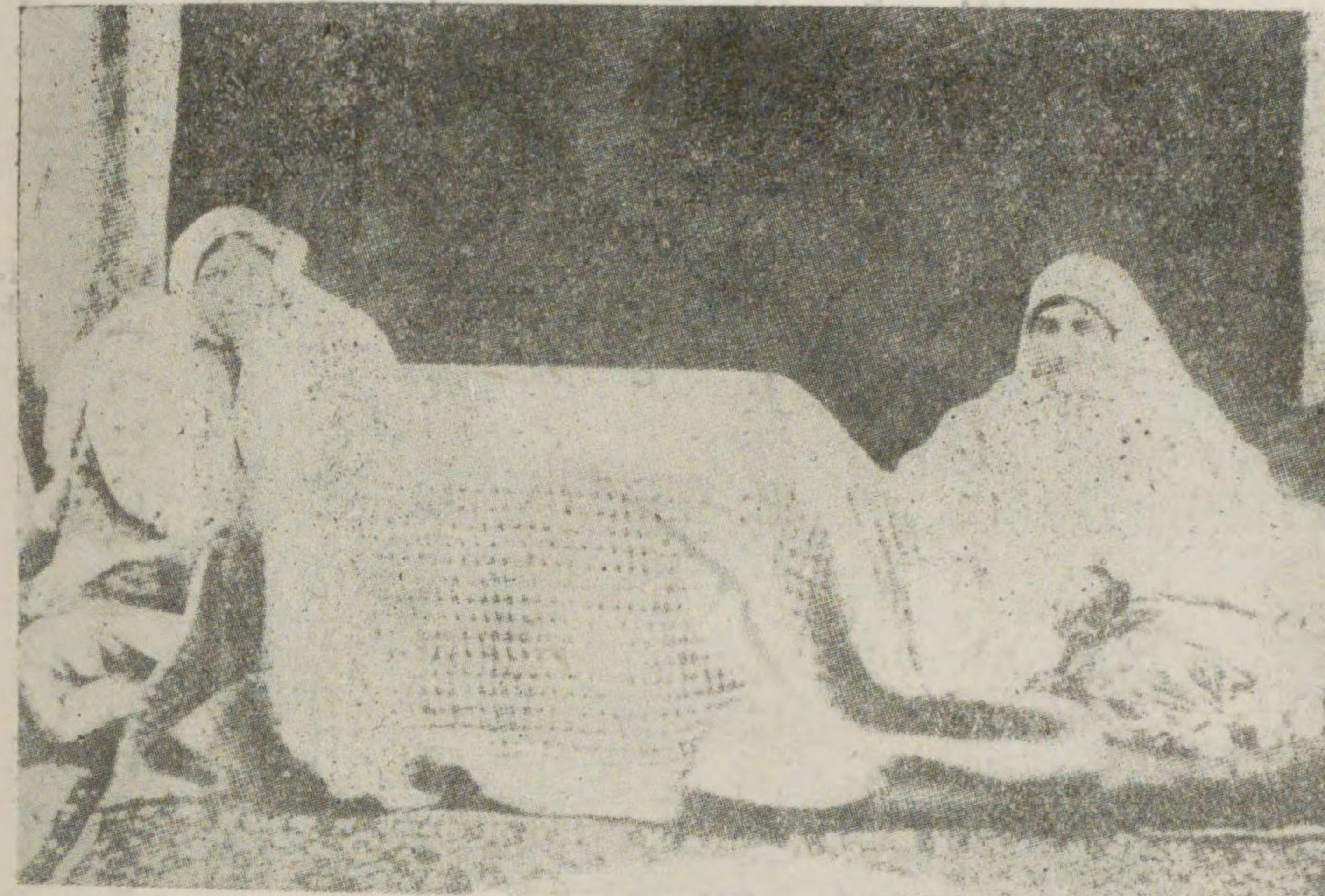
が、波斯人は葡萄酒やアラクと稱する酒を愛飲し、又阿片を喫する者が多く、阿片税は國庫の重要な収入の一つになつてゐるけれど、これがために國民の健康は著しく害せられつゝある。
○婚姻 男は數妻を持つことが出来る。三人までが正妻で、四人目からは閨妻である。正妻は身分家柄相當の所から貰ふ。結婚の日は花婿の家では無数の蠟燭を點じ、室内には金銀の剪綵花を飾り、庭に焚火をして、歌を唱ひ踊りを踊つて花嫁の來るのを待つてゐる。花嫁は轎子か又は馬に乗つて、多くの燭火に擁せられて來る。結婚の時は縱令貧乏人でも三日間は宴會を續けて大振舞をする。
○葬式 葬式は上流社會の外は極く簡略である。屍骸は釣臺の上に載せて、一枚の白布を覆ひ、人足が昇つぎ、葬送者は炬火を手にして高聲に囃し立て、足速やに行く。屍骸は深さ五六尺の穴を掘つて埋め、上に土饅頭を造り、別に墓石は建てない。

宗 教

宗教はセミテ人が基督教を、スンドリ人がスンドリ教を奉ずる外は、殆んど全部回教（概ねシヤ一派）であるが、一部には今尙太古ゾロアスターの開いた拜火教を信仰してゐるものがある。

○回教 回教の一年の祭日には教祖の元旦(タワルテ、ヘイガンバル)、國王の誕生日(タワル

王家の儀
式



燧炸斯波 燧炬にうやじ同と本日 はて斯波いし嚴のき寒の冬
。ぐ凌をき寒てつ造を

テ、ホマヨン)、教祖の誕生日及命日(タワルテ、ヘイガンバル)、斷食季(エイデ、ラマザン)、イスマイル忌日(コルマニ、イスマイル)、七十二教徒の忌日(アザ、アダリー)、王家の元旦(エイデ、ナフルーズ)等がある。教祖の元旦は回教曆の首日である。イスマイル忌日に王家では駱駝を殺して、其肉を大臣始め百官に賜はる儀式がある。當日は王宮の中庭に崇嚴な祭壇が設けられて、先づ僧侶の讀經がある。それが終ると選拔された數十人の若者が、手にく磨ぎすました、刀を持って出て来て、大導師の一喝に従つて、勇み躍つて駱駝をすた／＼に切斷する。此時王は大禮服を着飾つた親王始め百官を従へて、祭壇の下で參觀するが、肉

の切斷が終ると直ぐに之を分配してやる。此日は一般人民も亦、駱駝の代りに羊を用ひて此式を行ふのである。

拜火教の
教義

○拜火教 拜火教はエズドを根據地としてテラン附近に行はれる宗教で、其の信者をパーシといふ。全波斯を通じて僅に八千餘人の信徒しかないが、彼等は異教徒としての迫害にも屈せず、熱心に信仰の道を盡してゐる。拜火教は釋迦や、耶蘇や、マホメット以前に創始された宗教で、しかも其説く所は現今文明人の奉ずる宗教の主義と一致する點が少くない。

教祖ゾロアスターが人跡未到のウシダリナの山頂で、三十年の苦行を積んだ後、山を下つて始めて説教した時、次のやうに説法した。

我は今此處に集れる衆徒に語らう。我は今汝等にマスタ(萬能者)の聖語、アブラ(上帝)の讚美、善良なる靈の歌、火焰より出づる壯嚴なる眞理を語らう。汝は神の法則に従ひ、敬神の念を以て火の光を觀よ。善男善女よ。今日汝等の信仰を定めよ。光榮ある祖先より出でたる爾等は予と俱に覺醒せよ。

ゾロアスターは今を距ること三千五百年前、メジア國レー州に生れた。父はブルアスパーといひ、母はドクトと呼んだが、二人は永らく子の無いのを歎いて、神に一子を授け給へと祈願

した。一心神に通じて生れたのが、即ちゾロアスターであつた。彼の教理は純粹の一神教で、アブラとマスダとを信じて、物質界に於ける生活と、未來界に於ける靈魂の不滅及肉體の復活とを説いた。

此の宗教で感心なのは、信者が眞面目で、潔癖で、衛生思想に富み、家庭が如何にも平和なことである。だから信者は従つて職業に精勵して、各地方に發展する。今では歐米人中にも之を研究してゐる者が澤山ある。

第八節 亞富汗斯坦

位置面積人口

國內は山地多く河流に乏し

亞富汗斯坦はイラン高原の東北部にあつて、波斯の東方、印度の西北隣にあり、北はソヴェート聯邦の中央亞細亞、南は俾路直斯坦と境を接してゐる。面積は二十八萬一千八百方哩（七十三萬方呎）、人口は一千萬を算する。ヒンヅークシ山脈が國內を東西に走つて分水嶺をなしてゐるので山地が多く、大なる效用をなす河流はないが、住民はカブール、ヘリ・ルドの兩河谷

及び南部の谷地に集中して居住し、山地々方の人口密度は甚だ薄い。

政治上の區劃

國內をカブール、カンダハー、ヘラート・マサリシヤリフ、カタガン、バタクシヤンの五州とジャラバッド、ファラ、メーメナ、ホストの四小州とに區劃し、各州は太守が州長官となつてゐるが、カブール州だけは國王の直轄である。

政體は立憲君主制である。内政上には尙ほ封建制度や族長政治の遺風が残存し、特に山岳地方に於ける各種族は半ば獨立した状態を呈し、各種族の占むる地域に於ては、これらの種族が選出せる酋長なるものが廣汎な權利を有してゐるが、近年に至り漸次中央集權の徹底を期してゐる結果、中央の主權は著しく鞏固となつた。

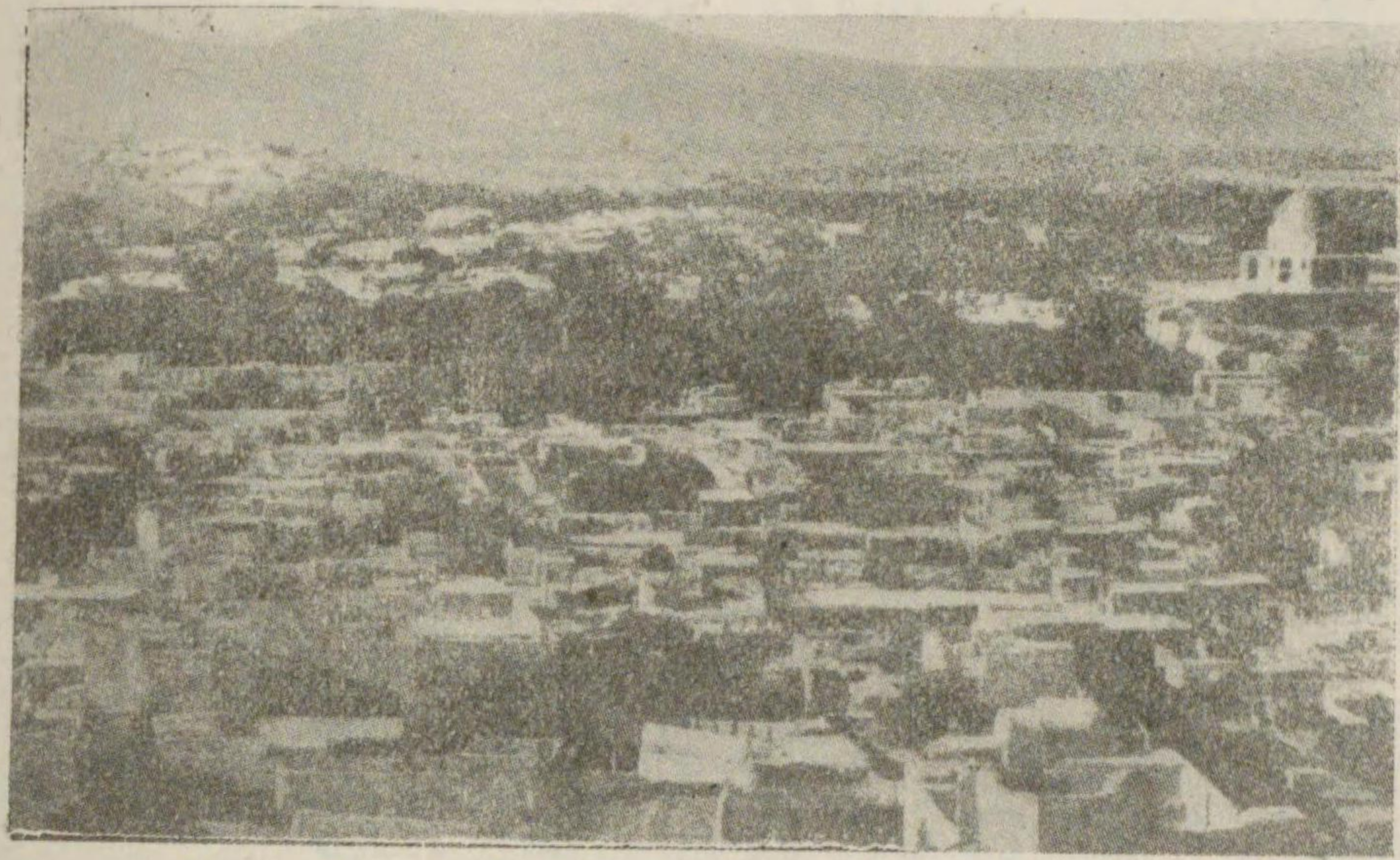
都市

首府カブールは、古來ツラン平原から印度へ通ずる交通の要路に當り、軍事上重要な地位を占め、現に政治の中心地で、又た工業の中心地、印度貿易の中心地でもある、印度河の支流た

中央集權の徹底を期す

カブールは交通の要衝

るカブール河に沿ひ、海拔一七六〇米突の高地にありて氣候甚だ快適である、人口は十四萬を



カ都首のそ、し有を史歴い古は化文の汗富亞 **ループカ府首**
×百七千一拔海。るあで會都たし達發に間の史歴い古もループ
るあで地土なかや爽の候氣、し位に原高のルトー

算する。ヘラートは西北部に於ける軍事上の要地で、又商業の中心地でもある、人口は十二萬と稱せられ、カブールと繁榮を競ふてゐる。カンドハル(人口三萬二千)は東南部の隊商路に於ける都會で絹布、絨氈の製造が行はれ、附近は沃野が開け、印度および波斯灣方面との貿易の中心地として發展すべき將來を有してゐる、この市からは印度鐵道の終點チャマンとの間に自動車道路が開かれてゐる。其他マザル・イ・シエリフ、マイマナ市等がある。

人種

亞富汗斯坦は人種が頗る多様で、之を細別す

數十種に及ぶ人種

ると數十種となるが、最も多數を占めるのは亞富汗人で、その數約三百五十萬を算し、之に次では波斯語を話すタジク人が百五十萬、ウズベク人を主とする蒙古人が六十萬である。その他チュルク人、カザレイト人、チャル人、アイマク人等が居る。亞富汗人は牧畜と農業とに従事し、一部は今尚ほ遊牧生活を營み、タジク人、カザレイト人は農業に従事し、ウズベク人も漸次農業に移りつゝある。チュルク、チャル、アイマクの各人種は多く遊牧生活を送つてゐる。

宗教

國教は回教のスニー派で、亞富汗人はこれを信奉してゐるが、非常に迷信に富み、僧侶社會が無學無知なため、その感化を受けて一般國民の文化の發達を妨げてゐる。タジク人及びカザレイト人は回教の一派たるシート宗を奉じ、スニー派と軋轢反目を續け、争鬪殺傷沙汰が絶えない。近時、政府では宗教の弊害を感じ、積弊を革める方法を講じてゐる。

産業

國民の主たる生業は農業と牧畜で、農業は主として低地に行はれ、ヘリ・ドル谿谷、ヘラート

農業と牧畜が主要産業

最新亞細亞大觀

四三八

地方、カブール、ヘルマンド、アルゲンダ諸河の谿谷地、アムダリヤ河沿岸地方が發達し、灌漑の設備さへよければ年に二回の收穫を擧げることが出来る。主要農産物は小麥で、大麥、ヒマラヤ麥、米、稷、豆、玉蜀黍等を産し、棉花、煙草、けし、胡麻及び少量の甘蔗も出来る。果樹及び蔬菜の栽培も發達し、杏、梨、林檎、葡萄、棗、椰子、メロン、西瓜、くるみ、無花果、桑實等が豊富である。牧畜は牧場が豊富なので非常に發達し、牛、羊、馬、駱駝、家畜及びその製産品の輸出は収入中の重要なものになつてゐる。鑛産物は良質なる鐵を始め銅、瑠璃、鉛、アンチモニー、硫黄、岩鹽、銀、紅寶玉等を産出し、石炭、石油の埋藏も相當に豊富と見られてゐるが、未だ確實な調査が行はれてゐない。製造工業は皮革、アストラカン毛皮、防寒外套、絨氈、羊毛製品、鐵器、武器、金屬器具、粗製羅紗、綿布を産し、機械工業としては國立兵器廠に於て五千人の職工を使用し、小銃、大砲、彈丸、火藥、軍刀等の外、羅紗、酒精、電氣機械、綿布、石鹼、製材、石版、紙器などを作つてゐる。其他熔鑛爐、水力電氣等の設備もあり、諸工業は漸次發達する氣運を呈してゐる。

交通

工業は發達の趨勢

國內には未だ鐵道が敷設されてゐない。鐵道建設に就き亞富汗政府と獨佛會社との間に三線を敷設する假契約が成立してゐたが、先年の政變のため實行さるゝに至らなかつた。道路は漸次改良工事が行はれ、無線電信局も設けられてゐる。尙ほ亞富汗は萬國聯合郵便條約に加入して居り、電信線は首府カブールと印度ベシヤワル間に通じてゐる。露領トルキスタンのタシケンドから定期航空路が有り、カブールまで六時間で到着する。

日本との關係

亞富汗斯坦の朝野は夙に我國に好意を寄せ、大正九年、前國王アマヌラ・ハン帝が即位の際にも我が 天皇陛下に宛て友好的親書を捧呈し、尙ほ引續き我國との間に修好關係を確立することを希望しつゝあつたが、大正十二年春亞富汗斯坦顧問元印度王族ブラタプ氏が來朝し、日亞通商開始に就き運動した結果、朝野の注意を喚起する所あり、同十四年冬、田鍋安之助氏はカブールに赴いてアマヌラ・ハン帝に謁見し、中央亞細亞を経て露都を視察して歸つた。昭和四年亞富汗斯坦の政變に際し、ナデイル・ハン新皇帝が叛軍を討平したとの報に接するや、赤坂區三會堂に頭山滿翁其他有志百五十餘名が會合して亞富汗斯坦克復祝賀會を開き、滿場一致

日亞交通の要望

日本の有志賀辭を贈る

第四章 西部亞細亞

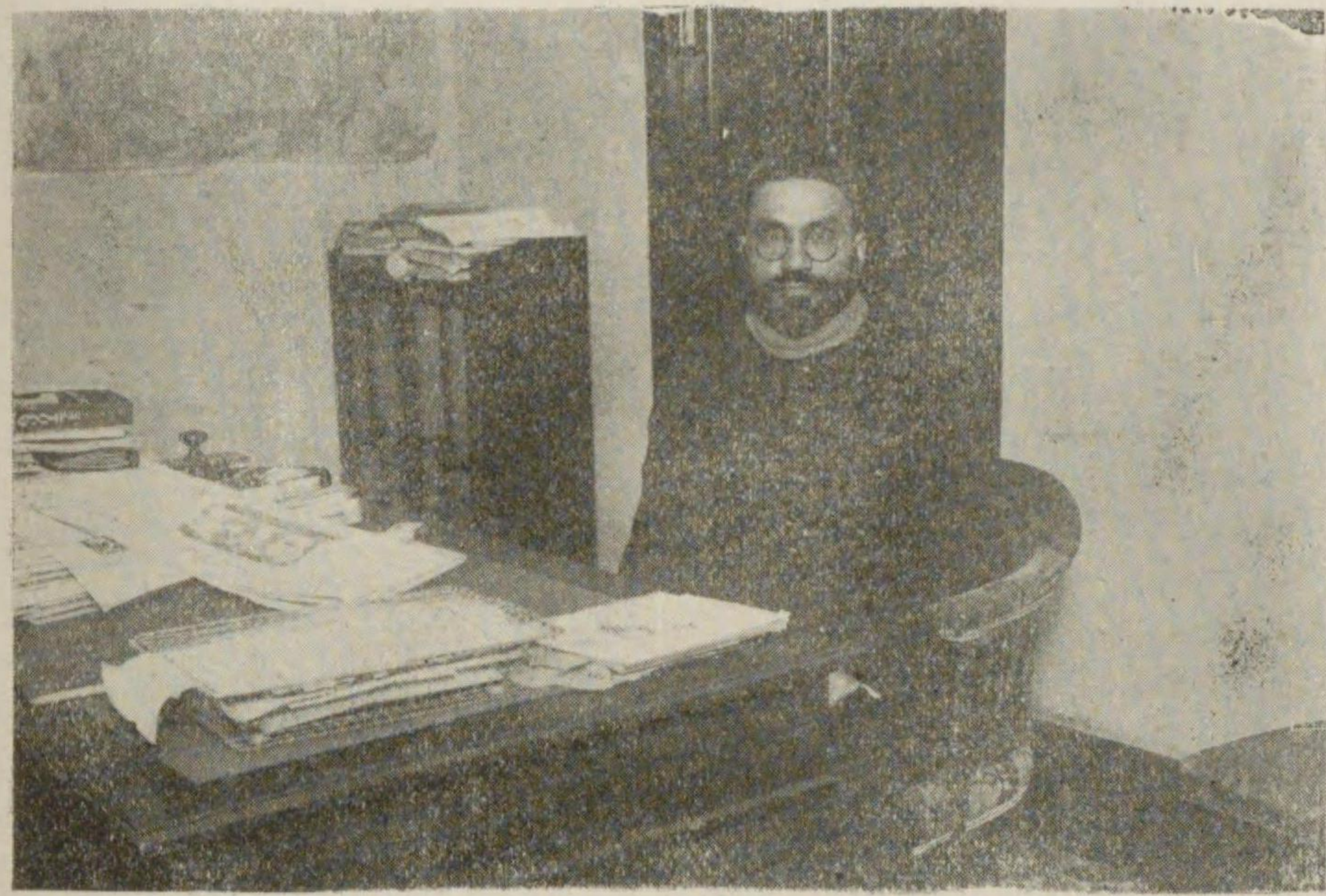
第八節 亞富汗斯坦

四三九

申合せの上、賀辭を新皇帝に贈るに決し、座長田鍋安之助氏の名を以て電呈した處、亞富汗外

務大臣から皇帝の命を含み鄭重なる謝辭を回答して來た。尙ほ日亞の修好に關しては昭和五年十一月倫敦に於て、我が松平駐英大使と英國駐在亞富汗公使シーワリー氏との間に修好條約が締結され、昭和六年夏我が樞密院の審議を通過し近く實施の運びとなつてゐるが、兩國は更に可及的速に通商條約を締結する筈である。現在亞富汗に在留する邦人はないが、亞富汗國民の對日感情は頗る良好であるから、この新市場に向つて日本商品の進出を見るのは遠き將來にあらず、亞富汗國情の研究は目前の急務である。殊に亞富汗は、今尙世界の經濟界と極めて關係が薄く、國內の開發が遅れてゐるのであるから、亞細亞の先進國たる日本は、その經濟的發展のために充分

修好條約
締結



前亞富汗中顧問度王族塔拉氏

なる寄與をなすべき立場にある。最近鐵道敷設に關し、我が鐵道省へ、技師の招聘及び鐵道建設資金の調達方に就て交渉して來たが、我が當局の態度は未だ決定するに至らない。

歴史

太古は土族が處々に部落をなしてゐたが、紀元前五百年波斯王ダリユースが印度河に至るまでの土地を征服した時にも亞富汗には種々の民族が割據してゐた。即ちセイスタンにはサランギアン人、ヘラートにはアールヤ人、ヘルムンド河の上流及ガズニーの高原にはスタギチア人、サフイッド・ゴール山地にはダチケー(大食)人、カブール盆地にはガンダリー人、印度河畔にはブクチー人がゐた。波斯が歴山大王に滅された時、亞富汗斯坦も大王に征服されて其領土となり、大王の死後その將セリュクス^{シリウス}の建てた條支國の一部となり、後大月氏の領土に歸した。サマニ朝が起つて波斯を統一した時、亞富汗斯坦は其屬國となつた。サマニ王朝の衰滅後はガズニー家が起つて亞富汗を統一した。次に起つたのはゴール家でゴール家の領土は東は恒河に至り、西は小亞細亞のチグリス河に接し、西北は裏海に瀕し、南は印度洋に臨んだ大帝國であつた。所謂コラサン帝國といふのは即ち是れであつて、亞富汗人の建てた最初の國である。

コラサン
帝國

後セルジューク土耳其が侵入して来て、ゴール家を破つたので、ゴール家は三代にして滅び、セルジュークは之に代つて亞富汗に君臨し、四方を攻伐して威を中央及西部亞細亞に振つたが、一二一三年花刺子模ホラズムと戦つて大敗し、國土を擧げて悉く花刺子模王ムハメッドに委した。花刺子模は勢威日に強大となつて近隣を併呑したが、蒙古に成吉思汗が興つて、一二二二年花刺子模を征伐して之を滅した。そこで亞富汗は蒙古の領土に入つたが、一三六三年帖木兒チンギスに征服されて帖木兒帝國の一部となつた。

帖木兒の死後國內大に亂れ、王族が互に相争つたが、一五二二年に至り、帖木兒五世の孫バベルは亞富汗を統一し、次で印度を征服し、莫臥兒帝國モガールを建てた。

莫臥兒帝國の衰微と共に、亞富汗は豪族が四方に起つて相争ひ、ミル・マームードなるもの、亞富汗王と稱して、カンダハールに都し、波斯、亞富汗の二國を併有して國勢一時盛となつたが、後に従弟アスクラッフに國を篡はれた。

此の時波斯のコーラサンからナヂールが出て、ホツセンの遺孤を奉じてアスクラッフを滅し、ホツセン王家を再興した。後ナヂールは國を篡つて自ら王位に即き、印度を征服して大に國威を輝したが、一七四七年暗殺されたので、其部將アーメッドがカンダハールに自立して亞富汗を

内憂外患
交々臻る

統一した。アーメッドの没後、内憂外患交々臻つて、國勢日に衰へた。

一八〇九年奈翁一世が波斯と同盟して、將に印度を侵略しやうとしたので、之を聞いた英國は直に亞富汗に使をやつて、共に防禦の事を議した。時に露國は布哈拉ブハラ、基華キハ、浩罕コイカンの三汗國を征服し、三度波斯を討つて其領土を削り、徐々に印度に近接し、亞富汗王ドスト・ムハメッドに迫つて同盟を結ばうとした。王は英國の奸黠を悪くんで居た爲め、之を容れて露國と結んだので、英國は波斯と同盟して亞富汗を攻め、國都を陥れて無理に之と同盟を結び、以て露國の印度侵略を防がうとした。

然も露國は着々南侵の計畫を進め、メルブを取り、更に亞細亞の目ともいふべきヘラートに迫り、又亞富汗の亡命者を養つて、之を利用し亞富汗を英國の手から奪はうとした。そこで英國は再び兵を出して所謂『科學的の國境』サイエンチファイブクローニチエルたるスライマン山脈の險要を手に入れ、後更に露と協議して境界を定めた。

然るに露國はバミール方面を侵して、此方面から印度に迫らうとしたので、又々英國と紛争を起したが、一八九四年兩國新に境界を議定して局を結んだ。

一八九三年ハビビユラーが立つて王となり、其父アブダル・ラーマンの英國と締結した條約を

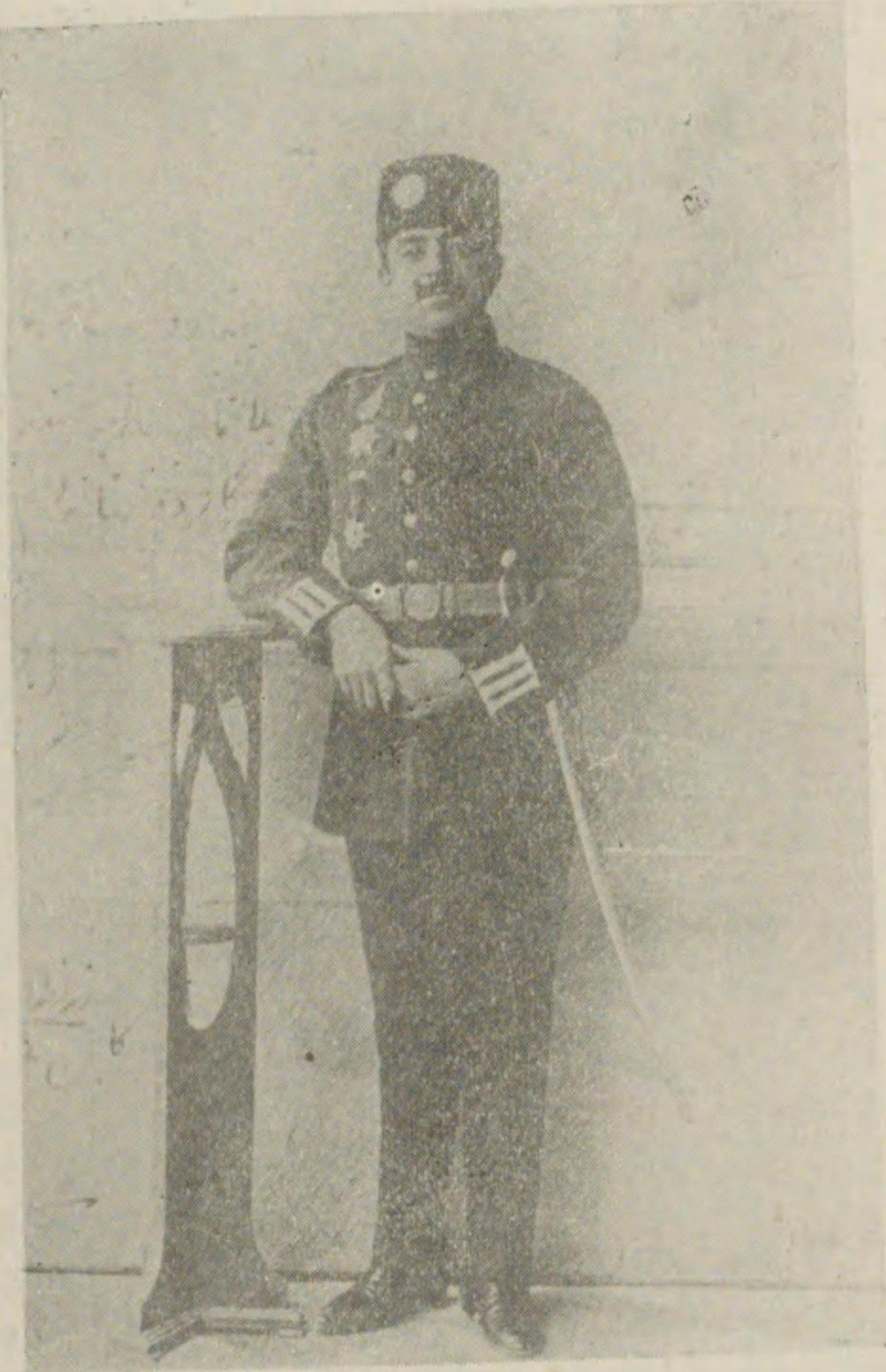
英露協約

誠實に守ることを約束した。一九〇七年英露兩國は協約を結んで英國は『亞富汗王が誠實に約束を守るなら、亞富汗の何れの部分をも併合しない。又決して内政に干渉しない』といふことを約束し、露國は『亞富汗は露國の勢力範圍以外である』と宣言し、且つ亞富汗との政治上の交渉は必ず英國の手を経べき事を約した。但し兩國は商業上に於ては機會均等の主義を尊重することに一致した。

右の協約以來、亞國の對外關係は英國の監督を受くるとなり、英露兩國の緩衝國たる地位に立たされてゐたが、歐洲大戰の漸く進むに伴ひ、英國の土耳其に對する態度は回教國民たる亞國民の憤激を挑發し、土耳其の没落は回教の危機なり、土耳其没落せば總ての回教徒は危険に陥るべしといふやうな叫びが高まりつゝあつた。然るに國王ハビビユラ・ハンは親英主義を奉じ、頗る優柔不斷の風があつたので、王に對する反感は頓に高潮し、一九一九年二月遂に國王は暗殺され、國民の輿望は王の第三子アマヌラ・ハンに集り、その即位を見るに至つた。新王は頗る英邁敢爲の風に富み王位を嗣ぐや、即位後直に對英宣戰を布告した。英國は之に對し軍を三方面より進めて戰つたが、當時英國としては既に土耳其の事に關して印度回教徒が動搖せんとしつゝある際にはあり、この上回教國たる亞富汗斯坦と戰つたのでは、益々回教徒の動

搖を招來する危険があつたので、早く戰局を終結せんことを冀ひ、亞國國境方面に於ける戰鬪が未だ勝敗を決するに至らざる間に媾和の交渉を開始し、ラッルビンデーで媾和會議を開き、

亞富汗王ナハ・ルイ



同年八月八日媾和條約を締結した。この條約により一八七九年以來亞富汗王に英國より支給しつゝあつた補助金を廢止し、同時に英國は亞富汗斯坦が完全なる獨立國たることを承認した。

度との國境關係をも解決し、更に進んで露、獨、佛、伊、波、土各國と條約を結び列國の伍班に列すべき手段を取つたのである。爾來英主アマヌラ・ハンは銳意庶政の改革を圖りつゝあつたが、一九二八年同王が歐洲に漫遊中、その不在に乗じて内亂を發し、叛將バチャョイ・サカオ

は頑迷なる守舊派を味方として首府カブールを占領して新政府を樹立し、アマヌラ・ハンに退位を迫り、自ら王位を僭して反動的の政治を行はうとした。然るに一九二九年九月アマヌラ・ハンの叔父ナデイル・ハンが起つて僭王バチャ・イ・サカオを追ひ、バチャ・イ・サカオは在位僅に九ヶ月にして没落し、國內は速に鎮定し、ナデイル・ハンが推されて王位に即いた。前王アマヌラ・ハンも正式に新王を認めためたので國政は又た安定を見るに至つた。新王はアマヌラ・ハンの政策を繼承することを宣し、亞富汗の新政は再び以前の軌道に復し、諸般の改革が着々と行はれてゐる。

之より前、亞國は一九二二年憲法を制定して立憲君主國となり、國議院を設けて國民參政の途を開いたが、その制度に缺陷あるを認め、一九二八年八月國議院を廢して新に國民議會を設けることにした。議員は百五十名、任期三ヶ年、毎年四ヶ月間休會する外は常に開かれてゐる。年齢二十歳以上にして讀書力ある男子は選舉權並に被選舉權を有することゝなつてゐる。

政治上の地位

亞富汗斯坦は歐州大戰が休戰期に入つて、未だ媾和條約の成立せざる際に英國に對する宣戰

國民議會
開設

獨立の確
保

を布告し、戦ひに疲れてゐる老大國を脅かして完全なる獨立國たる資格を獲得した。それは熱狂的な回教國民としての衝動から發する無謀の舉であつたかも知れないが、兎に角亞富汗に取つて長い間の縛めを解くにあれば絶好の機會はなかつたのである。既に完全なる獨立國たる實を收めた以上、現代の國際場裡に於ては輕々しく獨立を奪はるゝやうなこともなく、亞細亞は之によつて新なる一獨立國を加へることゝなつた。復興亞細亞の前途に對しまことに意を強くすべき出來事でなければならぬ。英邁なるアマヌラ・ハンの國政改革が反動派のために一時挫折することゝなつたのはかへすゝも遺憾であるけれども、その鴻圖が根本から覆されてしまつたといふ譯ではないから、この英主によつて播かれた種子はやがて芽を吹き花を開いて、徐々に亞富汗王國の面目を一新するに至るであらうと信ずる。軍事の方面から見ても兵役義務が施行されて正規の常備軍が設けられ、伊、佛、獨の諸國に派遣されてゐる多數の將校が歸還して、その訓練に任じ、兵器廠では無煙火藥等も製造されるに至つたと報せられてゐる。又國內には多數の小學校が設けられて數十萬の兒童が就學して居り、女子教育機關も特設されて女子留學生を海外に派遣するまでに進んでゐる。國旗も從來黒色旗であつたのを黒(山岳の象徴)赤(日の出の象徴)緑(小麥の堆積象徴)の三色に神及びマホメットの文字を配する新國旗に改定し

軍事の發
達

たといふやうなことも、又以てこの國民の意氣を窺ふ資料とするに足る。

何分にも封建的の段階から一足飛びに立憲國たる段階にまで進み、それに應ずるだけの素養が國民にないのであるから、その政情なり社會状態なりに渾沌たる點の存するは已むを得ないことであつて、直に立派な文化的乃至産業的な國家となり得ることを期待することは出来ぬが、最近十年間に現はれた國政改革の動向から見ると、バチャ一派の反動政府が一瞬にして消滅に歸したのに徴しても、大勢は新時代の潮流に駕して堅實な歩度を進めてゐることを認められ、その前途には多くの希望を囑するに足るのである。奴隸制度は既に去る一九二一年に廢止され、封建時代の特權階級はセルダリと呼ばれる一階級として殘存してゐるが、それらの階級は今や實業界に向つて漸次力を伸ばしつゝあり、都市の知識階級もまだ幼稚の域を脱しないけれど、進歩政策の支持者として働くべき資格を次第に具へて來てゐる。地方小農の土地利用形式は、共有共耕の遺風を存し、著しく協同的であるのみならず、豪農と稱すべき者が殆んどゐないから、大地主としてのセルダリ階級が甚しき搾取を行はぬやうに適當なる政策が講せらるれば、農村も亦健全なる發達をなすべき可能性がある。しかし各種族の中心をなせる亞富汗人を除いては、一般に貧しい者が多く、國民中に多數の遊牧民や貧民の存するのは、國家の發達と開明

特權階級
の方向轉
換

宗教改革



隊軍の汗富亞 隊軍の汗富亞 隊軍の汗富亞
平、しと年三を役現て制務義は隊軍の汗富亞 隊軍の汗富亞 隊軍の汗富亞
に時戰、るゐてれき集徴千六萬一が兵砲び及兵騎、萬六兵歩時
。るれき員動が兵の萬十五は

者として新政策の妨害をなすのは免れ難き現象で、亞富汗に於ても汗とかベイとか稱する舊來

の會長階級が存し、それが政府の新施設に反對を抱き、又僧侶社會も因襲を固守するに熱心であるから、自然これらのものは社會革新の障礙をなしてゐる。但だ亞富汗に於ける會長階級（即ち貴族）や僧侶社會は經濟界に基礎を有せず、その實力が乏しいから、制度や習慣の合理化されるに従ひ益々無力のものとなすべき傾向は看取される。

財政經濟事情

亞富汗の財政經濟事情は、世界の經濟界との關係が甚だ稀薄である。それだけに又外國借款に依る債務がなく、外國資本の束縛を受けてゐないといふ特質を持つてゐるが、これは一面から見て結構なことのやうであつて、實は又亞富汗の經濟界を長く睡眠状態に在らしむる原因ともなつてゐる。最近日本に向つて鐵道借款の交渉をして來たのなども、日亞の經濟關係から見れば可なり重大な意義を有してゐるのであるから、我國の如きは進んで亞富汗の國內事情を充分に研究すると共に、その埋藏されたる資源の開發に寄與する所があつてよいと信ずる。

次に亞富汗の軍事上の地位は甚だ重要であり、その地形は國際環境からして軍略上興味のある所でもある。英國も露國も亞富汗に對する侵略の野心を抛ち去つてはゐるが、明日の世界は又如何なる變化を呈するかも測られない。因つて彼得大帝やナポレオンの昔を偲びつゝ、若干の解説を試みて見たいと思ふ。

戰略上の要地

古來中央亞細亞から印度又は西方亞細亞を侵略したものは、必ず先づ亞富汗を占領して、之を根據としてゐる。西方亞細亞から中央亞細亞又は印度を侵略するものも亦必ず亞富汗を根據とする。更に又印度から中央亞細亞及西方亞細亞に出づるにも亦亞富汗の公道に由らなくてはならぬ。亞富汗は實に世界の公道で、戰略上の要地である。

昔は歷山大王が希臘から出て、波斯を征服し、亞富汗を従へ、以て中央亞細亞及印度を征服した。大月氏も亦天山南路から來て、亞富汗を根據として、印度の西北部を征服した。嚙噠エラダも亦中央亞細亞から來て、亞富汗を根據を据ゑて印度を侵略した。成吉思汗も亦蒙古から來て、亞富汗を奪つて、印度を威壓した。帖木兒も亦中央亞細亞から來て、此地を奪つて、印度を征服した。バベルも亦中央亞細亞から來て、此地を根據として印度を征服した。ナジールも亦波斯から來て、此地を根據として印度を侵略した。但夫れ印度から出て、亞富汗に據つて、中央亞細亞又は西方亞細亞を侵略したものゝないのはどういふ譯であらうか。

有史以前のことは措いて論じないが、由來中央亞細亞の地は寒くて、荒漠で、生活が困難である。波斯も亦伊蘭の高原は森林繁茂し、蠻民野獸の棲息する所である。然るに印度は氣候暖熱、地味膏腴、耕さずして穀物、果實、其他の天然物の收穫があり、努めずして金、銀、寶石、

中央亞細亞と印度の相違點

良木珍香等が出る。食ふに勞なく、着るに苦なく、住むに難がない。何を苦んでか此樂土を去つて、邊土遠郷の地に赴くだらうか。是れ印度から出て中央亞細亞及西方亞細亞を侵略しない理由である。之に反し中央亞細亞や西方亞細亞は民族の住み荒した跡で、衣食住共に容易に得られないから、其住民が暖熱の樂土を望んで移住しやうとするのは自然の理である。中央及西方亞細亞の民族が印度に侵入するのはかういふ理由からである。

次に印度は北方及東方から侵入を受けないで、西方からばかり襲撃を受けるのはどういふ譯かといふに、東方北方は喜馬拉耶の高峯雲外に聳え、高きものは三萬尺を超え、低きも一萬尺を下らない。谷深くして、林木枝を交へ、猛獸すら通過し難い。況んや人に於てをや。特に喜馬拉耶連山の北方西藏高原は北東に向つて出口を有つてゐるから、西藏の住民は歴代支那方面に向つて高臺を下つてゐる。故に嶮阻を冒して印度に下る必要がない。印度が北方から襲撃を蒙らないのは此の如き理由である。次に東方は現今の緬甸、暹羅、安南の地で、北に大雪山の高峯を控へ、東南は海に濱し、氣候暖く、五穀豊熟して、不自由のないことは印度と同じである。だから危險を冒して何も他人の國を攻撃する必要がない。是れ印度が東方から襲撃を受けない理由である。

然るに西方はヒンヅークシ山脈とスライマン山脈との嶮峻はあるが、澤山な山道があつて容易に通過することが出来るし、又此山中の盆地は地味豊饒で、優に大軍を給養するに事が出来るから、衣食住に不自由な蠻族は此方面からドシ／＼印度に侵入して來るのである。

印度の患
は西方に
あり

天然の城
砦

此の如き理由で印度の住民の患とする所は常に西方にあるのである。故に印度の安全を計らうと思はゞ、必らず西方の防禦を嚴にしなくてはならぬ。然るに西方印度河の兩岸は地勢平坦で防禦するに難い。若し亞富汗の高臺に強勢な民族が蟠居して、坂落しに突進して來たら、

印度河畔の防禦陣地は忽にして突破されてしまふであらう。故に印度の防禦を安全にしやうとするなら、どうしてもヒンヅークシ及スライマンの嶮峻で敵を喰ひ止めなくてはならぬ。英國はスライマン山脈を科學的國境と稱して、之を亞富汗から奪つて防備を施した。

ヒンヅークシ山脈は高峯峻嶺重疊して天然の城砦をなし、印度の西北境に對し堅固な第一防禦線を形成してゐる。スライマン山脈も亦險要ヒンヅークシに亞いで、西方に對し第二の防禦線をなしてゐる。然もヒンヅークシ山には九十五の山道があり、スライマン山脈には七十五の山道があつて、東西の兩民族は容易に交通してゐる。而してヒンヅークシ山道中二つの山道は大軍の行進に差支がない。又別に二つの山道があつて、前の二つの山道よりは嶮峻だけれども、

小軍隊の行軍には差支ない。二大山道は一つはバラバミソス山脈の大山道で、露國ムルガブ鐵



越ルバイカ 山脈の境國の度印と汗富亞 越ルバイカ、しなを
自然の要路。英亞戰。るあで難困とこるめ進を兵は險の越ルバイカ、しなを
たれさま惱々散に軍行の地山は兵英もて争

道の終點クシクからヘラートに越える公道である。二は中央亞細亞から印度に至る昔時の本街道で、阿母河畔のマザル・イ・シャリフ（昔はバルク）からヒンヅクシーの大山道を越え、バミアーンに達し、更に山道を越えて國都カブールに達するものである。通常前者はヘラート越と稱し、後者はバミアーン越と稱してゐるが、前者も後者も單に一條の山道のみでなく、且つ最も重要な山道であるから茲で少しく説明して置かう。

ヘラートは亞細亞の女王と稱し、又印度の目と稱されてゐる戰略上重要な地で、西方亞細亞及中央亞細亞から印度に入るには、是非共通過

しなくてはならぬ地である。若し印度の兵にしてヘラートを保持せんか、西方亞細亞から來る遠征軍は、一步も亞富汗内に入ることが出來ない。若し北方の敵がバルクやマザル・イ・シャリフからバミアーン越を越えて、國都カブールに進軍したら、ヘラートの印度軍は西方から其右側背を脅かすから、敵はバミアーン以東に兵を進めることが出來ない。若し又西方の敵が波斯の南部から困難なる沙漠進軍をしてセイスタンに到着し、更にカンダハールに進軍したら、ヘラートの印度兵は北から出て、敵の左側背を脅すから、セイスタンから東へは一步も出ることが出來ない。之に反し若しヘラートが中央亞細亞乃至西方亞細亞方面から來る敵に占領されたら、千里の長堤は茲に崩壊されたもので、大軍は北南の二道から潮の如く、一時に印度河上に氾濫して來るだらう。更に又中央亞細亞及西方亞細亞のみの對抗に於ても、ヘラートは重要な地位を占めてゐる。中央亞細亞から波斯に達するには、布哈拉から沙漠を越えて、カラクム大沙漠の一島（オアシス）メルザに達し、夫から復た沙漠を渡つて、チャチャ・カラ越とチャチャ・デルベンド（鐵門關）とを經、グリストアン山脈と、ビナルトク（山脈）とを越えて、メシエツドに達するものと、メルザから沙漠を渡つて、レジエンド河畔のサラツクスを經、ムズラン越を越えてメシエツドに達するものと、阿母河畔のブルダルイク又はコーヤ・サレー乃至ケリフ

古英雄の
進路

からムルガブ河とクシク河の會點タフタ・バザールを経て、露領土耳其機斯坦と、亞富汗と、波斯との境の三國峠なるツルフイガル越を越えてメシエツドに出るものと、コーヤ・サレー又はケリフからヘラートを經てメシエツドに達するものとの四道がある。四道中の最後のヘラートは勿論のことであるから論ずるに及ばないが、他の三街道もヘラートに敵が占據してゐる間は其側面を敵に曝露するから容易に通過することは出来ない。波斯から中央亞細亞に達するにも此四道より外にないから、中亞から通過するものよりは一層其右側背を脅かされることになる。だから昔から英雄豪傑の遠征者は必ず先づヘラートを占領して、後顧の憂を除き、然る後進軍した。歴山大王も先づ第一にヘラートを占領して、それから亞富汗や、中央亞細亞や、印度を蹂躪した。花刺子模のムハメツドも亦ヘラートを占領してから、波斯や、亞富汗や、印度を攻略した。成吉思汗も亦ヘラートを占領してからバミアーンを経て、カブールやガスニーに進入した。哲伯及速不臺も先づヘラートを占領してから波斯及高架索に向つて進軍した。拖雷も亦ヘラートを屠つてからニシャブールに向つた。帖木兒も亦ヘラートを占領してから印度や、土耳其を攻略した。ナジール・シャも亦ヘラートを取つてから亞富汗や、印度を侵略した。實に皆その軌を一にしてゐる。

ヘラート
に集る大
公道

此の如くヘラートは戰略上重要な地位を占めてゐる。ヘラートの名は元來ゾロアスター教徒の植民の意味から出たので、始は Soghd^{ソグド} とつて、希臘語の Sogd^{ソグド} に相當する。希臘人はヘラートを *Alia Metropolis* と稱した。即ちアリヤン人の首都といふ意味でアリヤン即ちアールヤ人は此地から起つて、印度及全歐羅巴に汎濫したのである。ヘラートはダリユース文書に *Haroyu* とあるが、これはサンスクリットの *Sarayu* に相當する語で、河の中といふ意味だ。實にヘラートは北に峨々たるバラバミソスの山脈(白山)を控へ、南に巍々たるコー・イ・ババ山脈(黒山)を眺め、兩山脈の綿亘してゐる間に、之と併行してヘリ・ルード(河)といふ河が流れてゐる。ヘラートは此河畔の都會で、東南北の三面は峻峯峻嶺で固めて、西に向つてのみ僅に敞開してゐる。北方、中央亞細亞から來る公道はカタル・カシカ越とカタル・ツアルマスト越に由てバラバミソス山脈を横斷してゐる。南方セイスタン及カンダハールに通ずる公道はシャール・ガツアツク越とミル・ダード越とでコー(山脈)イー・ババの餘脈シャール・コー(山脈)とコー(山脈)イー・ババと方の公道はヘリ・ルード(河)の右岸に沿うてサファイツド・クー(山脈)とコー(山脈)イー・ババとの間の谷地を上流に上り、ヘリ・ルード(河)とバルク河との分水嶺なる一萬四千三百尺のコー(山脈)イー・ヒザルの山道カナツク越を越えて、バミアーンに出で、イラク越、クジハクシキ

一越、カフツアル越、ウナイ越及セフィッド越等の諸山道を越えてカブールに達し、更にカイバル越を越えて印度のベシヤワールに達する。西方の公道はヘリ・ルード(河)の右岸に沿うて下り、ツルファイガル越を越えて、メシエツドに達するものと、波斯の國境ケリル・カダに於てヘリ・ルードを渡つて、シエーキ・ジヤムを経てメンエツドに達するものである。

此の如く東西南北四方から來る大公道は、悉くヘラートに集つてゐるから、ヘラートに占據するものは能く此等の公道を管制して、その死命を制することが出来る。

次に第二の大公道たるカブール公道に就いて説明しやう。カブールは恰度信濃の松本のやうな地形で、中央及西方亞細亞から北印度に入るにはどうしても通らなければならない要地である。中央亞細亞に通ずる街道はカブールから前記の諸峠を越えてバミアーンに出で、一萬尺のチャシマイ・ベリユー越、一萬四千二百尺のバリユー越、阿克・ラバート越、シガン越、カラコテル越、キ・イル・コテル越及チャンバラク越を越えて、バルク(マザル・イ・シエリフ)に達するものと、チャリカルからウーラン越を越え、ヒンジャン、コリ又はナリムを経てクンヅツに達するものである。南方への公道はヒンヅクーシの支脈ジャフリ・ハラザ山脈と、スライマーン山脈の支脈ツリー・イ・ヤヒ山脈との間の長い谷地で、亞富汗第一の豊饒な繁華な地帯を走つ

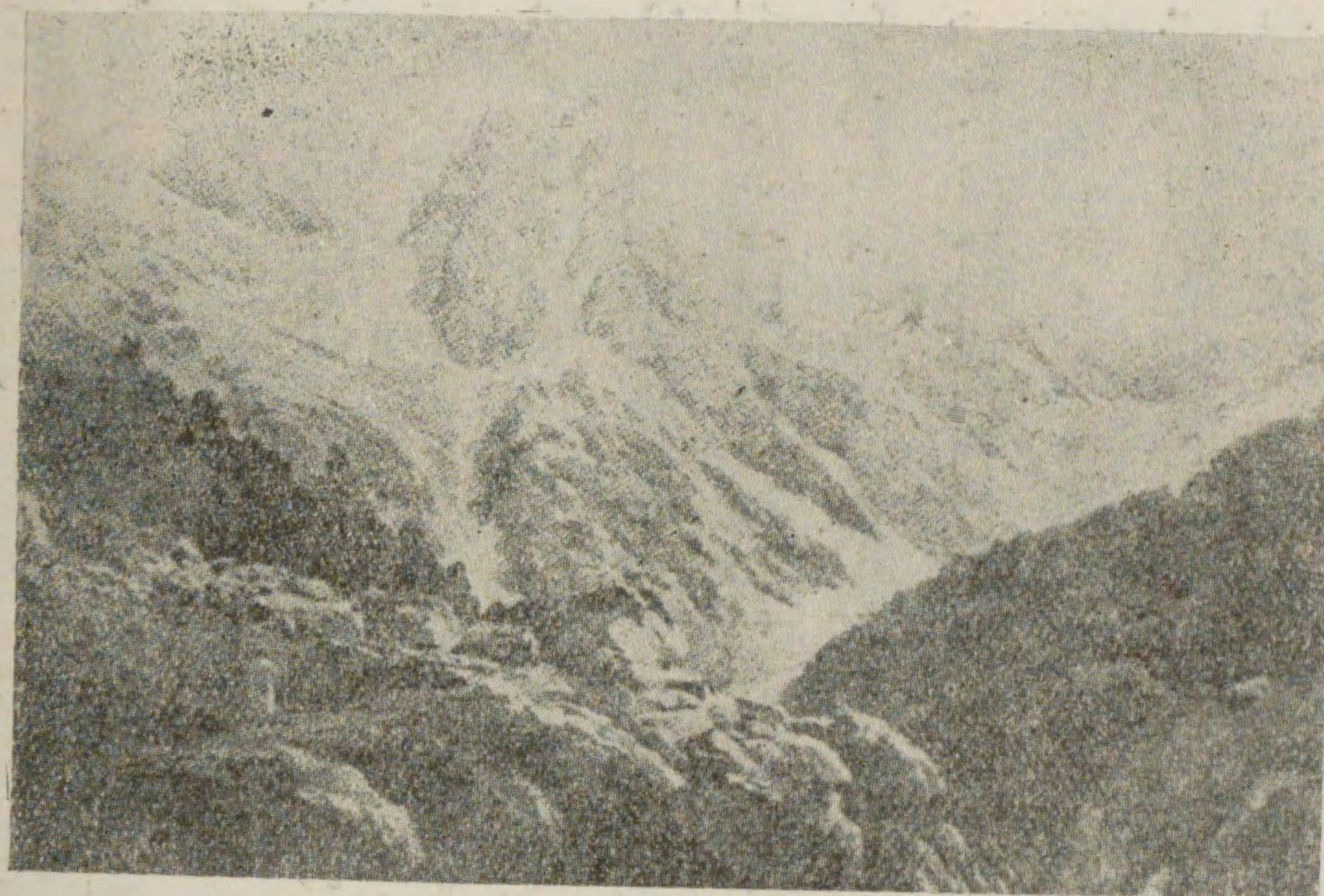
カブールの地位

印度へ出づる山道

てガズニー朝や、^{ジエラウツチン}札蘭丁の故都のガズニーを通つて、カンダハールに達してゐる。故にカブールはヘラートと共に戰略上重要な地點である。

次に中央亞細亞から印度に出づべき二つの山道は所謂バミール街道で、澤山の峠を越える峻峻な道路である。一はバダクシヤンの一都市ファイツアバードからゼベツクを経、ヌクサン越及一萬五千尺のハルテツア越を越えて、印度のチットラルに至るものと、ファイツアバードからジルムを経、一萬尺のドーラ越を越えて、同じくチットラルに達するものである。二はバミール高原の阿母河の上流ビヤンシル河畔のサラードから一萬二千尺のバロキル越と、一萬三千尺のダルゴツド越とを越え、ヤツシン河に沿うて印度のヤツシンに至り、更にコーブール越を越え、ギルギツトを経、一萬三千三百尺のカムリ越又は一萬二千五百尺のベルシル越を越えてカシミールの都スリナガールに達するものである。この外バミール高原からカシミールに通ずる山道はクシツルク越、カリツク越、ワヒシル越、ロノトワ越、ヤナリー越、チユイ越、オチリ越、リヒ越、クル越、イシトラフ越等があるが、リヒ越と、オチリ越と、チユイ越を除く外、皆一萬六千尺以上の高い峠であるから、軍用道路としては無價値である。之を要するにヒンヅクシ山脈の山道はその數九十五を算するけれども、軍用として利用し得る道路は前記の二大

公道と、二大山道とだけである。次にスライマン山脈の戰略上の交通路を觀察すると、スライ



越ルキロバ道山の原高ルーミバ

マン山脈は印度の中央及び西方亞細亞に對する最後の防禦線であるから、英國は昔から之を重要視して遂に科學的國境といふ名を以て亞富汗から之を奪つた。科學的國境といふ名は、世間に英國の侵略的意志を蔽はんがための平和的名稱で、實は戰略的國境といふべきものである。スライマン山脈の山道はその數七十五を算するけれども戰略上重要な軍道は四つしかない。即ち一はカブールからラタベンド越を越え、カブール河に沿ひ、ジェラバードに至り、更にカイバル越を越え、印度のペシャワルに達するもので、普通之をカイバル越といつてゐる。二はカブールからローガル河に沿ふてセフイド・サング、ツアルフン・シヤ

ハール及びクシを経、シユータルガル・ダン越及びベイワール越でサフイッド・ク（山脈）を横斷し、印度のタールに達するもので、之をタール越といつてゐる。三はガズニから南下してガズダラ越を越え、サルハ越とサルワシチ越とでスライマン山脈の支脈カロチ山を横斷して、ゴーマル河の溪谷に出で、同河に沿ふて下りギルリ越でスライマン山脈を横斷し、印度のデラ・イスマイル・カンに達するもので、之をゴーマル越といつてゐる。四はカンダハルから新チャマシムンに來て、クワヤ・アルマン連山のクオーヤ越を越え、バスターンに至り、之から二道に分れ、南道はクエツタを経てポーラン越を越え、北道はカワヤツク越を越え、ハルナイを経、スライマン山脈の東麓シフルで南道に會し、ヤコババードを経て印度のシカルプールに達するもので、此山道にはチャマンまで鐵道が通じてゐる。

此外ガズニからヤタンニ越及バヤ・ハナ・ナライ越を越えてバンヌに達する山道と、ガズニから南下してアブ・イ・スタバク湖の南岸に至り、更に南下してジュミアートから無人の山道を越え、クンダル河の谷地に出で、ツアルメランでゴーマル山道に接續するものと、チャマンからクワヤ・アルマン連山を越えて、ピシムに至り、一萬尺のヒンヅバフ越を越えて、ゾーブ河の溪谷に下り、ドラバツク越又はシャヤンガル越を越えて、デラ・イスマイル・カンに出るもの

と、ピシンからスピラ・バハ越を越え、ロラチを経、ラキ河に沿うてタンデ越を越え、印度河畔のタウンサに達するものと、ロラチがらチヨチアを経、マル越を越え、印度河畔のジャンブールに達するものとは多少軍用に供することが出来る。要するに南方のクエッタ鐵道は別として、カイバル越と、タール越と、ゴーマル越の三道は大砲其他の軍需品の車輛を通することが出来るが、其他の山道は單に歩兵の行軍に適するのみである。

更に進んで印度攻防の戰略に就いて見るに、古英雄の印度侵略は茲に論じないで、近世印度の侵略を企圖したものは第一が彼得大帝で、次が那翁大帝である。彼得大帝は印度侵略の前提として、探險隊を基華に送つたり、波斯を討つて高架索の地を奪つたりしたが、印度侵略の計畫を立てるまでに及ばなかつた。次に那翁大帝は露國のポール一世と同盟して、印度侵略を計畫して果さなかつたが、エナ及アウエルスタットの大勝後、フリードランドに普魯西軍を撃滅して、露帝歴山一世とニーメン河に舟を浮べてチルシットの條約を締結し、歴山とニーメン河を境として、世界を東西兩皇帝の間に分割しやうと約束した時、印度侵略の計畫を立てた。此計畫は三萬五千の佛蘭西兵が多惱河に由つて黒海に出で、更にオデッサから船でアゾフ海に入り、ロストフからドン河を溯つてサレブタに至り、茲に五萬の哈察克兵と合し、陸路ツアリチンま

彼得大帝
と那翁那翁の印
度攻略策

で行軍し、夫から船でザオルガ河をアストラハンまで下り、アストラハンから裏海を渡つて、アストラバードに上陸し、茲で波斯の兵を合せて印度に進撃しやうといふのであつた。那翁の計畫はこれだけで、夫から先き亞富汗の攻略や、印度侵入の戰略に關しては何にも聞く所がない。之は多分臨機應變の處置に出る積りであつたらう。要は唯波斯を味方につけるのが最大急務であつたやうだ。それ故、那翁はジャルダン將軍を波斯へ送つて、攻守同盟の條約を締結しやうとした。英國は之を見て大に驚いて、盛に黄金を撒布し波斯の要路を買収して、遂に佛波同盟の計畫を水泡に歸せしめた。かくて那翁の印度攻略の大計畫は一場の夢と化した。

露國歴代の君主は彼得大帝の遺訓を守つて、一方に於ては君府を占領して地中海に覇權を立てやうとし、他方に於ては波斯及中央亞細亞から印度を侵略しやうとして、着々其計畫を進めた。彼等は巴爾幹のストラヴ諸族を懐柔し、之を援けて土耳其古から獨立させると同時に、屢々波斯を撃つて高架索を略取した。彼等は又西伯利亞からキルギス高原を経て、浩罕を滅し、基華布哈らの二汗國を屬國とした。彼等は又テンギルテツベヤ、アスカバードを屠つて、アトレツク河右岸の土耳其曼人を悉く征服した。彼等は又メルヅを取り、クシクを掠めて亞富汗を蠶食した。彼等は又バミールを占領して、益々印度に接近して來た。彼等が印度を攻略しやうとす

露國の傳
統的方針

る心念は所謂無量劫といふべき程執拗で、君主が代らうが相將が替らうが、如何なる困難に遭つても毫も其方針を改めないで、着々侵略を進めたのである。彼等は亞富汗に密偵を送つて、エミール(王)及人民を懐柔した。彼等は波斯を懐柔して、印度侵略の先導としやうとした。彼等は多くの密偵や、探險家を頻りにバミールや、亞富汗や、波斯に送つた。彼等の作戰計畫は既に已に熟してゐた。彼國の爪牙たる參謀本部の亞細亞局長ソボレウ將軍の印度攻撃の作戰計畫は左の如くである。

彼は印度征服に要する兵數を二十三萬で十分だと推定した。此内十萬を第一軍として、波斯國境のサラツクスから阿母河畔のコーヤ・サレー間に布置し、更に十萬を第二軍とし、コーヤ・サレーからコクチャ河と阿母河との會點までの間に配布し、第一軍の右翼隊はツルファイガル越の嶮を越え、ヘリ・ルードの兩岸に沿うてメシエツト街道に出で、西方よりヘラートに迫り、中央隊はクシク河に沿うて南下し、左翼隊はアンドクイ街道から進撃して、東西北の三面からヘラートを包圍攻撃し、之を占領した後、大軍長驅してファラー、フィリスク及カンドハールを擧げ、ポーラン越とカワヤツク越とを越えて印度のシカルプールに出で、西南印度に作戰しやうとするのである。第二軍の右翼隊はシビルガンを基點とし、シビルプール河に沿うてシビルア

印度征服
の用兵計
畫

ールを經一萬尺以上の諸山道を踏破してバミアーンに向ひ、中央隊はバルクを基點としてバルク河及クルムに沿ひ、是亦一萬尺以上の諸山道を越えてバミアーンに向ひ、左翼隊はクンヅツを基點としてクンヅツ河に沿ひ、其右翼はゴリ及ヒンヤンを經て、又左翼はナリン及インダルを經て、一氣にチャリカルを擧げ、此の如くして三方からカプールを攻撃し、カプールを占領したら、大軍は直にカイバル越を經て、印度のペシヤワールに進撃して、西北印度に作戰するのである。

以上は本軍の運動であるが、別に備へた三萬の牽制軍はフェルガナから出發するので、之も二つに分ける。即ち其右縦隊一萬五千はバダクシヤンのファイツアバードに集中し、ゼベツクを經て、カルテヅア及ドーラの二山道を越えて印度のチツトラルに出で、それからクナナル河又はスワート河を下つて、ペシヤワール及アトツクの側背を脅かす。左縦隊はバミール高原のサラードに集中し、一萬三千尺のバロギル、ダルゴツトの二山道を越え、ヤツシン及ギルギツトを經て、スリナガールに出で、カシミールを徇へて、シムラ又は印度の首都德里を脅かし、且つ印度の土侯や人民を煽動して、英軍の背後に反亂を起さしめやうとするのである。此等の山道を通過するのは甚だ困難のやうであるけれども、昔から英雄豪傑は大軍を率ゐて、屢々通過

大軍通過
の前例

してゐる。ドーラ越は歴山大王も、帖木兒も本軍を率ゐて通過した。パロキル及ダーゴットは莫臥兒大帝國の高祖バベルが大軍で二度も通過してゐる。大月氏や、噉噠や、塞族などは皆此山道から南下して大勝を得たのであるから、ソボレウ將軍の作戰計畫は決して夢想ではない。ソボレウ將軍逝いて以來數十年の星霜を経た後までも、露國の印度侵略の計畫は毫も變化しなかつたさうである。但一九〇三年露國參謀本部の一大尉が軍事探偵として波斯と、亞富汗と、俾路直斯坦との境にあるセイスタンに行つて、セイスタンの戰略上重要なを見て、歸つて報告したので、露國參謀本部の計畫が一部變更されるやうになつたと傳へられてゐる。

セイスタンは或者によつては湖水として、又或者によつては沼澤地として世上に紹介されたので、從來英國も露國も戰略上之一顧をもくれなつた。此地は四面高臺を以て圍繞され、亞富汗第一の大河ヘルムンドが之に注いでゐる。春になると此河がヒンヅークシヤ、スライマンの積雪を融かして河水漲溢し、洋々として流れてセイスタンに注ぐので、セイスタンは數十方哩の間一面の湖水となつてしまふ。此時來て見た旅客は、セイスタンは湖水だと思つて其通り之を世上に傳へた。處が夏になると水が減じて澤となり、秋になると全く涸渴して沙原になつてしまふ。で此時見た旅客は、澤や、沙原として之を世上に傳へた。然るに初夏水の退いた

セイスタ
ンの地形

時、土民は此處に米を播種する。夫から秋米を收穫してしまつた時分には麥を播種する。恰度我國と同じやうなものである。露國參謀本部の調査ではセイスタンだけの收穫は土民の食料を除いて、優に一百万の兵を一箇年間給養することが出來ると見積られた。で若し露軍がセイスタンを占領したなら、ヘラートは側背を脅かされ、且つカンダハールとの連絡を遮斷されて孤立に陥いるし、其上露軍がヘラートに見張の兵を置いて、カンダハールに進軍したら、ヘラートの價値は零になつてしまふ。故に露國はソボレウ將軍の計畫を變更否一部附加へて、セイスタに強力な軍を出すことにしたのである。夫が爲にアストラバードからメシエツドへ鐵道を通じ、之をカインを経てセイスタンまで延長し、更にセイスタンから印度洋上のチハール港に達しさせる計畫を立てた。

之を見た英國は黙つてゐる筈がない。直に俾路直斯坦を印度帝國に併合し、印度政廳の直屬として、クエツタからヌスキを経て、セイスタンまで鐵道を敷設し、露國の出鼻を挫かうと計畫し、更にキツチナー元帥は印度の軍制を改革して、西北境上の防備を完全にしたのである。

亞富汗の地形が斯く重要なるに鑑むれば、亞富汗が獨立國として自ら充分の實力を備へ得るか否かといふことは、亞細亞の大局に尠からぬ意義を持つ譯である。是れ敢て讀者の參考に資

俾路直斯
坦併合の
動機

して置く所以である。

風俗

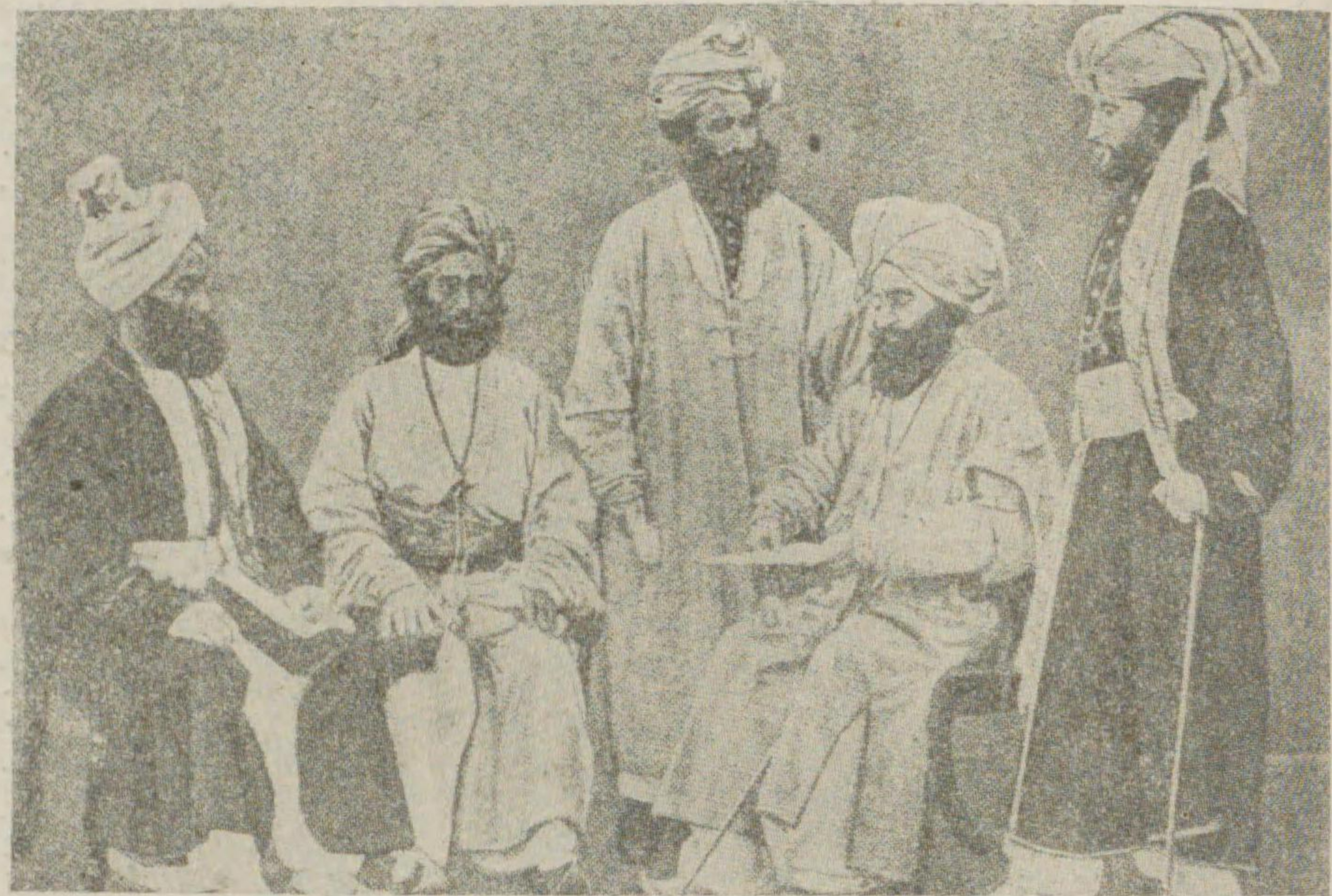
旅行者の注意

○民情 亞富汗人は殺伐的なところがあつて、國內には強盜などが多く出沒する。表面客を喜び甚だ親切なやうであるが、自分の家で懇遇した旅客であつても、それが財物を澤山持つてゐるのを知ると窃かに隣家の者に知らせて、出發後途中で強奪させるといふやうなこともある。だから亞富汗内地を旅行する者はこの點を非常に警戒しなければならない。

○服裝 男子の上衣はチヨカ、カスミといふ二枚から成り、それを重ねて着てゐる。地質は木綿又は駱駝の毛で織つたもので、だぶ／＼した寛濶な仕立である。ズボンも同じ地質で作つたのをはいてゐる。冬には羊の皮で造つた外套を用ひ、雨が降る時には毛の方を表にし、晴天の時は毛の方を内側にして着る。頭には白又は淺黄色のターバンを巻き付けて帽の代りにしてゐる。婦人はインドの回教徒と同じやうにパールカと稱する木綿の衣を頭から被つて眼のところだけに窓を明けてをる。婦人は頭髮を束ねてリボン又は金屬、硝子等を飾りに用ひる。

○食物 上流階級の者は米や麥粉のパンを常食とし、米は肉や脂肪を混ぜて調理するのが普通

衣食住は簡易質素



亞富汗の風俗 上流階級の者は米や麥粉のパンを常食とし、米は肉や脂肪を混ぜて調理するのが普通である。一般に生活程度が低く、衣食住ともに簡易質素で、一年の殆ど半分は果物を主食とし、果物のない季節になると麥の粥や粗末なパンを作つて餓を凌ぐ。家畜を屠殺する時には必ず回教の聖都メッカの方に向つて祈禱を行つた上屠殺するのを例とする。

○婚姻 概して早婚で、男子は二十歳前後、女子は十五六歳で結婚する、結婚については極めて周到な注意を拂ひ、年頃の息子のある家庭では母親が嫁探がしのために、屢々他の家庭を訪問し、これならばと思ふ理想の少女を見出すと始めて正式に縁談の交渉を試み、舊い習慣に則つて形式的な手順を運んだ上、盛大な結婚式を

擧げる。新郎新婦となるものは總て兩親の取計らひに任せて異存を唱へぬ習慣になつてゐるこ

と、恰も日本の婚姻風俗と似てゐるが、これは少數の上流家庭に行はれる風習で、一般には賣買結婚の制度が行はれ、婦女を商品視する風がある。されば結納は妻を購ふ代價の意味で贈られ、夫の死後、妻が再婚する場合などには最初の結婚の時の代價を賠償させることになつてゐる。一夫多妻は當然の事と認められ、一般に四人までは妻を持つことが出来る。しかし右の如き賣買結婚であるから、自然金持は多くの妻を持ち、貧乏人は一夫一婦を守るといふやうな結果になつてゐる。

○誕生 出産については非常に重きを置く國民で、妊婦に對しては至大の注意を拂ひ、妊娠と知れると一室に靜養させて屋内から出さない。いよ／＼出産期が近づくとその家では鐵砲を用意して置いて赤ん坊が産れると直ぐ鐵砲を放つて近隣へ知らせる。それが朝であらうと晝であらうと、假令又真夜中であらうと、一切お構ひなしで發砲する。するとその銃聲を聞いた者は忽ち集つて來て太鼓を打鳴らしつゝ大聲をあげて騒ぎ立てる。多數集つて賑かに騒ぎ立てるほどよいとされてゐるのだから、まるで天地も震動するばかりの騒々しさで一大奇觀である。女子が産れた時には大概七發位鐵砲を放ち、男子が産れた時には十四發位を放つ、大體、男子なら偶數、女子なら奇數といふことに發砲の數が制限されてゐる。騒ぎが終ると赤ん坊への祝物

誕生祝ひ
の奇觀

として絹の布、産婦への見舞として飲食物や藥などを持參して歡びを述べ、一同集つて祝宴を開く。

西亞細亞と日本

以上、西亞細亞諸國に就て記述した所によつて、それらの諸國に新興の氣運が漲りつゝあることを知り得らるゝであらうと思ふ。顧るに近東の諸民族は、過去數世紀に亘り列強勢力の壓迫を受けて鬱屈を感じつゝあつた爲めに民族自體の固有の力を發揮し得なかつたのであるが、今や反動的に向上發展の精神を飛躍せしむべき機會にある。而して近東地方の住民は東洋民族の血を享けて常に我が日本の隆運を仰望し、遠來の日本商品に對して一般に好意を持つと共に、民族運動に目覺めつゝある自然の結果として、西歐の勢力を排撃せんとする精神が旺盛で、それは日常使用品の上まで現はれてゐる。一般的の傾向からいへば、印度に於ける排英運動とその軌を一にし、政治的であると同時に經濟的でもあるのであるから、日本の商權を擴張するには洵に好箇の機會である。

然るに交通關係の上からいへば、我が歐洲航路の船舶はこの地方を甚だ閑却し、波斯灣や地

日本の隆
運を仰望
し日本の
商品を歡
迎

海運關係
を改善せ
よ

中海沿岸の亞細亞諸港は全く顧られない状態にあるといつてよい。従つて貿易統計の上には殆ど數字の見るべきものがない。しかし歐洲大戰當時には、我が商品が種々の經路により可なり盛んに輸入されてゐたのは周知の事實で、大戰後、英、佛、獨等の製品に押されて復た振はなくなつたとはいへ、尙ほアデンやポートサイド方面から積換品として輸入されてゐるのも事實である。大戰後斯く歐洲製品のために排撃されるに至つたのも、畢竟海運關係を全く閑却してゐた當然の結果といはなければならぬ。さればこの好機會に乗じて我が商權を西亞細亞に張るためには波斯灣内のバストラ方面にまで、我が海運線を延長して大いに商品の進出を圖るべきであり、それも孟買航路の船舶をそれに差向けることゝすれば、さまで困難のことではないと思はれる。日本商品の進出し得べきものとしては、綿織物、同製品、綿糸、靴下、電氣器具及附屬器、陶磁器、玩具、菓子類、鹽乾魚、罐詰、茶、砂糖、麥酒、絹織物等が算せられ、其他この地方の文化の向上並に住民の嗜好の研究等によつて、進出を期し得られる商品は尠少でないと思ふ。貿易といへば只管歐米をのみ重視する所の錯覺から脱して、須らく有望なるこの新市場の開拓に努力を向くべきである。

第五章 印度

第一節 印度本部

位置面積人口

印度は南方亞細亞に位し、ベンガル灣と亞刺比亞海と間に挟まる三角形の大半島で、面積は凡そ百六十萬方哩(四百十八萬方呎)に達し、我國の約六倍である。政治的に印度帝國といふ場合は之に緬甸を加へ、その總面積は凡そ百八十萬方哩(四百六十八萬方呎)を有し、我國の約七倍に近い廣大な地域に亘るものとなる。人口は印度帝國全部で三億五千萬餘を算し、假にその中から緬甸の人口を控除しても尙且三億を超過し世界の多人國たることを示してゐる。

地勢及び氣候

印度の地勢は、山地、平野、高原の三部に分れ、山地は北境のヒマラヤ山脈、カラコルム山

面積は日
本の七倍

脈の連亘する地方で、有名なるエジレストの高峰を中心に數多の秀峰が屹立し、支那及び亞富汗斯坦との國境に自然の大障壁を形成してゐる。平野はヒンドスタン平野と稱せられ、ヒマラヤ山の麓から南の方デカン高原によつて限らるゝ地方、すなはち印度、ガンガ及びブラマプトラの三河の流域約四十六萬方哩(百二十萬方呎)の面積に亘る平原である。地質學上この平野はヒマラヤを隆起させた地殻運動によつて出來た陷沒が、之に注ぐ河川の作用によつて次第に沖積地となつたものと見られてゐる。地味、降雨、人工灌溉等相俟つてこの平野から無限の富が産み出されてゐるのである。高原地帯は南方三角形の所謂デカン高原で海拔六百メートル乃至七百メートルに達し、南部は主として花崗岩より成り、北部は玄武岩質の熔岩で蔽はれ、しかも風化によつて肥沃な黒土となり、灌溉によつて農耕に適する地質となつてゐる。海岸線は屈曲が少なく地形は南方に向つて尖り、錫蘭島との間にはアダムズブリッチといふ礁列がある。一年を三箇の季節に分ち、第一は十一月末から三月までが涼冷で氣象乾燥し、第二は三月から五月(所によつては六月始頃)までにかけて暑さも温度も増加して苦熱の季節となり、第三は五月六月頃から十月末頃まで雨季に入つて降雨のため涼しくなる。西南季節風の時期には濕潤を呈し、東北季節風の時期には乾燥を呈するが、兩季節風の交代期にはよく旋風が起つて凄じき天

氣候の變化

候を呈するのが例である。雨を豊富に齎らす所の季節風が早く來れば農作に好都合であるが、それが時を違へて雨季が遅れると、忽ち悲惨なる飢饉を起すこととなるのであつて、印度に屢々飢饉の起るのは季節風の變化に遲速を生ずる結果である。印度の平均温度は所によつて異なるが、大體最低二十五度三位から最高二十七度七位のものである。

政治上の區劃並に統治組織

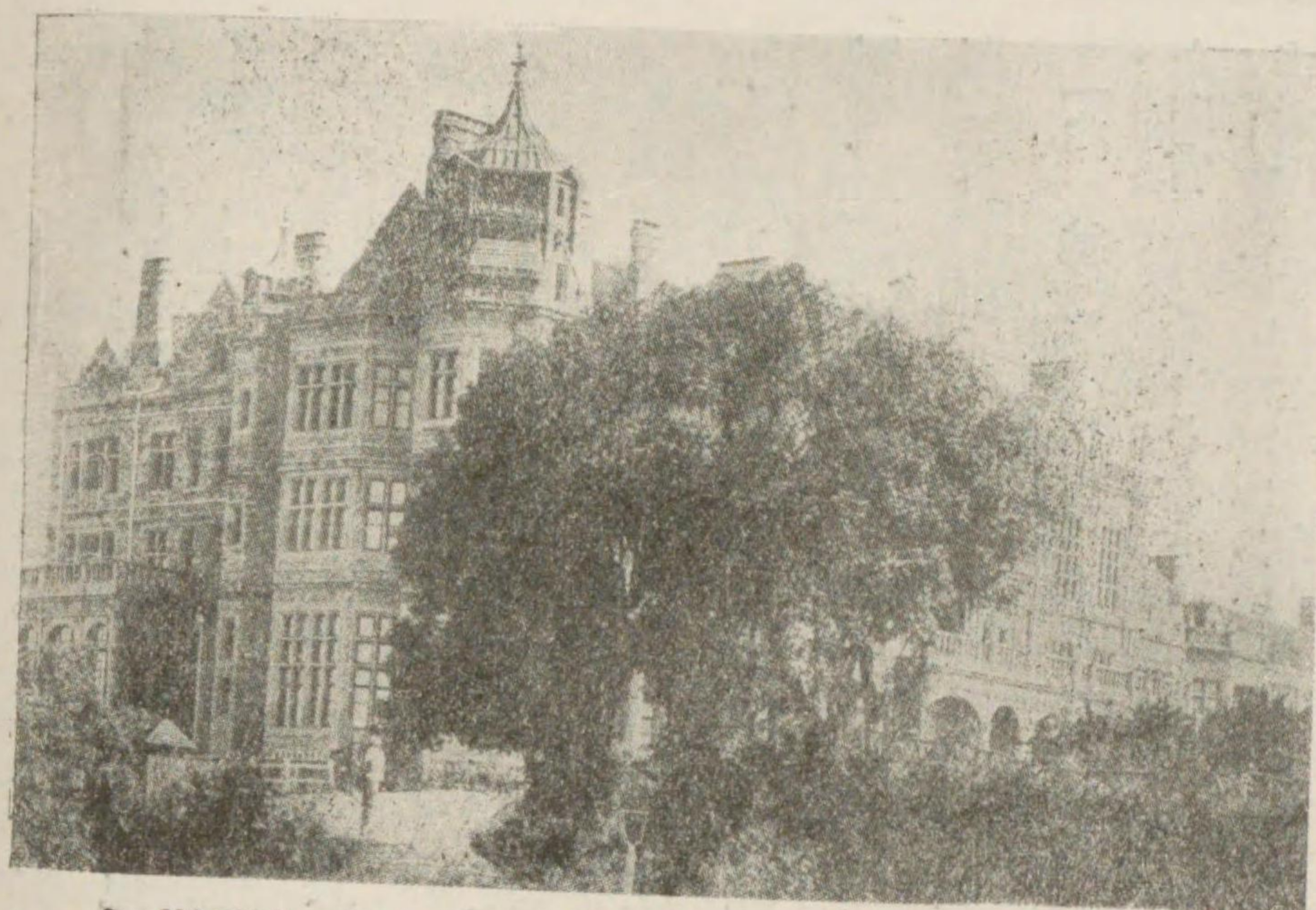
政治上から印度を區分すると、印度總督又は之に隸屬する官吏の直轄する諸州と、英國主權の管理の下に世襲王侯の支配する蕃邦(王侯領)とがある。この兩者を合したものが所謂印度帝國で、英國皇帝が即ち印度皇帝として之に君臨してゐるのである。統治機關としては英本國に印度省があつて、國務大臣たる印度事務大臣が之を統括し、印度の施政全般に對する責任を取り「印度統治法」に依つて印度の行政及び財政に關する一切の事項を指揮監督し、印度總督以下に在印官吏に對する命令權を有し、その下に諮問機關たる印度參事會が特設されてゐて、印度事務大臣はその議長を兼ねることになつてゐる。印度に於ける行政機關は皇帝の親任に係る印度總督を置き、之を首班として總督行政參事會なるものが置かれ、この參事會員は總督補佐の合

印度帝國の統治組織

議機關たると同時に、印度政府の各行政官廳の首位を占め恰も總督を首相とせる内閣の各省大臣たる如き地位に立つてゐる。議會は上下兩院があつて次のやうな議員によつて構成される。

	上院	下院
議員數	六〇名	一四〇名
民選議員	三四名	一〇四名
官吏議員	二〇名	二六名
官選議員	六名	一四名
任期	五年	三年

地方の政治上の區劃は十五州と六百七十八箇の王侯領とに分れてゐるが、この王侯領は藩邦とも稱せられ、舊來の小王國が英國の宗主權の下にそのまゝ領域を保持して殘存してゐるのを指すのである。州は、アッサム、マドラス、ベ



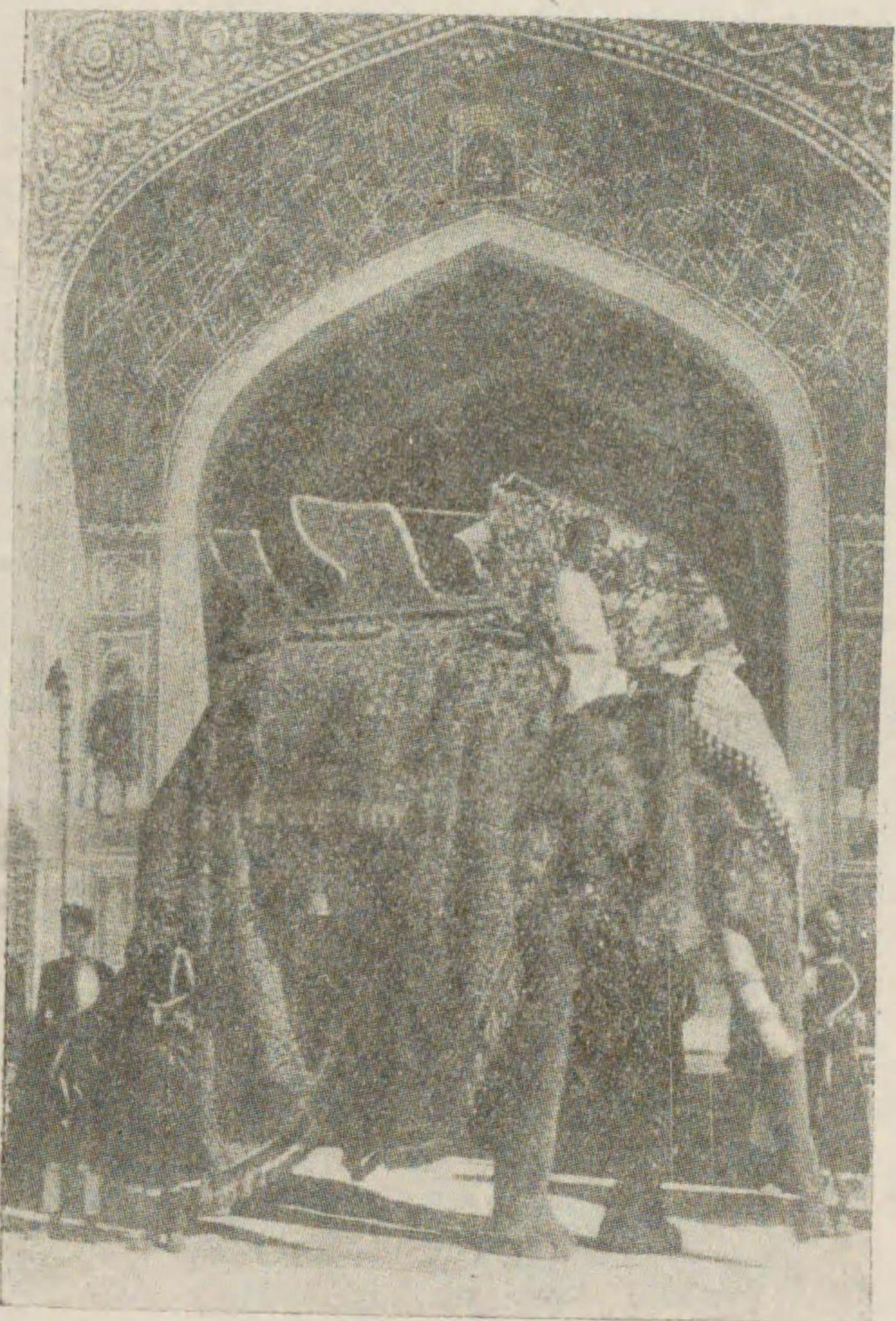
ラムシのラムシ 夏期は印度政府の此地に移りて政治社交の中心地たるを以て、英皇の駐屯地も此地に司令部を置いてゐる。

ンガル、パンジャブ、ビハル・オリッサ、アグラ・オード、中央州ベラル、ボンベ、アルダマ
ン・ニコバル、デリー、アジミル・メルワラ、クールグ、北西國境の十三州にビルマ及ベルチ
スタンを加へた十五州で、同じく州であつても知事に依つて行政されるものと高等委員によつ
て行政されるものとの二種に分れ、右の内アンダマン・ニコバル、デリー、アジミル・メルワラ、
クルーグ、北西國境、及びベルチスタンの六州だけが委員州として印度總督の直轄に屬し、こ
れらの州は地方議會を有せず州委員の獨裁に委ねられてゐる。知事州は地方立法議會を有し、
議員中から二名乃至三名の州大臣を選任し、印度政府から委譲せられた衛生、教化、農業等に
關する事項を自主的に處理する權限を以てゐるのを特徴とする。又ベンゴール、ボンベ、マ
ドラスの三州は歴史的の理由から州といはないで省と稱し他の州とは區別されてゐる。各
州とも州を部に分ち、部を更に區に分ち、部に委員、區に區官又は代理委員を置いて一般行政
を行つてゐる。

王侯領と印度政府との關係は、或は條約に依り或は多年の慣習によりて定められたもので、
複雑を極め、印度政府と直接に連絡を保つものと、地方廳に屬するものとの二種があるが、要
するに悉く英國の宗主權の下に立ち、宣戰媾和の權なきは勿論、その外交權は全く英國の掌中

に存し、渉外的事項は假令王侯領相互間のものとも雖も王侯領間の直接交渉を禁せられてゐる。但し有力な王侯領中には貨幣鑄造權や独自の軍隊を有することを許可されてゐるものがある。印度政府は王侯領に對し悉く政務官を派してその施政を監督し、内政に付王侯領君主に獻言す

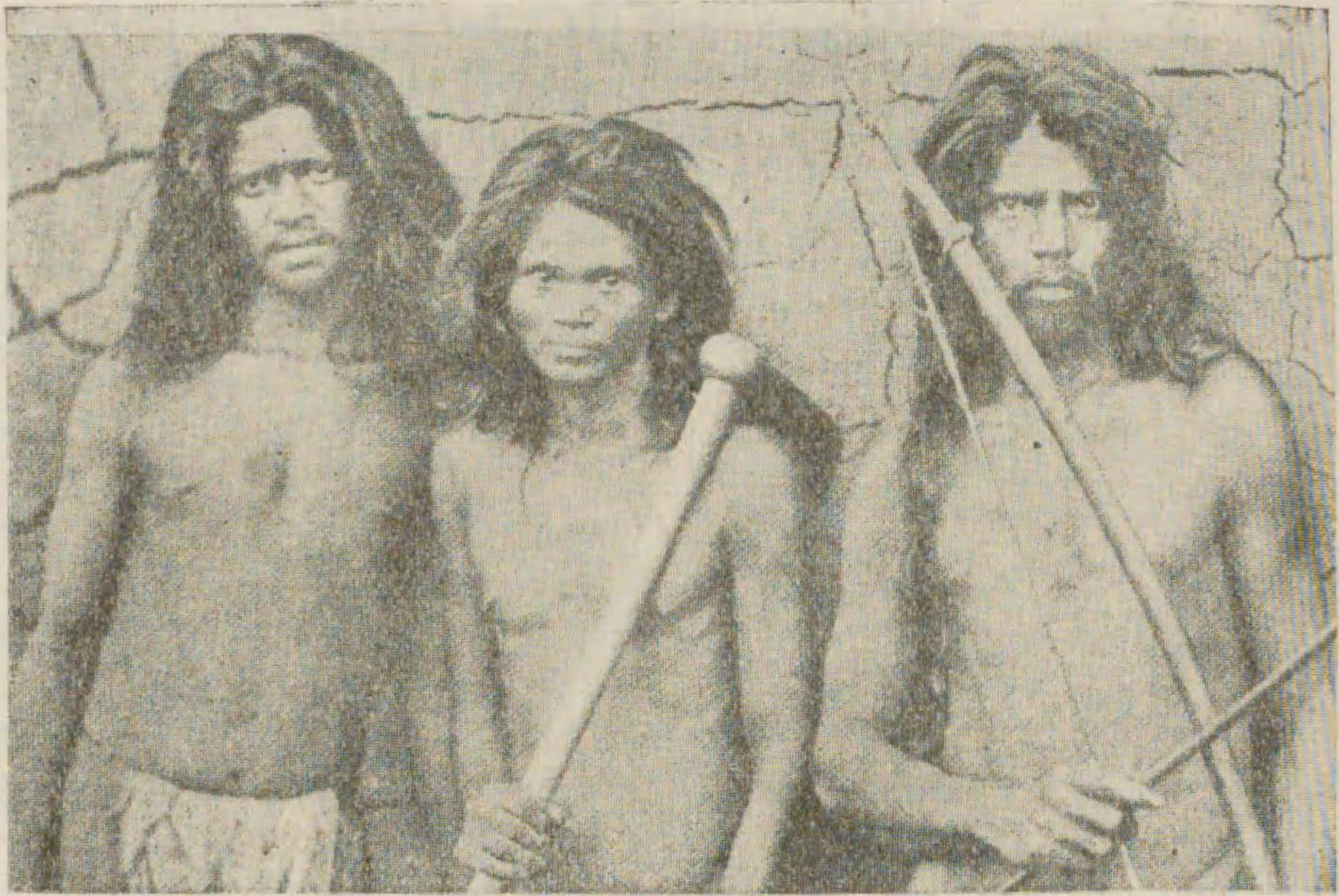
ると共に、印度政府と密接な聯絡を取ることにしてゐる。七百近い王侯領中、面積人口其他の見地から稍重視すべき實力を有するものは、約七十ばかりもある。



象儀の装 油打に護儀に乘りなれらるる眞紅の服を着た美しき馬を飾つた燦爛たる象に從者や進行する者

人種

印度の原始住民たるヴェダ種族は、今日では交通不便な南印度及び北デカンの山地に多少殘



ダエヴ族の風貌 何れも野蠻の狀態を維持してゐる。この寫眞が示す如く彼等は如何にか昔に印度に居た種族で今尚ほ何れも野蠻の狀態を維持してゐる。この寫眞が示す如く彼等は如何にか昔に印度に居た種族で今尚ほ何れも野蠻の狀態を維持してゐる。

於ける住民の主要な部分を占め、ベンガル地方ではドラビダ種類と混血して所謂後種ドラビ

ビダ族と稱せらるゝ系統をなしてゐる。其他に猶太種族、亞刺比亞種族等も混在し、一言にして盡せば人種的に複雑な國である。

言語

印度に於ける言語の種類は頗る多く、最近の調査に依れば全土で行はれてゐる土語の種類は二百二十二種に及んでゐる。それらの言語が地方特殊の文字で書き綴られるのであるから、複雑なること言語に絶する次第であるが、さればとて各言語間に劃然たる區別が存するのではなく錯雜混淆して各地方々々で局部的に行はれてゐる有様である。これら多種類の土語中廣く分布してゐるのは西印度語の九千六百萬、ベンガル語の四千九百萬、テルグ語の二千三百萬人等を最多とし、マラト語及びタミル語の各一千八百萬人、バンジャブ語一千六百萬、ラヂヤスタン語一千二百萬人、カナル及びオリヤ語の各一千萬人等である。斯る有様であるから別に交際語なるものを定める必要を生じ、北部及西部印度では印度語即ちヒンドスタン語を以て交際語としてゐる。印度政府も言語統一の必要から小學校では英語を修習させてゐるけれど、就學率の低い印度では之によつて目的を達することは困難で、現在英語を日常語として使用する

複雑なる言語

産業

英國の寶庫

印度では住民の約七割一分が農業に従事し、一割七分が商工業に従事してゐる。元來天産物の豊富多様な國土であるだけに英國がこゝから得る所の富は甚だ多大で、印度で産する原料品はすなはち英國の工業を養ひ、そして英國で造られる多額の完成商品は又印度に輸入されて英國の貿易を盛大ならしめるのである。印度は英國に取つてまことに寶の庫である。

主要農産物

○農業 耕地面積が廣い上に季節風によつて降雨が潤澤であり、冬季が暖くて一年二回の收穫が可能であるから、農産物は甚だ豊富である。主要農産物の年産額を示すと次のやうなものである。

印度の牛

米(三千百萬噸)小麥(八百七十萬噸)茶(十六萬五千噸)珈琲(一萬二千噸)砂糖(二百五十萬噸)油料種子(三百六十萬噸)綿(六百萬俵)黃麻(八百萬俵)護謨(七萬噸)
○牧畜業 印度人は非常に牛を大切にす民族で、或る西洋人が「印度はやがて牛に喰はれてしまふだらう」と評した程牧牛が盛である。最近の統計によると家畜飼養數は次のやうである。
牛(一億一千七百萬頭)水牛(二千九百萬頭)綿羊(二千二百萬頭)山羊(二千四百萬頭)馬(百七

十萬頭) 驢(百四十萬頭) 駱駝(四十萬頭)

○鑛業 石炭は北デカンのゴンドワナ炭田を主とし、アッサム、ラヂブタナ等で採掘され、石油はアッサム、パンジヤブ等から出る。鐵はオリッサ州のシングブハム、マウルブハンジ、金はマイソルのコラルで採掘されてゐるが概して鑛業は餘り盛でない。砂金も諸處に産するけれど、副業的の範圍を出でない。

綿と麻

○工業 最も盛なのは綿絲紡績で、錘數約九百十二萬錘を算し、年産額は約八億封度内外である。綿布の製織も亦之に伴ふて發達し、年産額一億五六千萬碼の程度を上下してゐる。製麻業も盛で、多數の黃麻壓搾工場及製織工場が建設され、輸出品としての重要な地位を占め、製鐵業も亦發達し、銑鐵及び鋼鐵が多量に産出されてゐる。其他汽車及び電車工場、精米、製茶、造船等の諸工業、一般機械工業も近年著しく進歩の跡を示してゐる。

都市

莫臥兒の古都

德里は印度の首府で壯麗な建築物が多く、莫臥兒王朝時代の帝宮も残つて居り、世界最大の回教寺院等もあり、人口は三十萬ある。孟買は印度西岸にある印度第一の都市で、人口百十

人口十萬以上の都市は約三十



カルカッタ市の街景 印度東部の社會がこの地を據る地とて長らく印度の首府であつた。たつた大なる建築物が多く、印度の港市として二つの繁榮を争ふ。

ラチ(二十二萬)、カウンプル(二十一萬)、ブリーナ(二十一萬)、ベナレス(二十萬)、アグラ

八萬、印度棉の大輸出港として知られ、商業繁盛を呈してゐる。カルカッタは恒河の末流の一たるフーグリに沿ひて建てられた都市で、

元英國東印度會社が、此地に據つて飛躍をなし、一九一二年まで印度の首府であつた地である。現在でも印度の重要な商港で、名所古蹟が多く、人口は百十三萬餘を算する。カルカッタ港は大船が溯航出来ないで、この地に寄港する大船は下流のダイヤモンド港に碇泊する。其他の都會はマドラス(人口五十二萬)、ハイデラバード(四十萬)、ラホール(二十八萬)、アーメダバード(二十七萬)、ラクノウ(二十四萬)、バンガロール(二十三萬)、カ

(十九萬)を始め十萬以上の人口を有する都市は凡そ三十に達する。尙ほダーヂリンは人口二萬に過ぎないが、東ヒマラヤの前山に據る風景雄大な都會として知られ、印度第一の健康地であると共に、西藏に至る商路の起點として重要な地位を占め、又シムラはヒマラヤ西北部の避暑地として甚だ歐化した都市で、印度政廳は夏季中こゝに移るのである。ペシヤワルは亞富汗斯坦に通ずるカイバル越の麓の終點ジャムルードに近い國防上の要地である。バトナは往古の所謂華氏城の地で、附近のブダガヤと共に佛教史上に因縁の深い都である。

交通

印度には四萬九百五十哩に亘る鐵道網が敷設され、主要なる都市は之によつて完全に連絡し且つ産業上の主要地區を縱横に縫ふて走つてゐる。主要鐵道は、北西ステーツ鐵道、東印度鐵道、東ベンガル鐵道(以上國有)、ボンベイ・パロダ中央鐵道、大印度ベニンシユラ鐵道、ベンガル・ネパール鐵道、マドラス・南マラタ鐵道、ベンガル北西鐵道、南印度鐵道、ビルマ鐵道、アッサム・ベンガル鐵道(以上私設)等である。又國內には新式の鋪裝道路が發達して總延長八萬軒以上に及び、自動車の利用が盛んである。

完全な鐵道網

日本との關係

竝に印度志士の去來

日本と印度との關係は古來佛教によつて深く結び付けられてゐる。則ち佛教の渡來以後日本が之によつて受けた文化並に宗教上の影響は頗る大なるのみならず、現在に於ても日本の佛教は本國の印度に於けるよりも廣く普及發達して日本文化の一特徴たる地位を保ち、之によりて日印間の精神的關係を密接ならしめて居り、明治維新以來印度から日本の佛教研究に來た者があり、又た日本の僧侶にして佛蹟の禮拜乃至佛教研究のため渡印した者も尠くない。政治的方面では、日露戰爭に際し、日本が連戦連捷せることが、いたく印度人を感動せしめ、印度の民衆は之によりて、有色人種は決して白色人種に劣るものにあらずとの信念を生じ、頓に民族的の自覺を強めたのである。是より前、印度人は英國の治下にあつて幾多の痛苦を嘗め、豫て英國の羈絆を脱するため有らゆる畫策を怠らなかつたのであるが、日本の對露戰捷を見て一層獨立の希求を高調し、特に明治天皇の英明なる威烈に憧憬して、御聖影を奉掲し欽仰の意を表すると共に東郷乃木諸將軍の寫眞を争ひ求めて之を室内に飾るといふ有様であつた。斯る情勢

日印間の
精神的關
係

日本の飛
躍と印度
人の自覺

印度留學
生と日本

の下に印度の青年學生間には日本留學熱が起り、大正元年頃には一時四五十人の留學生が來朝して東京の各種學校に入學し、又日本に於ても東京外國學校に印度語科が新設され、印度から教師を聘して印度語の獎勵を圖るといふ有様で、日印關係は近代の學問を通じて頗る密接の度を加へた。然るに斯く印度留學生の來朝は一時盛んとなりしも、何分にも此等の留學生は本國に於て英語教育を受けたものであるに拘はらず、日本には英語だけで都合よく教育を受け得らるゝ適當の學校が存在せず、何れも日本語を基本として學習しなければならぬ不便が存した。來朝後先づ日本語を豫習しなければならぬ面倒があつたのと、一面には物價が高くて費用が嵩むといふ憾みもあつたので、折角日本に心を寄せて來朝した學生も遂に大部分は轉じて米國其他に留學するの已むを得ざるに至り、久しからずしてその數を減じたのは遺憾である。

一方、東京外國語學校の招聘教師として最初に來朝したモウルグイ・バラカトゥラ氏の如きは、最も熱心に學生に接し、且つ自ら日本に對し飽くまで信頼の情を寄せてゐたが、此人は印度の熱心なる革命志士で、來朝以來日本の有志と交りを訂し、又印度事情に關する著述をなして日本國民に訴ふるなど、機會ある毎に印度に於ける英國の壓制を暴露したので英國官憲の忌諱に觸れ、當時日英同盟の結ばれてゐた際でもあり、自然に氏の地位に影響を及ぼし、第一

印度語教
師バラカ
トゥラ印度志士
の來朝

回の聘備契約期間の満了する曉には更に引續き、第二回の聘備契約を取結ばれる事に粗ば話が決定し、日本に於ける有志も外國語學校の學生も喜び居たるに拘はらず、政府の方より自然に解雇する結果となり、氏は萬斛の憾みを吞んで歸國するの止むなきに至つた。然るに間もなく歐洲戰爭の勃發を見るに至り、印度の革命志士はこの機會に乘じ印度革命の目的を達せんとして印度各地に革命運動を起し、又豫て國外に亡命せる印度志士も此機を逸すべからずとして活動を起した。日本へも米國あたりに居た印度志士が來朝して印度方面との連絡を取りつゝ、畫策に努め、又既に印度革命運動に失敗して日本に亡命してゐた印度人もあつて、一時東京は東洋方面に於ける印度革命志士の集合地となつた。これらの士は大正四年秋、大正天皇御即位の大典に際し、上野精養軒で御大典奉祝會を催し、米國の亡命先から來朝したラーヂバト・ライ、ヘランボラール・グブタ、印度から來朝したラス・ビハリ・ボース氏等が主となつて、東京在留の學生、横濱在留の貿易商等の主なる者が數十名集り、日本有志家も參列して、大に日本の新陛下の萬歳を奉祝した。この席上に於ても奉祝の式後、自然に政治に關する意見が出て慷慨激越の演説を試みる者もあれば、印度の革命に關する自己の主張を述べる者もあり、頗る活氣を呈したが、此事が忽ち英國の官憲側の知る所となり、その結果英國側からは、當日上野精養

英國官憲
の壓迫

頭山翁等の任侠

三つ巴の波瀾

軒に集つた印度人中には獨逸と通謀して叛亂を企てる陰謀を抱く者があるといふ口實の下に、日本政府が彼等に對し退去を命ずるやうにと要求するに至つた。ラーヂバト・ライ氏等は此の問題に先つて日本を退去したが、之れが爲めボース、グブタの二氏に對しては同年十一月日本政府から諭旨退去を命ずることゝなつた。日本を退去すれば必然退去先でこれらの士が英國官憲に逮捕され、その運命は測るべからざる危険を孕んでゐるので、日本の有志家は非常に之に同情し、政府に退去命令の取消方を交渉したけれど政府は之を認容しないので、右二士が愈々明日横濱を出發すると頭山滿翁の邸に告別に來たのを機とし、之を隠匿して纔に退去處分より脱れしめたのである。其後グブタ氏は當人の希望に任せ兩三月を経て機會を窺ひ米國に渡らせたが、ボース氏の方は依然日本内地に潜伏せしめ、暫らくの間は日本有志家が飽くまでも之を隠匿庇護せんとするに對し、外務省竝に英國大使館は之を發見せんとし、有志家と外務省と英國大使館とは恰も三つ巴の如く相競ひ種々の曲折波瀾を描いた。しかし結局ボース氏は外務省の諒解を得て日本に歸化する事となり、英國大使館も自然的に之を放任することゝなり、公々然と日本に在留し得る身となつた。其間ボース氏は頭山翁の媒介により相馬愛造氏の長女俊子と結婚し二名の愛兒をも擧げたが、間もなく夫人を喪ひ、今日まで依然在留して印度人の日

ボースの經歷



(念記問訪翁月六年三十正大) 翁ルーゴタと庭家の氏スーボ
馬相姑。秀正男長。翁ルーゴタ、氏造愛馬相舅、りよ左向列前
。子俊妻。子つて女長。氏スーボ、同列後。子良

乍ら數名の盟友と共に印度革命の鼓吹に努めた。世界戦争の起ると共に、全印度に一大革命を

本に來朝する者に對し種々斡旋をなすと共に、常に心を印度問題に馳せてゐる。尙ほボース氏の履歷について茲に少しく紹介を試みると、氏はカルカッタから二十哩許り離れた恒河沿岸の町チャンダルナゴルに生れ、一九〇六年以來印度の急進派の國民運動に参加し、一九一二年印度總督ハーディング卿が印度革命黨員の爆弾に見舞はれて重傷を受け、隨員數名が死亡した際、ボース氏に對する逮捕狀が發せられ、當局は逮捕のため一萬二千ルーピーの懸賞を附し、氏の寫眞は各停車場及び各警察署に掲示された。そこで氏は全く印度内に身を置くことの出來ぬ境遇に陥つたが、巧みに變装して印度各地を廻り

回天の業
蹉跌に歸す

起す計畫で、北部印度千五百哩に亘り、印度人聯隊と聯絡を取りつゝ兵器彈藥を集めて、對英宣戰の宣言書を發行し、バンデヤブ州ラホール市に本部を設け、一九一五年二月二十一日の夜半を期し、北印度一帯に亘り一齊に英國に對する叛旗を翻す手筈を定めてゐたが、早くもその計畫が英國官憲の探知する所となつたので、期日を繰上げ十九日の夜半に事を擧げることゝ決してゐた處、十九日朝英國軍隊は遽に動員命を發して北印度全體に嚴重なる警戒を施し、ボース氏の本部を襲ひ、それと同時に到る處に於て、革命黨員及び印度人軍隊の捕縛を行ひ出したので、計畫は茲に又齟齬してしまつた。この事件のために數百名の同志は死刑又は懲役に處せられたのであるが、ボース氏は纔に身を以て遁れ、ペナレスに赴いて更に革命の計畫を凝らした。しかし事が意の如く行はれないので、カルカッタに赴き日本に向つて亡命すべく決心した。偶々詩聖タゴールが日本訪問の途に就くことゝなつてゐたのを幸ひに、表面タゴールの親戚といふことに取繕ひ、ビー・エヌ・タゴールの變名の下に日本郵船會社の讃岐丸に搭乘し、一等船客として海上無事日本に來朝した。時に大正四年六月であつた。

アタルの
憤死

前に述べた東京外國語學校教師バラカットウラ氏に次で來任した同校印度語教師ハリハルナト・ツラル・アタル氏は、大正五年日本に來り、最初の三年の契約が濟んだ後、學校から切望して二年間の延長をなし、其期限が切れるや更に又任期の延長をなした程、信望の厚い温厚の學者であつたが、大正十年六月、英國官憲の冷酷無情なる壓迫を憤つて、東京駒込の寓居で毒藥を仰いで自殺した。死の原因に就ては左の如き手記が之を語つてゐると共に、アタルその人の面目を躍如たらしめてゐるからこゝに引用する。

〇〇よ、汝は東京に於て、印度のためにも將又日本のためにも一の善事をなさず、唯だ〇國及び〇國のためにスパイを働きつゝある。

〇〇よ、汝が余を裏切れることを謝す。

〇〇大使館よ、印度は吾が血のために復仇すべし。

〇〇宣教師よ、汝等は唯だ日本及び亞細亞の顛覆を企らみつゝあり。

アタル氏は享年僅に三十三歳であつたが、日本に來朝する前は中央ヒンヅウ・カレッジ・ユート・スタールの助教授を勤め、更にアラハバッドの視學補を勤めてゐたのであつて、日本來任は英國大使館の推薦に係るのであつたが、神經過敏な英國官憲は日本來朝後の氏の行動に對して壓迫を加へるに至り、遂に憤激して自殺するに至つたものである。氏の死するや外國語學校主催の下に青山齋場で盛大な告別式が行はれ、更に帝國大學生から成る『日の會』の主催及び外國

盛なる追
悼會

語學校學生主催で二つの盛大なる追悼講演會が催され、大正十一年には頭山滿翁其他有志による追悼會が擧げられ、其後も屢々法要や追悼會が催されて、昭和六年六月にも亦、三年前米國に客死したバラカトウラ氏と併せて深川西光寺に於て盛大な追悼會が行はれた。

尙ほ印度革命の志士としてはマヘンドラ・プラタプ氏が大正十二年日本に來朝した。プラタプ氏は聯合州ムルサンの藩王ガンシヤム・シング・バハードルの第三子で、生後間もなくヘートレスの藩王ハルナライン・シング・サヒブの嗣子となり、アリガルのモヘモダン・アングロ・オリエンタル大學に學んだ青年貴族であつたが、一九〇八年頃、人類と全印度民族のためにその全生涯を献げんことを決心し、プリンダーバンにプレム・マハ・グイヂャラヤ(愛の大學)なる學校を獨力で建設し、育英の業に志したが、歐洲大戰が勃發するや、印度の自由が到來するか否かの千載一遇の機會となし、印度を脱出して瑞西のジュネーヴに赴き、更に轉じて獨逸に入り獨逸に謁見して謀議を試み、獨逸から更に亞富汗斯坦に赴く途中、亡命の埃王前王アツバス・ヒルミルや、土耳其皇帝ムハメッド・カデー五世に會見し、遂に亞富汗のカプールに達して、愈々對英露宣戰の斷行を謀つたが、時の亞富汗王ハビブラー汗の同意を得ずして計畫は空しく挫折に歸した。其後再び獨逸二國を訪ふて畫策に努めたが志酬みられず、前記の如く日本に來朝

革命家
プラタプ日本國民
に告ぐる
書

して我が國の有志家と會見し、亞細亞復興の大業を策し、日本支那等の間を往來して努むる所あつたが、これ又國際的の面倒なる事情は日本の官憲をして彼を永く在留せしむるを許さず、『日本國民に告ぐ』と題した左の一文を残して彼は日本を去つて行つた。

古代の文化と、近代の文明の相合流する我が憧憬の國日本に於て、心なき人々の正しからぬ力が今目前に勝利を獲たことを悲む。望むらくは、此の美はしき國の善き魂を持てる人々相團結して、人類に正義を樹てんとする我等の聖業に精進せられんことを。

一九二六年八月七日

大阪に於て

マヘンドラ・プラタプ

プラタプ氏は歐洲大戰後亞富汗斯坦に歸化して同國の王室顧問となり、亞富汗の非公式使節として日本に來朝し、日本と亞富汗との修交關係について努力したことは亞富汗の部に記載せる通りである。

現代印度の哲學者として將た詩人として世界的に盛名あるタゴール翁は大正五年に米國を経て初めて日本に來朝し、日本に對する好意を披瀝して各學校等で講演を行ひ、朝野の厚い歡迎を受け、深き感謝の辭を残して印度に還つたが、大正十三年六月に再び來朝し、金鈴の如き美

詩聖タ
ゴールの
來朝

Dear friend
I leave this farewell greeting
of fellowship to you on the eve of my departure
from Japan. Let me assure you that it has given
me joy to realise that your mission for the cause
of humanity is mine which is to spread the brotherhood
of man from shore to shore.

June 8
1929

Cordially yours
Rabindranath Tagore

To Mr. Toyama Kyō
Kyō

日本を出發するに際し、予は友人として此の別れの挨拶を貴下へのこす。貴下の人道の大義に對する使命が、人間の友情を岸から岸へと押し擴める所の予の使命と同じであることを知るに及んで、予は頗る歡喜したといふことを貴下にお知らせしたい。

千九百二十九年
六月八日

ラビンドラナ
ート・タゴール

東京
頭山滿様侍史

書手る贈に翁山頭りよ翁ルーゴタ



(軒養精野上於月六年三十正大) 會迎歡翁ルーゴタ
滿山頭。氏之景田肥。氏之弘中田。氏郎五和田福りよ左向列前
氏明高保久大。氏夫信佃。氏助之安鍋田。翁ルーゴタ賓主。翁
佐。氏久能生葛。氏則尙本藤。氏一巳野河。氏スーボ、同列後
小。氏助之甚野佐。氏平良田内。氏郎五安木々佐。氏郎次保木々
小。氏郎次徳田柴。士博一義島副。士博吉隆藤遠。氏郎五久畑
氏郎太郎幡小。氏藏謙田細、同列三第。氏南劍田山小。氏平運川

多大の感銘を與へると共に、日本の朝野から盛んな歓迎を受けた。殊に當時頭山滿翁を中心とする有志家の歡迎會では非常に感謝の意を表し、平素詩を作つて他に贈るやうなことの稀なるに拘はらず、頭山翁へは特に自ら讚詩を作つて贈つた。昭和四年の春には三度目の日本訪問をなし、日本の事物に對する限りなき好感を表明し、印度に於て自己の經營する國際大學のため、講道館の高垣信造氏(六段)を柔道師範として、又日本女子大學出身の星まき子女史を教師として招聘した。

聲と詩の如き麗句を以て、深遠なる東洋思想の精神を説き、

最新亞細亞大觀

ポール・
リシャール・
ル
天皇主義
の高調

又、大正七年には佛蘭西人法學博士ポール・リシャール氏が印度から來朝した。氏は印度の哲人アラビンダ・ゴシユ氏と最も親近の關係を有し、ゴシユ氏に心服して師弟の禮を執つてゐる人物であるが、日本に來朝して深く、皇室の御盛徳に推服し、日本の天皇主義に他のよき思想を加味すれば、之こそ世界の人類を救ふ道であるとの信念を抱き、「日本國民に告ぐ」と題する浩瀚の論文を著述し、之を朝野の間に配布したが、その適切なる觀察と高邁なる文章は日本國民をして眞に知己を得たるの感に堪へざらしめた。黒龍會に於て英文雜誌ゼ・エシアン・レビューを機關として發行するに當つても喜んでその編輯顧問たることを諾し、日本主義を世界に宣傳するため熱心に力を注ぎ、同志の聲價をして高からしめ、歐米に於ても東洋に於ける權威ある英文雜誌として尊重せしむるに至つた。大正八年三月、在野三十七團體が一致して、人種的差別撤廢期成同盟を結成し、築地精養軒に大會を開いて、從來、國際間に行はれたる人種的差別待遇の撤廢を期する旨を決議せる際にも、リシャール氏は熱心に之に賛し、特に大會に出席して賛成演説を試み、日本の有志を激勵するに努めた。右の決議に基く人種的差別撤廢運動の主張は、ヴェルサイユ媾和會議に於て日本の代表委員から提議したが、不幸にして英米の反對によりその目的を遂ぐる事が出来なかつた。リシャール氏は日本の有志家と共に非常

人種差別
撤廢運動

に之を遺憾とし、是非とも目的の貫徹を期せねばならぬと稱してゐたが、翌大正九年三月再び印度に赴くや、アラビンダ・ゴシユ氏の許にあつて印度の有志家並に一般民衆に對し、依然人種差別撤廢問題を熱心に説きつゝあつた。

鹿子木氏
等の訪印

大正時代に日本から印度の視察に赴いた特殊の人としては、大谷光瑞氏及び文學博士鹿子木員信氏の二人がある。兩氏とも英國官憲のため非常に警戒の眼を以て監視され、殊に鹿子木博士は一時投獄されるやうな憂目に遭ひ、非常な壓迫を受けた後退去命令により歸朝を餘儀なくされたのであつた。

要するに日本と印度とは古くから佛教によつて結ばれ、不言不語の間、兩國民の精神にはおのづから互に感通する所がある。是れ前述せる如く兩國の有志が劇的場面を展開して同情同感の火を燃やす所以であらう。現に神戸、横濱等に店舗を有する印度人の貿易商は百軒にも及ぶであらうが、彼等も日本に對しては非常に好感を抱き、親日家としての本領を永久に失はざる態度を示してゐる。

又た貿易關係に於ては印度は日本製品の重要市場で、米國及び支那に次ぐ輸出先である。日本から印度への輸出額は日本から歐洲全體に對する輸出額よりも多く、殊に輸出品は從來その

貿易關係

對印輸出
の増進

一半が綿布であつたけれど、他の一半は日本の工業製品の殆ど全部を網羅し、大體に於て日本の製品は印度人の嗜好と民度に恰當するので歓迎を受けてゐる。綿布は關稅引上により日本品が差別待遇を受けることとなり甚だ不利の立場にあるが、過去の統計によると、歐洲大戰前に比し輸出額が六十二倍に躍進し、日本の人絹交織物は最近六年間に千碼から二千五百萬碼となり實に二萬五千倍した。その他瑣瑣鐵器は價額に於て三百七倍し、絹交織物が同様七十六倍し、硝子及陶磁器が同じく五倍、玩具が三倍し、純絹織物を始め上記の品其他莫大小、木材、樟腦等の供給に於ては日本が第一位を占めてゐる。印度から日本へは棉花を大宗とし銑鐵、鉛、ゴム煙草、茶、藥材、油脂類等が輸入される。最近の貿易状態は次の通りである。(單位圓)

昭和四年	一九八、〇五六、九六八	輸出	二八八、一一九、六四四	輸入
同 五年	二二九、二六二、三七五	輸出	一八〇、四〇五、二四九	輸入

我が綿製
品の進出

○日英の紡績戰 日本紡績に約七倍する生産力を持つ英國紡績は、久しい間、印度、近東、亞弗利加の各市場に雄飛してゐたが、近年日本綿製品の進出が目覺ましく、到る處で英國製品を凌駕し始めたので、之が對抗策として昭和五年春印度政府を動かし「輸入綿布の關稅を一割一分より一割五分に引上ると共に、向ふ三年間英國品以外の輸入品に對し五分の附加税を加徴

し尙ほ生地綿布に對しては一封度につき最低三アンナ半を課す」といふ關稅引上案を印度議會に提出させた、即ち英國品のみは特別扱ひとし、日本品に重い關稅を課して甚大な打撃を與へやうとした。これに對し帝國政府は印度及び英本國政府へ嚴重に抗議したけれど效果なく、印度議會は僅な修正を加へたゞけでこの關稅引上案を通過させてしまつた。之が爲め日本品は英國品よりも高い稅率を課せられ、殊に生地綿布は禁止的重稅を課せられることとなり、日印の經濟關係を甚だ惡化せしめたのである。

印度に於
ける日本
人

○在留邦人 カルカッタ總領事館管内に三百二十八人、孟買領事館管内に四百七十四人、コロンボ領事館管内(錫蘭島)に五十八人の邦人が在留してゐる。その職業關係を見ると、會社銀行商店員が最も多くて二百三十一人、官吏、雇員十八人、貿易商四人、醫業關係者十九人、教育關係者三人、理髮、浴場業等二十九人、物品販賣業十七人、旅館料理藝妓業等十六人、大工左官、石工、ペンキ職等十三人、工場勞働者二十八人、藝妓酌婦七十二人等である。

○主なる會社商店 カルカッタに正金銀行、三井物産、日本棉花の各支店、萬歲商會、エサビ燐寸工場、カルカッタ燐寸工場。孟買に正金銀行、日本郵船、大阪商船、日本棉花の各支店、マンデリー燐寸會社、ボリゾリ燐寸工場、東洋ボーダー紡績工場等がある。

歴史

總て是れ被征服の歴史

古代文化

印度の歴史は外國の爲に征服せられた歴史である。一の民族が侵入して征服すると他の民族が來て之を征服し、更に復た第三の民族が來寇して前者を驅逐壓迫するといふ有様であつた。太古に於けるアールヤ族、中世に於ける回教徒、近世に於ける英國人は即ち是れである。

有史以前、非アールヤ族が蟠居してゐたことは、前項人種の條で之を述べた。アールヤ族は初め信度河の邊に移住したから其國名を身毒と稱した。此種族は今から三四千年前の頃、カシヤ河（恒河）の兩岸に蔓延し、達羅毘茶族を征服して、數多の國を建て、經典吠陀に據て婆羅門教を創め、又聲明（語學）、巧明（星學、數學、機械學）、醫方學（醫學）、因明（論理學）、內明（哲學）の諸學を興し、燦然として文明の光を放つた。其後百五十年希臘の歴山大王は波斯を征服して印度に入り、信度河の地方を平げたが、マウリア王朝の旃陀羅・笈多是兵を起して希臘の守兵を驅逐した。笈多の孫阿輸迦王は有名な佛教信者で、八萬四千の寶塔を建てた。幾くもなくしてマウリア朝亡び、其後旃陀羅・笈多や其他の諸王朝が興廢した。超日王や、戒日王や、大月氏の迦膩色迦大王などの現はれたのは其後である。



印度王族の兵衛
印度王族の兵衛は、白き服を着、赤き帯を佩き、手に杖を執る。其の姿は、印度の王族の兵衛の如し。

回教のマームードは紀元十一世紀の頃印度に侵入し、ムハメッド・ゴッリも之に次で印度を蹂躪した。奴隸王朝の開始から莫臥兒王朝に至る三百年間は回教徒の最も暴威を振つた時代である。莫臥兒の始祖バベルは亞富汗斯坦を経て印度に侵入し、回教及印度兩教徒の軍を撃破して、北部印度を併呑した。バベルの孫アクバルは賢明で雄略があり、印度教徒の娘を娶つてアラに都し、印度教徒を任用して制度を定め、弊俗を革め、文學を奨励した。アクバルの曾孫アウラングゼーブの死後、波斯王ナデル沙が印度に侵入し、諸將が各地に分立して諸王朝を創めた。

次に英國の權力が現はれて、印度は遂に英國のものとなつたが、その征服は一に東印度會社

府が右の自治施行の公約を果すべく、一九一九年に實施した所謂モンターギユ・チエルクスフォ



進行の動運英排 度印ぬれ知もと萬何はれこ、るれは現てつなと動運威示るな盛
寫るゐてし進行を中市イベンボムつび叫を治自の度印が衆民の
るあで眞

ード改革と稱せらるゝ新統治法は、蓋を開けて見ると意外にも期待に反する微温的な改革で、單に印度の地方自治行政に關し若干の地方分權的改革を行ひ、一般行政については、行政各部に印度人の参加を増加すること、漸次自治制度を發達せしむること、やがて英帝國の一分子として印度に責任政府の樹立を實現せしむることといふ程度のものに過ぎなかつたから、折角自治の獲得を目當にして歐洲大戰に参加した印度人は非常に失望し、忽ち激烈なる反英運動を捲起することゝなつた。この反英運動の中心人物として現はれたのが、彼の有名なるマハトマ・ガンヂーである。ガンヂーは「印度を蹂躪するも

失望と反動

ガンヂーの投獄

のは英國と近代文明である」と叫び、西洋文明排斥と印度國粹主義とを旗印にして、無抵抗の抵抗と稱する非暴力行爲によつて示威運動を開始し、印度の民衆は熱狂して之に参加したが、さながら燎原の火の如くに燃え擴がつたこの反英運動は、勢の激する所遂に各地に警官軍人對民衆の衝突を惹起し流血の慘事を演ずるに至つた。よつてガンヂーは暴動化せる民衆の反省を促し、爾後反英運動は不納税の一事に限ることゝしたが、不納税の結果は勢ひ政府の權力が不納税人の上に及び、土地を沒收せらるゝ者が多くなつたので、忽ち又これがために騷擾を惹起し、暴動は益々擴大するのみであつた。こゝに於て印度政府は一九二二年遂にガンヂーを捕へて六年の體刑に處した。

かゝる騷擾の裡に三年の歲月は過ぎて、前記の新統治法によつて改選された印度議會には新に議席を得たる印度人の参加を見（印度人の民選議員數は政治上の區劃の項參照）暴力を加味せる反英運動を中止して議會主義で進まんとする傾向を生じたが、しかしそれによつて自治獲得の要望が緩和された譯ではなく、議會に於ては自治派が多數を占め、印度人各派代表の圓卓會議を召集して新憲法草案を作り、之を印度議會及び英國議會に提出してその通過を計り、直に印度に自治領的地位を齎らさんことを企つるに至つた。この希求の下に一九二四年二月印度

英國の反
省

議會で印度自治促進決議案が可決され、印度政府當局がこの形勢緩和のために講ずる所の施設は却つて印度人の反感を昂むるに過ぎなかつた。英本國に於ても印度の實情に鑑み、前にモンターギユ・チエラムスフォード改革の際、十年後を期して特別の委員會を組織し、印度に於ける諸般の事項を調査せしめ、責任政府の原則を採用することの可否及び新に行ふべき改革の程度等につき意見を具申せしむべき旨宣言してゐたのに對し、右の期限を二年だけ早めて一九二七年自由黨下院議員サー・ジョン・サイモンを委員長とする印度統治法審査委員會を設置したが、該委員會には一人の印度人をも参加せしめてゐなかつたので、是れ亦印度人の不満を招きベンガルの自治黨が「印度の憲法は印度人自身の作るべきものである」と聲明したのを發端に、不平憤慨の聲各所に起り、同年末マドラスに開いた印度國民會議執行委員會に於ては、サイモン委員會をボイコットすべしと聲明し、それと共に新嘉坡軍港撤廢案をも可決した。サイモン委員會の一行は一九二八年より二九年に亘り二回印度を訪ふて各地を巡歴し、諸般の調査を行つたが、一行の印度に到着するや、カルカッタ、マドラス、ボンベイの各地に於て猛烈なる排英運動が起り、特にボンベイに於ては各工場に大罷業が行はれて頗る險惡なる形勢を呈した。一九二八年十二月カルカッタに開かれた全印度國民會議では、印度人ネールによつて起草さ

猛烈なる
排英運動印度憲法
草案

れた印度憲法草案が提出され「印度に自治領の地位を許し即時印度事務省を廢し、政權を英人の手より印度人選舉有權者に移轉すべし」といふ要求を含めて採擇となり、愈々自治獲得に向つての氣勢を強烈に示したが、翌一九二九年十月には印度總督アーウィン卿が印度統治に關する聲明書を發表したのが動機となつて、英國の上下兩院で印度問題が討議され、その内容が知れ渡るや一層印度人の對英感情を刺戟し、同年十二月アーウィン卿の乗つた汽車が爆破され、總督は辛ふじて難を免れたといふやうな事件が出來した。次で德里で行はれたアーウィン卿とガンデー及びネール等との會見も自治問題に關する意見の不一致で決裂に終り、同年末ラホールで開かれた印度國民會議は「印度が獨立を遂ぐるまで印度國民會議黨員は印度議會にも州議會にも参加せず、又議員選舉の投票にも参加せず」といふ決議案を可決し、且つ「我等の標榜する自治の意味を完全なる印度の獨立と定義する」旨をも決議して、年内に印度獨立の手順が行はれないときは對英非軍事的反抗運動を開始することに決定した。

斯くて一九三〇年となるや、ガンデーは三月二日總督に對し最後通牒を發し、八日の期限を附して、この期限内に要求が容れられざるに於ては斷然對英非軍事的反抗運動を開始する旨を告げた。勿論その要求は印度總督の容るゝ所とならず、それが拒絶せらるゝや、忽ち悲壯なる

自治とは
獨立の義

サイモン
委員會の
報告書

く能はざらしめたのである。

この騷擾に促進された結果か、同年六月に入るや豫て作成中であつたサイモン委員會報告書は前後二回に亘つて發表されたが、該報告書においては一九一九年の印度統治法を改正して、州政治を自治の上に置くこと、現在の立法議會に代へるに聯邦議會を以てし、總督は單に形式的に英皇帝を代表するに止らず、實際上の權力者として充分の權能を附與さるべきこと、守備軍存置は必要缺くべからざること、改革の範圍は全印度に及ぼすこと等を示したもので、印度の急進主義者に充分の満足を與へるだけの内容を有せざるは勿論、漸進主義者の間に於ても甚だ不評であつた。唯だサイモン委員會の報告が發表されたら、英領印度と印度王侯領との代表者を會同し、兩者間の關係を明にすると同時に、印度統治法の改正に關してサイモン委員會の報告に基き協議を遂げることになつてゐたので、同年十一月から英京倫敦に英印圓卓會議を開くこととなり、印度からは英領印度及び王侯領の代表者七十餘名が出席し、英本國側からも政府及び在野黨側代表十三名が參加して一九三〇年十一月十二日から翌三一年一月中旬まで會議を續行した。この會議にはガンデー一派の急進主義者の參加を見なかつたので、大勢は英國側の希望する通り極めて穩和なる主張の下に終始するものと豫想されてゐたところ、事實は全然

英印圓卓
會議

英國側を
驚愕せし
めた主張

豫想に反し、印度側からは一齊に完全なる自治領たる地位を獲得せんとする要求が力強く主張され、英國側をして事の意外なるに驚愕せしめたのである。斯くしてこの圓卓會議は「將來の印度は聯邦たるべきこと」を根本方針として議事を進め、英國は讓歩し得る最大限度まで讓歩する態度を示して會議を終つたのであるが、しかもその結果を検討して見ると殆ど具體的の協定といふべきものは作成されず、將來の印度統治の方針が大體輪廓づけられたといふに過ぎなかつた。

しかし、この圓卓會議によつて英印關係は著しく改善され、印度人に將來の希望を與へたのは事實で、其後印度政府はガンデー以下の政治犯人を釋放し、一九三一年三月アーウィン總督はガンデーと會見して意見を交換した後、左の如き條件の下に平和協定を成立せしめた。

平和協定

一、印度國民會議側としては不服従運動を停止し、第二圓卓會議に參加すること。
一、政府側としては不服従運動に關する總督令を廢止し、非暴力政治犯人を赦免し、原則として沒收財産の返還及び罷免官吏の再採用をなし、且つ沿岸地方住民の使用に供する鹽の製造を認許すること。

一、ボイコットに就ては政治的武器としての英貨排斥は停止せらるべきも、國產獎勵及び禁

酒運動としての平和的見張は容認せらるゝこと。

而してこの平和協定は他面に於て、ガンヂー及びその麾下に屬する國民會議の同志が絶對的完全なる獨立を目標とすることを條件とし、當面の過程として全印度聯邦組織計畫を認容して、聯邦制を基礎とする憲法制定につき、英印提携して努力すべきを諾したことを意味するのであつて、英國側の態度如何に依つては、從來繰返された印度獨立に關する波瀾と悲劇とは緩和されるものと思はれる。同月末カラチに開かれた全印國民會議に於てもアーウイン・ガンヂー協定は異議なく可決され、印度の政治運動は聯邦制度の實現を目標とする圓卓會議を中心として穩健なる歩みを進めるべき可能性が愈々確實となつた。とはいへ右の全印國民會議に於ける決議には「印度獨立を以て飽くまで最終目標と定むる」旨を高調してゐるのであるから、今後開かるべき圓卓會議が英國側の注文通り穩健一方で苦もなく議事を進捗せしめるものとも思はれず、圓卓會議の使命が一層重要性を帯びると共に、完全なる歸結に達するまでの推移は大いに注目に値する譯である。

聯邦制度
を目標に

註 マハトマ・ガンヂーは明治二年十月西部印度カチアワール王領首都ボルバンドルに生れ、十九歳の時倫敦に遊學して法律學を修め、二十三歳の時辯護士免狀を得て歸國し辯護士となつたが、其後亞非利加に於て印度人が迫害を受けつゝある

を救ふため義侠的の活動を試みたのを發端に印度人の向上に努力し、やがて英國の暴壓に對し、反抗的態度を取るやうになり「受動的反抗」と「眞理把持」とを主義として印度獨立のため献身的努力を續けてゐる。マハトマとは英靈といふ意味の語で、印度人が彼を尊敬して斯く稱するのでモハンダス・カラムチャンド・ガンヂーといふのがその本名である。

政治上の地位

印度は今聯邦組織に向つて進まうとしてゐる。昭和五年(一九三〇年)十一月から同六年(一九三一年)の初頭にかけて倫敦で開かれた英印圓卓會議は、所謂サイモン委員會の勸告案に基いてこの方針を採るに意見が一致し、豫て反英運動のために投獄されてゐたガンヂーも釋放され、印度總督と會見の結果、聯邦制を基礎とする憲法制定に關し、英印提携して努力することを諾したのである。この憲法制定に關する英印圓卓會議は昭和六年九月から倫敦で開催されてゐるが、四圍の事情に著しき變化を生ぜざる限り、聯邦案は實現を見るに至るものと期待される。しかしながら一概に聯邦案といつても、その實質上の主張に至つては、おの／＼の立場によつておのづから異らざるを得ず、各自の理想に合致した圓滿無礙の聯邦國家を創造するといふことは可なり難かしい事業であり、従つてこの圓卓會議が相當の波瀾曲折を見るべきは豫測するに難くない。

聯邦案と
英印提携

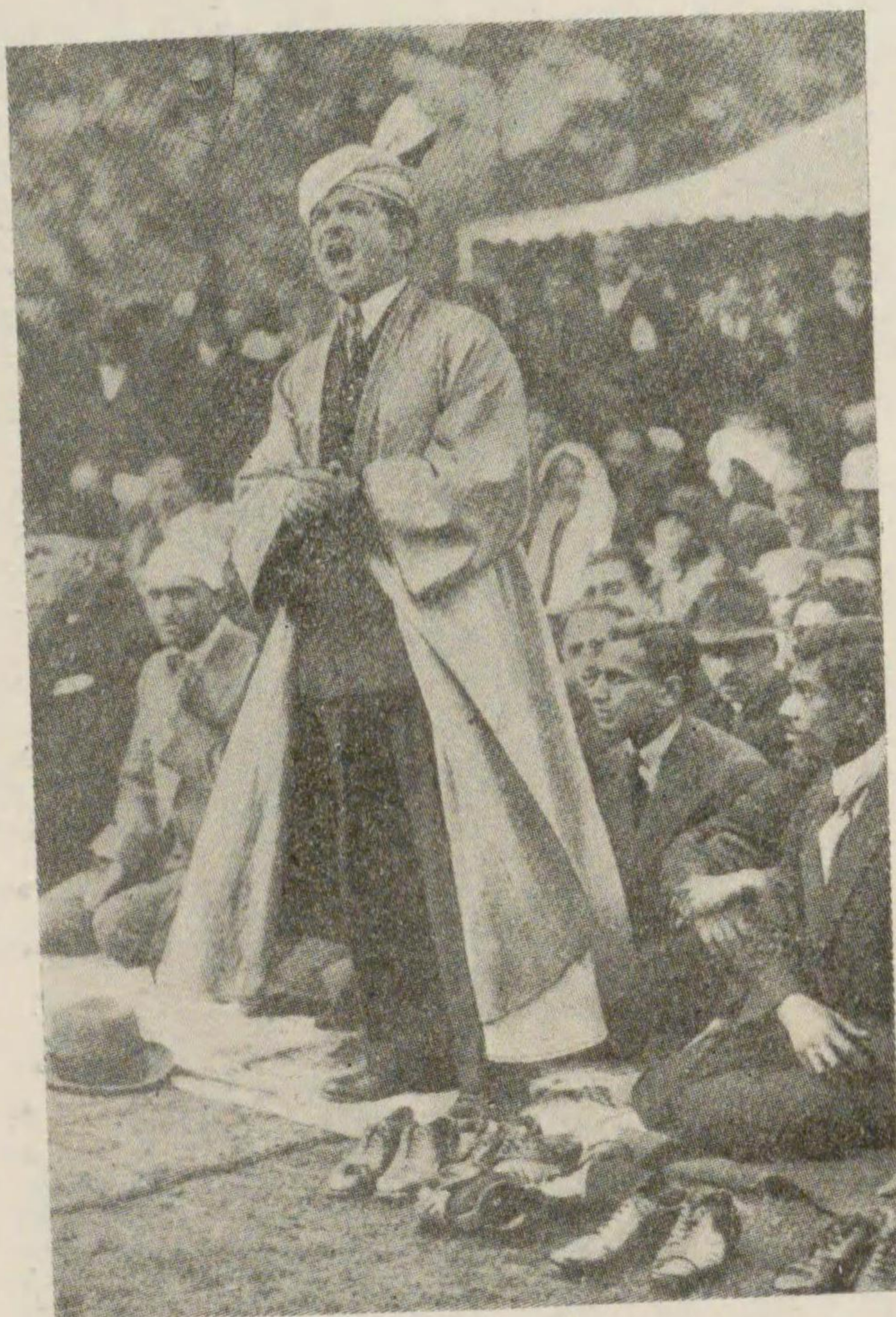
及び印度の政治家の一部が完全なる獨立を目的とするが如き聲明をなせるに鑑み、土侯領主は、英國皇室との條約及び公約に基く相互的の義務よりして、土侯國と英領印度との關係整理を目的とする提議に對しては、その英國との結合を前提とするものにあらざる限り同意し得ざることを茲に記録に留める」といふ意味の決議をなして、獨立運動に反對の意を表明し、英國系の印度新聞などは之を急進政治家に對する頂門の一針として大々的に歡迎したのである。さればこそサイモン委員會の報告書に於ても「新に制定さるべき憲法は、諸王侯が公正適當な條件において之を受諾し得るやう制定されることを希望する」といひ、「組織において非常な差違のある英領印度と王侯國を各自主權を保留したまゝ結合し得るものは聯邦組織以外にない」といふ結論を産み出したのである。このサイモン委員會の報告書は、凡そ英國人として最も公正な良心と判斷によつて作成されたものであるのは疑はないが、一面から見れば王侯領の思惑に重點を置いて、出來得るだけ印度自治の要求を阻止しやうとする用意が其處に窺はれないでもない。蓋し諸王侯が異議なく受諾するやうな條件を具備した憲法といふものは、印度の獨立を企圖しつゝあるガンヂー一派の要望するものとは非常に大きな距離を有するものとなり、實際において目覺ましい改革が斷行されず、何時までも印度を自己の支配下に置かうとする英國の注

サイモン
委員會の
結論

自治反對
の理由

文に都合よくあてはまるものとなるからである。

次に英國が印度に自治を許すことの出來ない理由として擧げてゐるのは、人種の多種多様なこと、異宗教が對立して異教徒相互間の融和の困難なること、言語の複雑多岐なること、文化の程度が甚だ低く政治的の訓練の缺けてゐること等の諸點であるが、就中、印度教徒と回教徒とが互ひに



叫ぶユミツジ 叫ぶユミツジ 叫ぶユミツジ
時刻の呼報する者 回教徒の徒 日祭はで教回
ふい、圖印は回教徒の徒 着き法を服法き捲をンバータ
祈禱の開始を呼報してゐること

徒と回教徒とが互ひに

憫むべき
民衆

信仰上の立場から衝突を繰返してゐるのに對し、特に重要な意義を附し多數の印度教徒が少數の回教徒を壓迫する情勢にあるから、回教徒を保護するために自治を拒否せざるを得ないやうに宣傳し來つてゐるのである。又印度人の文化の程度が低いといふのも事實であつて、今日五

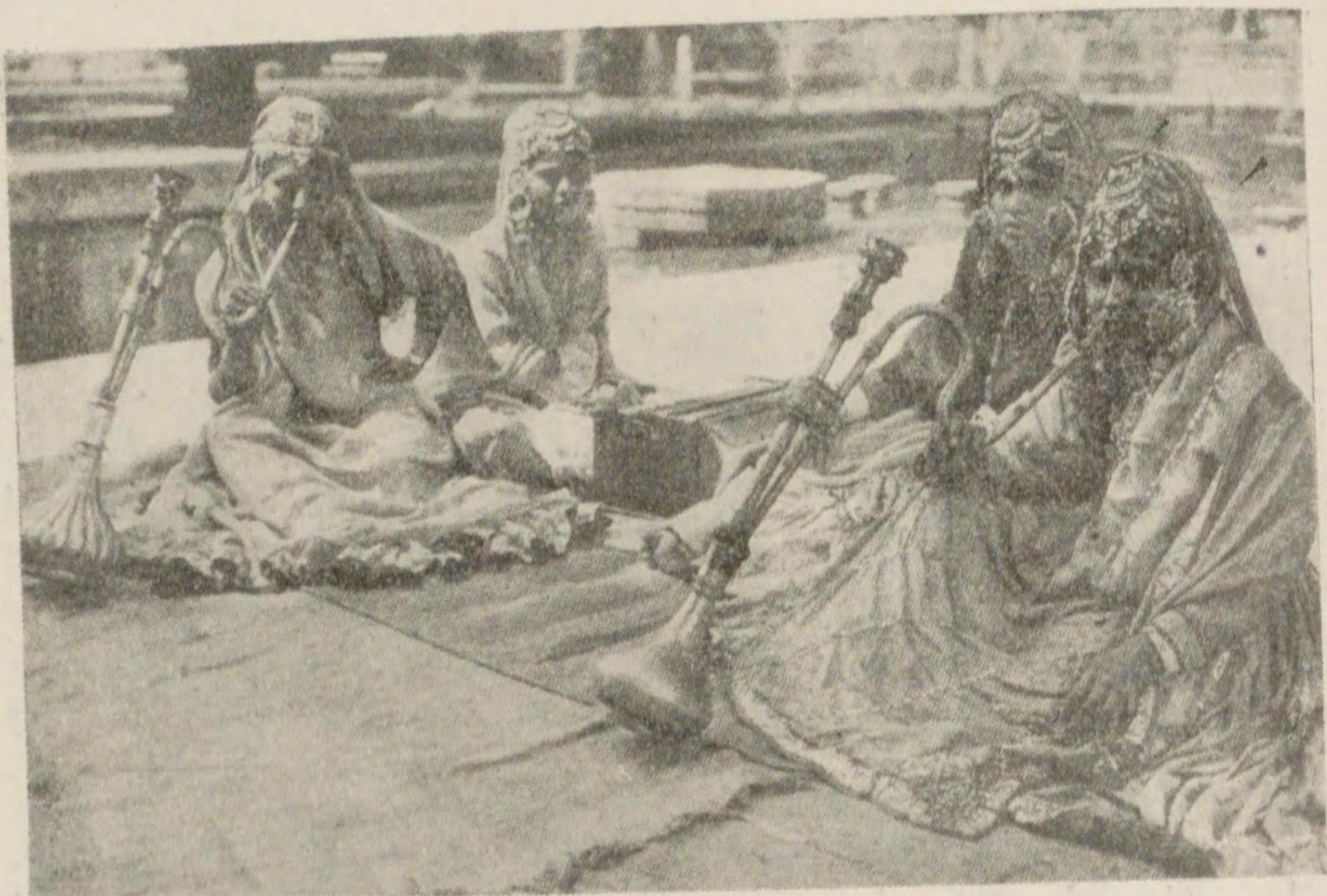
歳以上の印度人中、男子は一割三分、女子は二分一厘しか讀書力を持つてゐる者がゐないのである。これは英國が被征服者たる印度人の知識の發達を喜ばないで、故意に教育施設を閑却してゐた結果に過ぎないのであるから、之を以て民族的向上のために自治を要求する印度の知識階級の主張を拒否する口實とするのは、いさゝか身勝手に過ぎるのである。

英國の自家撞着

英國人は英國が印度をその支配下に置くことによつて印度に平和と繁榮を齎らしたことを誇としてゐるが、多くの印度人が英國の治下に置かれてから、絶えず貧窮に苦しめられてゐるのも事實であつて、天産物の豊富な國土に生れながら、生活難に喘いでゐる窮民の多いのは寧ろ想像以上であり、彼等は現代の文化生活に向つて進むべき教育の機會を與へられず、何時までも少数者たる英人の支配下に置くに都合よきやう無智蒙昧で、而も經濟的に無力なる状態を持続すべく運命付けられてゐるのである。印度人の國民性及び知識の程度が自治に適しないといふ觀察も、裏から見れば英國の對印度政策が印度人の自覺を阻止するやうに仕向けられた結果に外ならないのであるから、英國人がこの點を顧みずして印度人の缺陷をのみ指摘するのは結局自家撞着に陥らざるを得ないこととなる。

圓卓會議の情景

一九三〇年十一月から開かれた英印圓卓會議の情景はどうであつたか。英國人が回教徒保護



俗風ルシカ 印度の邊境ルシカ有階級の人婦は金銀を鑲めたる大きな美しい水煙管で喫煙しなげ無爲安逸の日を送る。

「ある」と叫んで、自治要求が全印度人共通の切なる要望であることを表明したのである。否そ

のために印度自治を拒否するといつてゐる矢先へ持つて来て、回教徒の代表は英國の政治家の眼前で「公等是我等のすべてを殺すことは出来ないであらう。我が三億五千萬の印度人は自由印度の出生のために、死せんと志すものである」と喝破して印度の獨立を要望し、回教徒を保護する必要上、印度自治を不可とするといふ英國人の主張を根底から打碎いてしまつたのである。更に又、印度自治の要望は一部の急進政治家の聲に過ぎないといつてゐる聲の下から、最も穩健なる主張の上に立つといはれてゐる印度人の代表者は「吾等はドミニオン制を要求するため此處で射殺されるべき覺悟をして來て

明白なる
動向

れのみか、英國人が自治反對の最も有力なる味方と頼む王侯領の代表者すら、平民印度との提携によつて新しき制度を目指して進まんことを誓つたのであつて、英國人が豫て自治反對の口實としてゐるものが、この圓卓會議によつて痛快に打破られてしまつたのは、明日の印度が如何なる動向を取らんとするかを最も明白に示したものである。

歡喜に満
つる閉會
式！

斯くの如くにして全く相反する要求の下に立てる英國と印度との主張は、一應聯邦制の樹立といふことに折合ひ、第二英印圓卓會議で具體案が作成される譯であるが、一方英國に於ける印度問題の趨勢を見ると、勞働黨内閣は元來印度に對して思ひ切つた妥協方針を採り、印度事務大臣たるウェツヂウッド・ベンが卒先して英印協調に努め、マクドナルド首相がそれを熱心に支持してゐるため、英印圓卓會議をして「歡喜に満つる閉會式」にまで漕ぎ付けしめることが出來たのであるけれど、これに對しては閣内にすら不平を醸し、前藏相チャーチルが要職を辭してまで反對を表示したやうな事實があり、特に保守黨に至つては最初から妥協方針に反對して保守的意見を守持してゐるのみならず、第二英印圓卓會議には保守黨代表を參加せしめぬ旨を聲明してゐる程だから、英國の政治上の問題としても、印度人が希望してゐるやうな結論に到達するには多大なる障礙が横はつてゐるものと見なければならぬ。又印度總督アーウィン

卿の如きも、曩に長文の意見書を發表して印度聯邦案には反對し、現行制度に基づく英領印度だけを中央集權的に統一すべきことを主張してゐるから、聯邦案なるものも其の名の美なるが如く質に於ても亦相當完全なる改革を庶幾し得べきかどうか、一層危ぶまざるを得ない。殊に印度問題に對し最も寛大なる同情を表示してゐた勞働黨内閣が、今や實質を變化せる舉國一致内閣となつてゐるのは、尙更印度側に取つては不利な事態を來せるものといはねばならぬ。昭和六年九月から開催中の倫敦圓卓會議の經過は未だ終局的の斷定を與へるだけの材料を吾々の前に齎らしてゐない。

民族主義
の急潮は
湧き返る

要するに印度の過去と現在とに徴するに、印度には既に民族的の潮流が澎湃と漲り起つて、結局何物をも押流さねば已まぬ程の力を帯び來つてゐる。多數の民衆中には尙ほ無學蒙昧な者が存在するとしても、覺醒した民衆は屢次の騷擾を経て一層教育され訓練され、最早、印度は印度人の印度でなければならぬことを深く心に誓つてゐる。彼等が揚げる獨立の叫びを英國政治家が拒否すれば拒否するだけ、その反動の強まり來るのは必然で、假令不徹底な聯邦制によつて一時の彌縫が出來るとしても、唯だそれだけで英印間の永久的安定が保たれる筈はない。昭和六年春の全印度國民會議が全聯邦組織計畫を「當座の目標として」といふ條件付で認容して

印度の不
安は去ら
ず

ゐるのは這間の消息を何よりも雄辯に語つてゐる。英國人が「如何に印度を統治するか」といふ問題を考へてゐる間に、印度人は「誰が印度を統治するか」といふ問題を考へてゐるのであるから、その考へ方に根本の相違がある。この相違の存する限り印度の不安は去らず、不安の去る時は即ちベンガル灣頭に別個な國旗が翻る時であらう。

風俗

姓別の複

印度人の風俗を研究する上に就て、見逃すことの出来ないのは、彼等の姓別である。上古は婆羅門(祭祀を掌る僧侶)、刹帝利(政治と軍事とを掌る王侯軍士)、吠舍(農牧商工の業を営む平民)、首陀羅(耕作運搬等の賤業を營む者)の四姓があつたが、今日では二千三百餘種の小種姓に分裂して仕舞つた。首陀羅は我國の維新前の非人のやうな境遇で、不潔、蒙昧の生涯を送つてゐる。之に反して波羅門は傲慢で、他姓を排斥して、獨り威張りをしてゐる。殊に首陀羅族に對しては、之を畜生扱ひにして、一步も彼等の住居に足を踏み入れさせないばかりか、途中でその姿を見ると、急いで家に歸つて沐浴して穢れを清めるといふ有様である。以下主として印度教徒に就て風俗の大體を述べやう。

簡單なる
服装

○服装 印度人の貧民又は勞働者の衣服は單に腰巻ばかりである。然し日本の物よりか布幅が廣くて長いので不體裁ではない。普通の人々の衣服も亦簡單で、上衣(チャドル)と下衣(ドーデー)との二つである。



印度の舞姫の代古が舞ふは、聖歌を歌ふ高聲から歌に、なやなかの度印の若き世の惚惚に、それはいとむ込ひ誘へ界

下衣は白木綿の中三四尺長さ十四五尺の布で、之を腰から下が隠れるやうに巻くのだが、その巻き方が一種特有で前見はよいが後は股が露はれるので見つともない。

上衣も下衣同様の廣い

布で長さは短い巾は一尺ばかり廣い。毛織製のもあつて、それには種々の色で染めたのがあつて、上衣を着るには先づ背中に掛けて、前方に垂れた兩端を斜交ひにもう一度肩の後ろに下げるのである。金持や貴族は上衣も下衣も絹製の物を用ひてゐる。

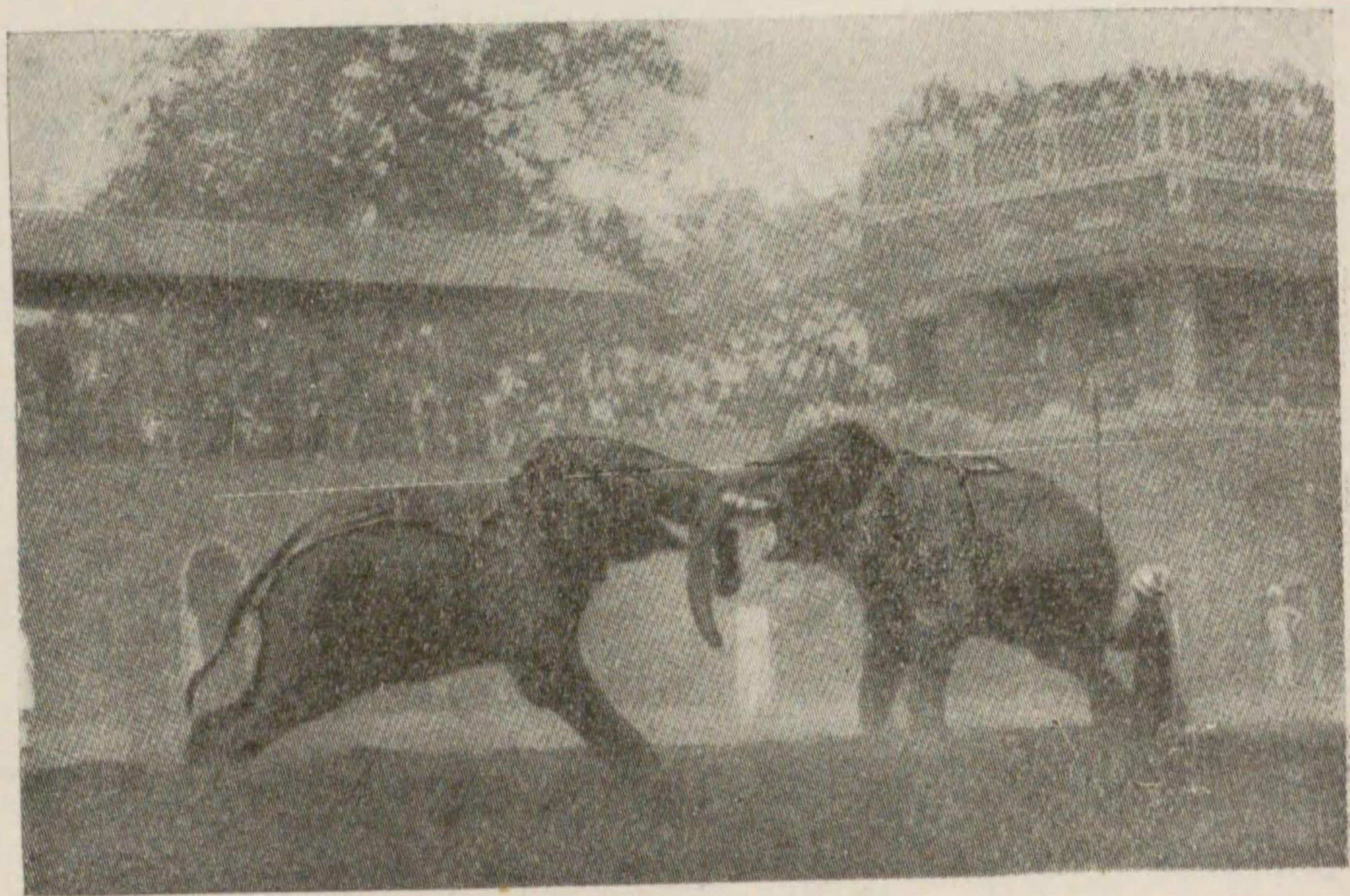
印度には元來帽子といふ物は無かつた。今でも婆羅門の學儒や、ベンガルや、バブーや、マラーバー地方の者は全く帽子を被らずに、日遮として蝠蝠傘を用ひ、寒ければ上衣で頭を隠すだけである。

印度人と靴

然るに回教徒が印度に入込んでから、その影響を受けて、印度人までが悉く頭衣ケイバンを用ひるやうになつた。履物を使用する者は至つて少いがその種類は多い。奇妙な形をした木履があり、多種多様な上履ヂユターや、靴ヂユターがある。上履の中ではゴンドラ舟の形をしたのが好かれる。印度人は靴を穿くのには多くは靴下を用ひない。靴が流行らないのは獸皮を不淨物と心得てゐるからである。

婦人は男の下衣に似た巾四尺長さ三四十尺の布を下衣として之を腰に巻き、その餘りの一端を左の後から背を越えて右肩の前に垂れ懸けてゐる。之をサーリーといつて、ベンガル人の女のやうに人に顔を見せない者はそれで頭を蔽ふのである。ベンガル地方では重に白木綿を他の地方では色物を用ひてゐる。然し祭禮や儀式の時は一樣に派手な色模様のある絹物を用ひてゐる。裝飾としては耳環、鼻飾、頸飾、腕輪の外に、手と足の指には指輪をはめてゐるが、足の指輪が銀で、他は皆金の製品である。尙又黄粉や紅を頬や腕や脚に塗つて飾りとしてゐる

裝身の上の嗜好



象のツースの象 象の指を象してはるの印度に於ける壯快 象のツースの象の指を象してはるの印度に於ける壯快 象のツースの象の指を象してはるの印度に於ける壯快

になりつゝあることは争へない。

指輪と耳飾とは男でも大概はしてゐる。

髪は油を使つて光澤をつけて軟かにし、之を真中から兩方に分けて後ろに束髪トウのやうにして結び、之に香氣のある花を飾つてゐる。

文身は男女ともに行ひ殊に女子の方が多い。

○飲食 印度人は獸肉を嫌ふが、殊に牛肉を

食べるのを嚴に禁じてゐる。喧嘩の時でも『牛

殺し』といへば大なる侮辱である。昔は酒は

ソーマの木で造つた酒や、スラといふ強い酒

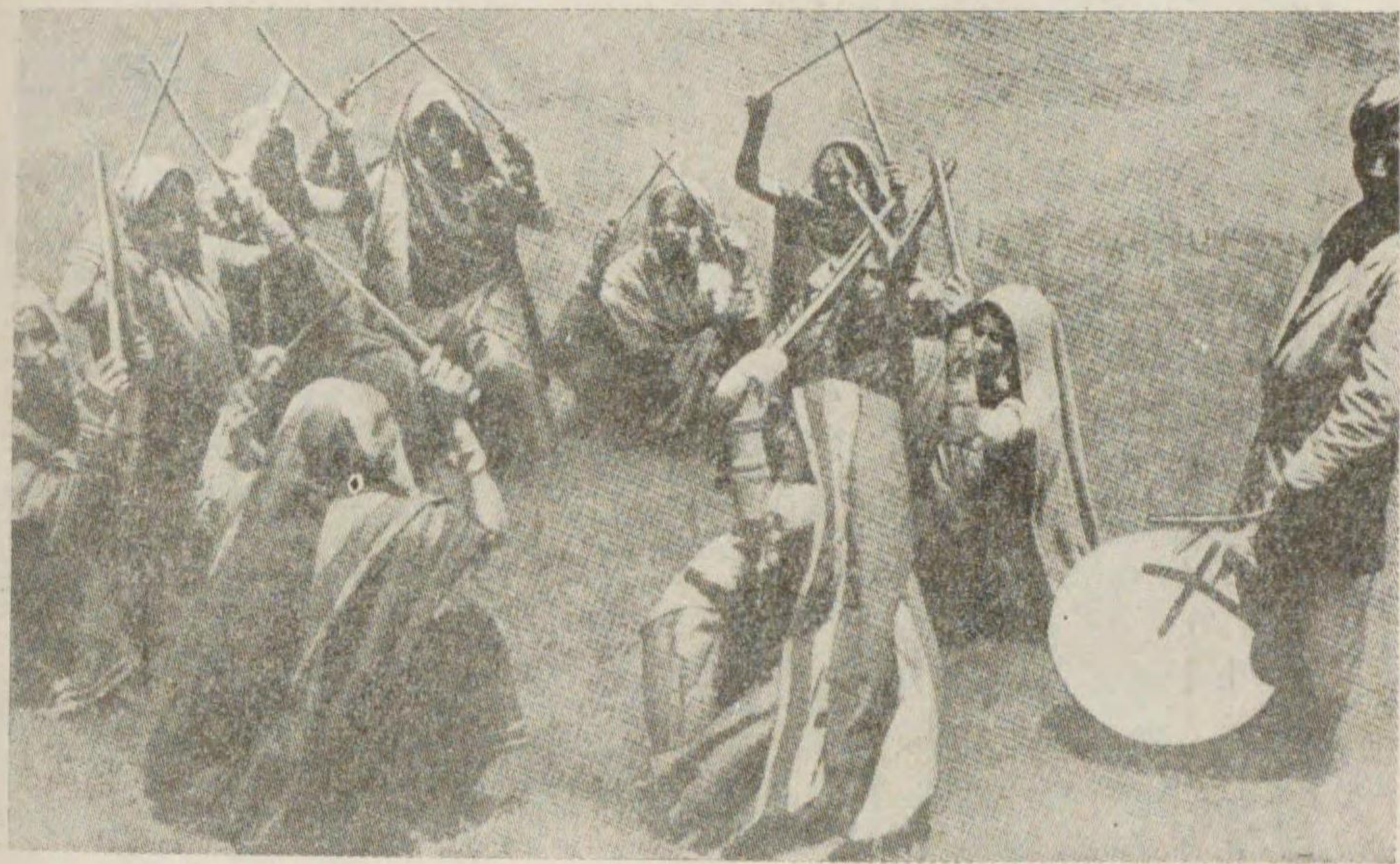
があつたさうだが、今では一般に飲まないで、

唯下層階級の者が椰子の樹液を醱カキさせたト

デーとか、アラックとかいふ酒を飲んでゐる。

尤も西洋文明の輸入に従つて飲酒の習慣が盛

○祭禮 印度の祭典は大小を數ふれば毎週あるが、盛大に行はれる大祭は十ある。(一)ボンゴ



つ取にイシブジ族民泊漂の界世 スンダキツテスのイシブジ
けだれそ、るゐてれはいとだ郷故れ生の初最が部北西の度印て
がイシブジの度印はれこ、る居く多がイシブジはに度印てつあ
るあて眞寫るゐてつやをスンダキツテステれつに樂音

ル祭(ベンガル地方ではマカラサシクラインテ祭といふ)は一月の半に南部で行はれる祭で、太陽が黄道の南點に達し、再び北に向つて印度を見舞ふのを迎へ、パウシヤといふ印度の不祥續きの月が去つて、新に吉辰續きのマガの月を迎へたのを悦び、既に五穀の收穫の終つたのを祝するので、祭は三日に亘り最後の日は牛の祭で、牛は苦役を免れて、大に骨休みをする。先づ印度の正月ともいふべきものである。(二)サラスワテー祭は一月の下旬頃ベンガル地方で行はれる。祭神は日本でいへば辨財天のやうな藝能才智の女神の祭である。(三)シザラトリ祭は二月の中旬



ことゝるゐてつ張を宴饗大が族王の度印はれと 宴饗大の度印
を歡てべ並を膝に前を味珍の海山で間廣大るな麗壯、るあでる
。だのな慣習るす坐もに合場なんこは等彼、がるゐてし盡

ナレリブルニ祭(コウ、ナット、デーともいふ)は孟買市で八月の下旬に行ふ航海者の海神の保護

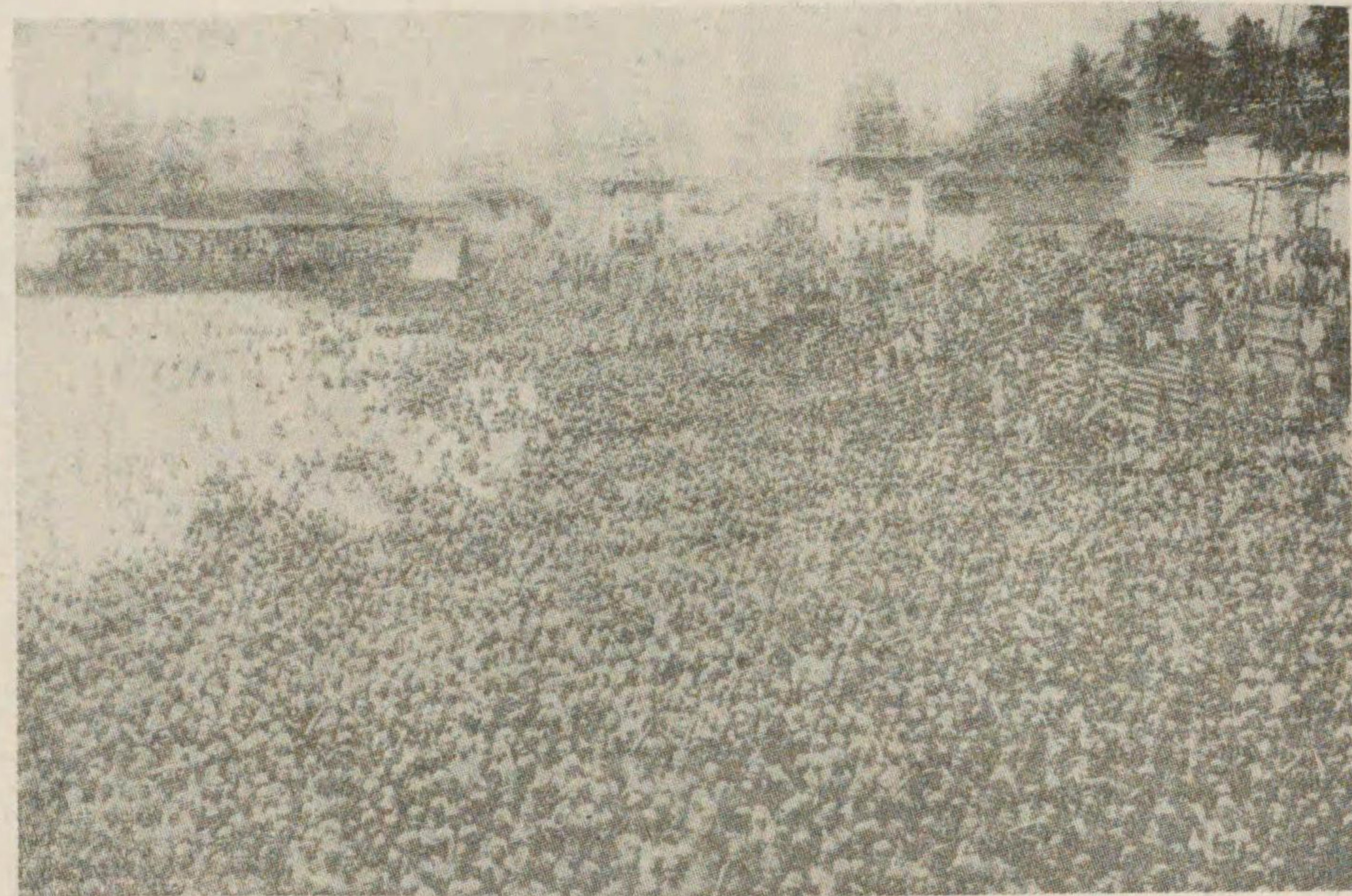
新月の日にシブ神を祀る祭禮で、シブ教徒は此日斷食をする。(四)ホリー祭(ベンガルでは、ドール・チャートラ祭といふ)は三月の満月の日の十日前から十日間殆んど全國に亘つて行はれる盛大な祭で、悪魔を退治したクリシナ神の功績を表彰する爲である。(五)ラーマナグミー祭はラーマ武勇譚中の王子で、後に神と崇められたラーマの誕生祭で、四月の新月から第九日に當つてゐる。(六)ナガラバンチャミ祭は七月の末新月の五日目に行はれる蛇の祭である。(七)クリシナ、デヤンマーシタミ祭はラーマ王子と共にヅキシヌ神の化身と稱せられるクリシナの誕生祭で、八月の満月から八日目である。(八)

從來は娘が成熟期になる迄嫁入しないと、両親は宗教上の罪人として、其社會から侮辱され娘の不幸恥辱之れより大なるは無しとせられるので、両親は競ふて婿となるべき男子を捜すに苦心した。それで男子の方でも慾張つた父母は持參金がなくては嫁に貰はないといふ有様で、神聖なるべき筈の婚姻が物品取引のやうになつてしまひ、随つて有望な男子の評價は非常に高く、日本でいへば中學の三四年を修業した少年に嫁入さすには、五百ルビー位の持參金が必要やうな風習を作つてゐた。離婚は甚だ難しく、又再婚は絶対に不可能で寡婦の多いことは世界第一と稱せられ、いたいけな少女が寡婦として終生を送らなければならぬやうな例が非常に多い。

○誕生 娘の親を煩はすことの大なることは前述の通りなので、従つて男の子の誕生は歓迎されるが女は悦ばれないこと夥しく、祝ひに来る者もなく、一家では慶事どころか寧ろ悲みとしてゐる。『女子は生れては歓迎する者なく、幼少の時は教育を與へられず、嫁しては奴婢の如く夫と別れては終生寡婦の生涯を送らなければならず、死んでも誰も悲しむ者はない』とは誠に印度人の女の一生をよくいひ表はした言葉である。それ故に女の子が生れると直ぐに殺してしまふ惡風があり、パンチャールプでは十年間に女の人口が五十萬も減じたといふやうな實例を産

疎まれる
女兒

神聖視さ
れる恒河



恒河の水行 恒河は神聖な河とされ、印度教徒はこれを見え、恒河の水を飲んだり、洗つたり、恒河に身を洗つたり、恒河に身を流す、恒河の水は非常に汚い。

んだ。

○奇習 印度人は恒河の水を非常に神聖視し寺院に詣でる時には恒河で身を淨めるのが例である。しかも身を淨めるのみでなく洗濯もすれば、死人の屍體をも洗ひ、火葬を行つた後では遺骨まで恒河に流す、だから恒河の水は非常に汚いのに向且つ神聖だといつて壺に汲んで歸つて飲むのである。寺院參拜の善男善女が幾萬人となつて恒河に入つて沐浴してゐる光景は實に一種の奇觀である。印度は熱い國だから水浴を好み又洗濯を好むが、何分にも一年の半分が乾期で水が乏しいので、村々では大きな水溜を造つておいて雨期に水を溜め、それを乾期中の水浴、洗

濯の用に供するのである。そして其處で沐浴もすれば衣類も洗ふ、食物も洗ふ上に飲料にもす

牛の尊重

るといふ状態だから不潔なことは日本人の想像も及ばないところである。印度では又牛を非常に尊敬する。若し牛を殺しでもすると人を殺した以上の騒動となる。牛が神聖なのだから牛の排泄物も神聖視され、牛が糞を落とすと印度人はこれを拾つて手の平で丸め、扁平に伸ばして壁、塀、木の幹などに貼り付け、それが乾燥すると燃料にしたり屋内の敷物にする。異教徒でも牛糞で身を淨めると汚れを除くことが出来るると信せられてゐる。

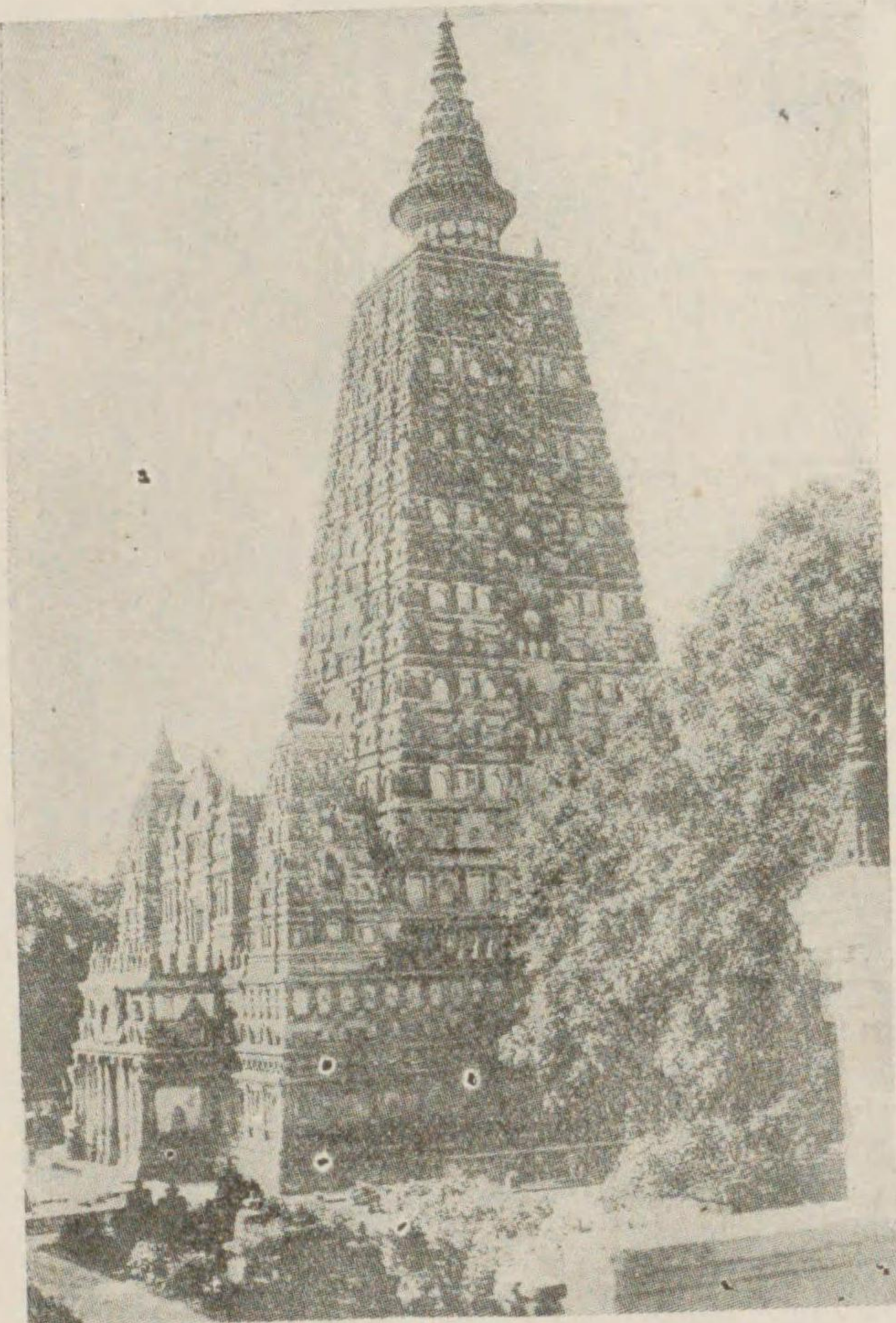
宗 教

宗教は多種多様に岐れてゐるが、全人口の三分の二の信者を有し最も勢力を占むる者は(一)婆羅門教即ち今日の印度教で、その教徒は二億千七百万人ゐる。次は(二)回教で六千七百万人の信徒を有してゐる。回教徒と印度教徒とは常に教理の相違から相争ひ、異端邪教と罵り合つてゐる。英國の統治者は寧ろ兩教徒の争ひを煽動して相離叛せしめてゐる。蓋し印度の二大宗教徒が提携して起てば、英國統治の一大憂患となるからである。尤も今日大多數の教徒は蒙昧暗愚の徒であるから依然相反目してゐるが、識者間には既に融和の道が講せられ、一九一五年兩教の代表者は孟買に會して交歓し、爾來双方から委員を選んで國事を議するまでの進歩を見る

印度教と回教の勢力

婆羅門教の歴史

に至つた。兩教の外に(三)佛教徒が一千百万人、(四)唯神教徒が一千百万人、(五)基督教徒が四百百万人、(六)シーク教徒か三百百万人、(七)拜火教徒、猶太教徒等三百百万人を算する、印度に發祥した佛教が、今日一



塔大のヤガダブ 道成迦釋はヤガダブ 大四度印、く高名に上史教佛てしと地の靈 呎十八百さ高の塔大。るあでつ一の蹟靈 代を粹の術美築建度印は物建な麗壯のそ するみてえ聳に表雲てし表

千百万人の教徒を有するに過ぎないことは注目し値する。

婆羅門教は吠陀教から出で、佛教は婆羅門教から轉化したものである。吠陀教は、印度アールヤ人が始めて印

度の西北部に移住し來つて、牧畜耕作に従事した頃、自然崇拜の餘、萬物の威力を一々人格的の神と信じ、讚誦祈禱を以て之に對し、供物呪法を以て加護を乞ひ、災禍を免れんとする教旨であつた。

婆羅門教は印度アールヤ人が東南の中原に發展し來ると共に、吠陀教が變化して新生したものである。その起源は印度アールヤ人が先住の野蠻人と鬭争合戦するに際して、武運長久を祈る爲に、祈禱を行ひ、呪法を修めるのを最上法となしたのにある。従つて修行の任に當る僧侶が漸次勢力を得て遂に社會の上流に位し、壇に供犠祭典の法を煩瑣複雑ならしめ、果ては宗教の大本は儀式を行ふにありとし、祈禱を以て宇宙一切の根本となし、僧侶の呪法一つで諸神も左右せらるゝものであると云ひ、『儀式の變更簡略は許されない。之は永劫より存在したもので、梵から始まつてゐる。宇宙の創造も亦實に梵の行ふた供犠の結果に外ならない』と叫ぶに至つた。

婆羅門教の主義は吠檀多哲學の教義から出たもので、吠檀多哲學は吠陀教を哲學的に解釋したものである。此哲學は一名耳曼薩學派と稱せられて、前耳曼薩と後耳曼薩との二つに分たれてゐる。前者の主とする所は吠陀聖典を解釋して不明な點を明かにし、矛盾した點を調和するにあつて、後者の主とする所は、専ら宇宙の唯一の實體である梵の觀念と、人間の心靈と此の宇宙靈と同一であると云ふ事を、聖典に據つて證明するにあつた。之れによると、梵（神我或は最上精神）とは唯一者、久遠者、非創造者、自在者、自同者、不變者であると同時に、發生

祈禱と呪
法の尊重

印度教の
根本思想

者であり又一切諸物の根元である。

其後僧伽哲學が起つて、婆羅門教の爲に大なる裨益を與へた。是れは迦比羅が創唱したと云はれる思想で、精神の本質を正確に識り、精神を物質より區別するのを、根本義としてゐる。所謂數論哲學である。其論の根本とする所は『精神と物質とは共に永遠の物で創造されたものでなく、又兩者は同一のものでもない。精神は意識する所のものだけれども、被動的のものであり。物質は無意義のものだけれども創造的のものである』といふ所謂二元論である。それ故に安樂を遂げる爲には、我を捨て、神性を守らなくてはならぬ。我を去るが爲には難行苦行して、禪定に入り、遂に解脱の妙域に達せねばならぬと説いてゐる。

斯かる信仰に基いて印度の婆羅門信徒は現代に於ても喜んで難行苦行を行ひ、特にその苦行僧に至つては全く自然の法則を無視した驚くべき苦行を敢てするのである。例へば四十八時間に亘つて逆立ちし、神との接近を計らうと期し、或は柱の上に數十年間立ち続け、又は一生涯休む間もないほど伏禮を續けたりする如き行に服し、中には石窟の中で石の臥床の上に一生起臥する如きものもあれば、數年間睡眠を取らずに一ヶ所に片手を挙げたまゝ立ち續けたり、七年間腋の下を枷で緊め付けて天井からぶら下つたまゝ生活を續けるといふやうな苦行をするの

驚くべき
難行苦行

である。斯く現世の煩累を超越して、ひたすら來世を祈願し、肉體を無視虐待して精神作用のみを高揚させる結果、不可思議なる力を現はし、裸體で釘の林立した床の上に安坐したり、銳利な刃物の上に横はつて苦痛を感せず、平然と之に耐へるやうな境地にまで到達する。印度を旅行する者は今日でも斯の如き狂信的の苦行僧を見受けることが珍らしくない。

却説、前述の如く婆羅門教は往古に於ても甚だ盛大を極めたが、一方には儀式萬能の教旨を排斥し、僧侶の專横を憤る者も夙に存してゐた。佛教は即ち此の婆羅門教の頹廢を救つて、人心の歸依すべき所を知らしめるために興つた宗教で、大聖釋迦に依り之が創始されたのである。今から二千五百餘年前、中印度迦毘羅城（雪山連峰の山麓なる今のアウドウの西北泥波羅國に在り）主淨飯王の子に悉達シヤトハルダといふ人が生れ、社會の腐敗と人生の無常とに感じて、衆生濟度の念を起し、宮殿を棄て、山に入り、解脱の法を求めて佛陀ブイダ（單に佛とも云ふ、一切の眞理を會得せし者）となつた。之れが即ち釋迦その人である。

釋迦の説法は、中道を採つて四聖諦（苦、集、滅、道）八正道（正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定）を説き、阿耨陀羅三藐三菩提アノクダラサンミヤクサンボダイ（正覺）に入るのを目的とした。釋迦は正覺を得てから涅槃に入る迄の四十年の間に、大小乗の佛法を説き最後に法華を説いた。所

大聖釋迦の出現

佛教の特色

謂五時八教とは之れである。

婆羅門教は種姓制度の上に築き上げられた非傳道教であつたのに反して、佛教は階級制度を無視して博愛平等主義を唱へた



ので、從來僧族の壓制に苦められてゐた諸民は、皆之を歓迎し釋迦の歿後千年間は、全印度に普及したのは勿論、外國にまで傳道されたが、僧侶が世寵になつて墮落した結果、婆羅門教の復興と共に、遂に印度本土には其跡を絶つに至り、今や唯、錫

蘭と緬甸とに餘喘を保つに過ぎない。以下少しく宗教上の儀式的風習を語らう。

（一）斷食 日本では精進する日はあつても一般に斷食するといふ風習は昔から無かつたが、印度では婆羅門及び多くの者が毎月少なくとも一度は斷食する。其中でも信仰の篤い者や、道心

宗教上の義式

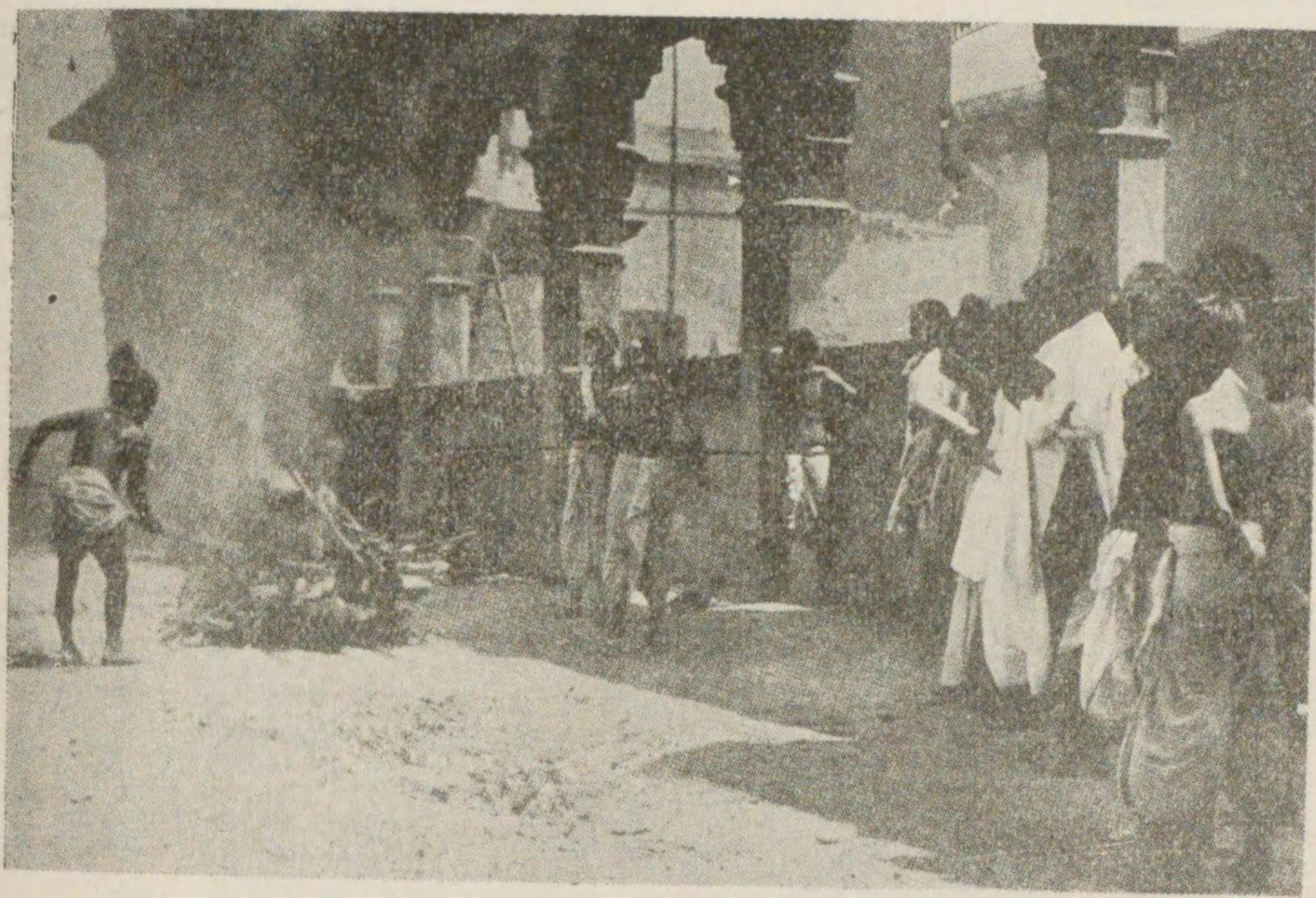
堅固を装ふ者は月に幾度も斷食する。然し熱帶國ではあるし、又多年の習慣になつてゐるので

左程苦痛を感せぬらしい。

(二)沐浴 宗教上の規定で一日一度は水に浴さなければならぬ。さうしてその沐浴場は河の岸邊で、河が遠ければ堀池でやる。印度國中寺院と堀池の無い處はないのはこの爲である。最も靈驗があるといはれてゐる河川は、恒河、ジャムナー、サラスワティー、印度、ゴードヅリ、ネルブダ、カウヅエリ等で、縱令そこらあたりの堀池で沐浴する時でも、必ず上述の靈河を心に描いて祈りをするのである。

(三)罪業消滅 之は罪業を消す爲に行ふ儀式的の方便で、日本の所謂六根清淨である。第一はパンチャガヂキヤを飲むことで、その飲料は

六根清淨
と牛の糞
尿



印度の度式 陰惨なる火葬の場、死人はむき出しのまま焼かす。度印の僧は一方に經を誦する。あが群衆は度印を度印してしるか。野天の下に簡單に行はる。

何かといふと牛の糞尿から造つた物である。第二は靈水に浴すること即ち沐浴で、第三は富蘭其他の經典を讀み、寺祠を巡禮したり、靈山の絶頂に登つたりするので、日本の巡禮や山行者に類してゐる。

此外昔は夫を失つた妻の殉死が盛んであつたが、今では禁制されて、極めて稀れに見る位である。併し今尚ほ葬式の日には夫の屍體を焼く火焔の中に飛びこんだり、自分で着物に油を注いで火をつけて焼け死んだりして、天晴れ貞婦の本領を發揮する者があるさうである。

第二節 ネパール

○位置、面積、人口 支那と印度との境にある國で、北は西藏に境し、東西及び南は印度に接續してゐる。面積は約五萬四千方哩(十四萬方呎)を有し、人口は五百六十萬と算せられてゐる。

○人種宗教 人種はグルハ族とネワール族との二種であるが、兩者とも蒙古人種の系統に屬し近年グルハ族は増殖の傾向著しきに反し、ネワール族は漸減の趨勢を示し、殊にグルハ族の精力的活動的なるに對しネワール族は甚だ遜色がある。宗教はグルハ族が印度教を奉じ、ネワール族は佛教を奉ずるといふ大體の區別は付けられるが、事實に於て兩教は混淆して特色を失ひ

二種族の
特徴

つゝある。

○都市、産物 首府カトマンヅは人口八萬を有し、バトガンは人口五萬である。産物は小麦、米、豆、雜穀、黄麻、油料種子、家畜、毛皮革、阿片、染料、バタ、香料、木材等で、之を國外に輸出してゐるが、ネワール族は藝術的才能を有し、彫金、木彫等の製作物には鑑賞に値するものがある。印度本部からの鐵道は一九二七年二月ネパールに初めて開通した。

○政治上の地位 從來印度の屬領と同一視されてゐる國であるが、一九二三年英國との條約を改正して、英國は内政外交ともにネパールが獨立の地位を有することを承認した爲め、その國際的地位は他の印度王侯領と趣を異にする。政體は軍事寡頭政治で、國王は殆ど名ばかりに止り、政治上の權力は總理大臣が有することゝなつてゐる。國內は七區に分ちて地方行政を執行し、常備軍は四萬五千の兵員を有するが事實上の正規兵は約二萬を算するに過ぎない。この國は今でも一箇の秘密國で、英國の代表者が國內に居住することを許されてゐるに止り、他國人の入國を禁じてゐる。しかし國民は可なり活動的な性質に富み、殊に好戰的な風があるから、隣國ブータンの國民などは一種の警戒を以て之を見てゐるのみならず、近年では盛んに國外に移住する者が多く、しかも固有の風俗習慣を守つて着々と地歩を築きあげるといふ素質を持つ

獨立の地位

てゐる注目すべき民族である。或は近き將來に於てブータンに於て彼等が實際上的の勢力を握るに至るであらうとさへ觀測されてゐる。

好戰的の氣風

○風俗 グルハ族は體格が短小であるけれど筋骨が逞しく、好戰的であると共にお祭り騒ぎの好きな人種で、單に男子のみならず、女子が快活に宗教行列等に參加して盛んに騒ぐ風習がある。「國旗の祝福」と稱する行事などは、この人種の好戰的な性格を最もよく表現したもので多數の水牛を屠殺して犠牲となし、その血を壺の中に湛へて軍司令官が手を壺に差し入れ、血塗れになつた手で各軍隊の軍旗に血の手形を印し、士氣を鼓舞する式を行ふのである。

第三節 ブータン

○位置、面積、人口 ヒマラヤ山麓に存する國で西藏と印度との間に位置し、面積は凡そ一萬八千方哩(四萬六千方呎)、人口は三十萬内外と算せられてゐる。

○人種、宗教 原住民族はテップス族であるが、今から二世紀程前、西藏の植民的團體が侵入して先住民族を征服し、完全に之を西藏化してしまつたもので、宗教は西藏的の佛教が行はれてゐる。

完全な西藏化

○都市、産物 首府はブナカで、外にバロ、トロンサ、ビヤカなど、呼ぶ都邑がある。産物は米、玉蜀黍、稷、生糸、絹布、等の外に犛牛、象、小馬等が飼養されてゐる。

○政治上の地位 一八六五年以來、英國との條約によりその保護國となり、英國政府から年額



王ンターブ

十萬ルービーを此の國に支給してゐる。政治上の組織は一九〇七年までダルマ・ラジャと稱する宗教上の王と、デブ・ラジャと稱する政治上の王とが並立して權力を行使してゐたが、同年國政を改革して宗教的君主を廢し現在では普通の君主を存するだけである。但し君主も統治上の實權がなく、トングサ・ベンロツプと稱する最高の行政機關があつて國政を掌つてゐるが、英國の官吏が之に對して補助監督を行つてゐるのである。

君主の地位

○風俗 西藏に酷似し、宗教上の風習、葬式等の點に至るまで殆ど大差を認めないが、住民の性質は一體に陽氣で快活である。

第四節 錫蘭

○位置、面積、人口 印度半島の南端海上にある島で、面積凡そ二萬五千五百方哩（六萬六千方呎）、人口は四百五十萬である。

○人種、宗教 人種は人種學上所屬不明なるシンハル人が最も多く、全體の約六割七分を占め、タミル人、モール人が之に次ぐ。宗教は佛教を信する者が多く、凡そ全體の六割強を占め、印度教二割強、基督教一割弱で、回教が最も少い。

○政治上の區劃 統治上印度から除外されてゐる英國の直轄植民地で、英國皇帝が代表者として任命せる知事を最高官吏とし、行政會議と立法會議とを有し、一九二三年に改正された錫蘭憲法によつて統治されてゐる。島内を九箇の州に分ち、三千六百人の常備軍がある。

○都市 首府はコロンボで、人口二十五萬を有し、交通の要地たる地位を占め、船舶の出入の多きこと世界第六位と稱される。カンデーは佛陀の齒を奉祀せる古刹の所在地として知られ人

佛教の勢力

口三萬三千を有する。トリンコマリは人口一萬に足らぬ東海岸の一港であるが、英國がこゝを軍港の候補地としてゐる點に於て注目を引く土地である。

○産物 米、野菜、果物等が豊富に收穫され、茶の産出も多くて重要輸出品となつてゐる。其



取採のムゴ 産のムゴるけ於に烏蘭錫 採が女の蘭錫を液樹る出れ流らか處其て するあで所るみてし取

他ココヤシ、ココア、肉桂、ゴム、印度胡桃、椰子纖維等を産し、島内産物の一ヶ年輸出額は五億ルービー（一ルービーは約六十五錢）以上に達する。家畜には牛及びゼブラ牛がある。

第五節 俾路直斯坦

○位置 亞細亞の西南部に位して、北は亞富汗斯坦に境し、東は印度に接續し、南は亞刺比亞海に臨み、西は波斯と境を接してゐる。



民士のンタスチルベ 弓だまはに獵狩 爾べるす疊重の岳山。るみてれらる用が なつ一の業生な要主が獵狩はでンタスチ 權越優のそは民土てゐが長酋だま。だの するみてれさ配支に下の

○面積、人口、人種 面積は十二萬四千五百方哩（三十四萬八千六百方呎）、人口は七十九萬九千六百を算する。更に之を分ければケラツト及びラス・ベラの二汗國を含む俾路直斯坦代理區が面積二十萬八

千方呎、人口三十七萬八千九百を有し、俾路直斯坦州が面積十四萬四百方呎、人口四十二萬六百である。人種はブラウイ人、バタン人、バロツク人、ラツシス人、印度人等である。

○政治上の區劃 俾路直斯坦は一八八七年その一部が英領印度に結合させられて以來漸次その

地域を侵蝕され、現在印度の一州たる關係に置かれてゐるが、全體の行政關係は俾路直斯坦州

と代理區とに分れ、前者は州委員によつて統轄され、行政上六地區に分たれて居り、後者はすなはちケラット及びラス・ベラの二汗國を一括し、印度總督代理が管轄してゐるのである。

○都市 首府はケッタといひ人口約一萬を有し、其他にヌスキ、チャハールといふ都市がある。

○産物 年中殆ど降雨なく、氣候峻烈にして冬は寒く夏は酷熱燒くが如く、農作地と稱すべきものがない。山間には銅、鐵の埋藏多量なりと稱せられるも、まだ開發されず。産物としては硫黃、棗、椰子、及び海岸地方に漁獵



俗風ソタステルベ 俗風ソタステルベ 汗富亞て於に體夫は俗風のソタステルベ 店商で店賣小のソタステルベは圖のこ。るゐて似くよにれそのさ稚幼の態狀濟經の國のこ、ることな始原にり餘はにふいと。るゐてつ語物を

恵まれぬ
國土

が行はれるのみである。

○風俗 住民は頗る原始的で、椰子を植ゑその葉や枝で住宅を造り、その實を食して生活を營むといふ程度である。大體の風俗は亞富汗斯坦とよく似てゐるが、住民の氣質は質朴で且感情的である。一般に社會的構成がゆるく、各部落が殆ど獨立をなし、且つ大きな村落さへも稀である。宗教は回教を信奉する者が多く、基督教を奉ずる者も若干存する。

○軍事的地位 英國は荒寥たる俾路直斯坦の内地へ頻りに鐵道を延長してゐる。即ち印度から來つた鐵道はケッタを過ぎて亞富汗斯坦の國境に達し、更に俾路直斯坦の北邊を西に走つて波斯に入る線をも敷設してゐる。蓋しこれは一に軍事的必要から出でたもので、この鐵道により攻防共に印度の安全を保障せんとするにあるは勿論であつて、産業的にはその價値の甚だ乏しい俾路直斯坦も、軍事的に眺めて始めてその重要性を見出すのである。

印度の障
壁

第六章 南洋

第一節 概 說

惠まれたる生活舞臺

南洋とは佛領印度支那、暹羅、緬甸、馬來半島、蘭領東印度諸島、米領比律賓群島を一括する地方的名稱である。其處は常夏の綠濃やかに茂つて、海に陸に天産物に富み、人類の生活舞臺としては可なり恵まれた地方である。殊に史の見地からすれば我國とは最も古い關係を有し、將來に向つても日本人の活躍すべき天地たることが豫想されてゐる。思ふに今日以後の南洋は瘴煙蠻雨の恐るべき天地だといふ見解から脱却して、豊富なる生活資源を提供する有望な發展地として眺むる必要があり、交通機關の發達した現代に於ては、極めて近い隣接地域として之を待遇すべき約束の下に置かれてゐる。英國のラッフルスが新嘉坡の開拓に手を着けたのは今から僅々百數十年前に過ぎないが我が邦人の南洋方面への活躍は實に足利時代の頃から始めてゐる。唯だ邦人の南洋進出には何等の國家的後援がなかつた爲め、徒らに倭寇の名を留めるだけで、有終の美果を收めることが出来なかつたのである。好機空しく逸して今更悔めども

邦人の南洋活躍

詮なきことなれど、一篇の邦人南洋活躍史は眞に血沸き肉躍る物語を留めて、如何に地理的にも歴史的にも日本と南洋とが深い關係にあるかを示してゐる。それらの歴史を詳しく述べるのは本書の目的でないから、茲には之を省くこととするが、僅に七八百石積の和船を艤裝し、八幡大菩薩の旗を翻しつゝ東北風の吹く季節を利用して暹羅、東甫塞の邊は元より、馬來半島から爪哇、ボルネオの邊まで乗出し、日本刀を振り翳して異境に勢力を張つた健兒の氣魄は想像するだに勇ましい。現代の日本人は敢て祖先の武力的活躍を學ぶ必要はないが、武力的進出に代へるに經濟的進出を以てし、國民的勢力を其處に張るためには、祖先の有した剛健なる氣魄に學ぶ所がなければならぬ。

一口に南洋といつても、その範圍は非常に廣く、既に日本人の割込む餘地の少くなつた地方もあるけれど、今後の開發に待つべき地方も亦多い。よし又既に開發された地方であつても進出の方法はおのづから存する筈であつて、要は日本人が今後南洋により多くの興味を持ち、最も妥當なる進出の方法を編み出すことにあらねばならぬ。地圖の上で見ると南洋は赤道を中心として南緯も北緯も十度乃至二十度の地帯に位してゐるから、炎熱の非常に強い地方の如く感ぜられるけれど、暑さは大陸又は大陸類縁の地方に限られ、海岸地帯や半島や島嶼は所謂海洋

南洋の面目

爽快なス
コール

性氣候で意外に涼しく、山地に於ては恰も春の如き氣温が年中續いてゐる。殊に日盛りにはス
コールが沛然と襲來して爽快な涼味を齎らし、暑さのために悶へ苦しむやうな虞れはない。尙
又、島といへば面積が狭小なやうに感ぜられるけれど、ホルネオの如きは最大幅員約七百哩、
南北八百哩もあつて面積二十七萬方哩に及び、日本帝國の總面積よりも廣く、スマトラ、セレ
ベス、爪哇、比律賓等皆それ／＼に廣大な面積を有し、殖産興業の餘地は綽々と存してゐるの
である。この大富源を開拓すべき使命は正に日本人の帶ぶる所であつて、日本人に取つては實
に天與の富源と稱しても差支へない。

大和民族の由來に就てはいろいろの學説があるが、近來は南方起源論が次第に有力になりつ
ゝある。古來純粹の日本語と認められてゐる言葉の中に、南洋と同じ語源か若しくは南洋語か
ら轉訛したと推斷される語の存することは、言語學者によつて證明せられてゐるところであつ
て、その研究が更に進んで來れば、日本古代民族と南洋諸民族との關係は愈々明瞭になるであ
らう。さうした問題に對し、今日に於て輕々しく臆斷を下すことは出來ないけれど、人種系統
の上に於て甚だ相似たところのある日本人が、今や嶄然として頭角を抜く高い文化を有し、亞
細亞の指導者として立てる以上、その文化を提げて南洋方面を開發する任務に當るは正に當然

南方起源
論

の使命である。この意味からしても南洋は日本人に取つて興味を存する天地である。

南洋の日本人史蹟

倭寇

足利時代から徳川時代に至るまでの間に南洋に渡航した日本人は可なりの數に達する。それ
らの日本人は倭寇として活躍した浪人者や、或は御朱印船の船員、商人、又は切支丹の禁制で
海外に逃れた者などであるが、その數の増加するにつれて、安南、東甫塞、暹羅、呂宋等には
日本人の居留地が出來てゐた。近時印度支那では日本人町の遺蹟が次ぎ／＼に發見され、爪哇
のバタヴィヤでも切支丹總兵衛の墓などが發見された。最も珍らしい遺蹟としては安南の海防
街道の町中に今でも残つてゐる「日本橋」で、これは昔この地に在留した日本人が架設したもの
であるが、腐朽したので後人がその意志を傳へるために修理したといふ記録も残つてゐる。

顧るに彼の元寇の國難に際して、北條時宗は毅然として強硬なる態度を持ち、苟も我が國土
を侵さんとする者は一步も假借せず、軍備を整へて防衛を嚴にしたが、彼は内を守るを以て足
れりとせず、進んで外征の策を執るに決し、建治元年（西曆一二七五年）には異國征伐の計畫を
樹て、九州の少貳經資に出師の準備を命じ、一方安藝の武田信時に令して豫め楫取水手を召募

元寇と日
本の外征
策

せしめた。準備が既に整つて從軍の將士は踴躍しつゝ、動員令の下るのを待つてゐたが、其後幕府の議が一變して中止となつたので、逸りに逸る彼等は幕府の消極方針に愛想を盡かし、相率ゐて軍船を支那の海岸に進め、傍若無人の活躍を始めたのであつて、雄心勃勃たる地方の武人が海外遠征に乗出す徑路は之によつて開拓されたのである。

山田長政
其他

元和の初め尾張の武士山田仁左衛門長政が商船に身を托して暹羅に赴き、偶々その屬國六昆の叛くに會し、暹羅に在る日本人のみで編成した一隊を率ゐて、日本の援兵と稱し日本刀を抜き連れつゝ敵軍を斬り崩し、之がために暹羅の大捷に歸したので功に依つてオブランと稱する王侯の榮位を與へられ、太泥、六昆二國に封せらるゝに至つたのは有名な史話である。長政と同じやうに暹羅で武勳を現はした者には、外に長崎の津田又左衛門や木谷久左衛門がある。伊勢松坂の角屋七郎兵衛も亦安南に土着して日本人としての氣を吐いたもので、上記の日本橋も角屋七郎兵衛等の架設したものだらうといはれてゐる。彼等の活躍も國家的の後援がなく鎖國令のため故國との交通が絶たれて、その人が歿すると共に日本人街が廢滅に歸したのは惜むべきことである。英人ジョン・デヴィスの東印度航海記の中には西曆一六〇四年十二月（我が慶長九年にして佛國東印度會社の設立されし年）デヴィス一行が今の新嘉坡の東南に當る一小島

日本人の
活躍した
範圍は廣
い

に假泊してゐる時、日本人の乗込んだ一隻のジャンクに邂逅したが、その船には武張つた日本人が九十人も乗組んでゐたので、種々に響應して支那沿岸の航路に關する知識を求めたと記し、尙はその日本人一行はボルネオ海岸の淺瀬で坐礁し、舟を破碎したので商船を襲撃して乗員を斬殺し、之に乗移つたものであることが知れたと記してゐる。又一六〇六年（慶長十一年）和蘭のホルネリス・マテリエフが十一隻の艦隊を率ゐてマラッカを襲撃した時にも、同地に在留せる日本人が葡萄牙人を援けて和蘭艦隊を退却せしめ、和蘭人の心膽を寒からしむる武勇を現はしたといふ記録も残つてゐる。以て日本人が如何に早くから南洋方面に進出しつゝあつたかを窺ふに足る。南洋に於ける日本人の史蹟探究は正に興味ある好箇の題目であらねばならぬ。

求法の御
旅

○眞如法親王の御事 平城天皇第三の皇子高岳親王は佛門に入りて法名を眞如と稱させ給ふたが、清和天皇の貞觀三年（西曆八六一年）修學のため唐に渡られ、更に佛蹟研究のため單身印度への行程に就かれた。然るに其後全く御消息が絶えてゐたところ、十五年を経て唐に留學中の日本僧侶により、親王が渡印の途中羅越國で薨去されたことがたしかめられた。しかもその羅越國とは果して現在の何の邊であるか不明とされてゐたが、京都大學の桑原教授が研究の結果、馬來半島であることが明にされた。千餘年前金枝玉葉の御身を以て單身遙々と求法の旅に上ら

せられ、不知案内の馬來あたりで薨去された親王の御事蹟は、眞に敬仰と追悼とを禁じ得ない。

第一節 暹羅

位置、面積、人口

自由の國

暹羅は印度支那半島の中部に位し、佛領印度支那と英領緬甸の間に介在する獨立國である。世人はこの國をシヤムと呼ぶも國人自らはムアンタイ(自由の國)と稱してゐる。東に湄公河があり西に湄南河があつて、面積十五萬六千三百方哩(四十萬五千方呎)、人口九百七十二萬四千を有す。即ち人口密度は一平方呎僅に十八人で日本の密度百二十四人に比すれば僅にその七分の一に過ぎない。

政治上の區劃

沃野千里

國の北部は山嶽重疊の丘陵地帯を形成し之を上暹羅と稱し、國の中部を洋々として南下する湄南河の流域及東バンバコン、西メクロン兩河の流域地を併せたる平原地帯を下暹羅と稱す。

下暹羅は沃野千里、國內生産力の中心をなしてゐる。全國をクルシテツブ(盤谷州)、アユチャ、チンタブリ、ナコンチャイシ、ナコンサワン、ナコンラヂヤシマ、ナコンスリタマラジ、バタニ、バラチンブリ、ピサスローク、バヤブ、ブケツト、ラジャブリ、ウドンの十四州モンソンに分ち、州を縣に分ち、又縣を更に郡に分ち、郡を更に村に分ち、村を區に區劃して地方行政は内務省が統轄す。政體は君主專制で宮内省の外に中央行政官廳たる九省がある。現皇帝はブラヂヤデイボク陛下、明治二十六年(西曆一八九三年)の生誕、昭和六年春我國へ來朝された。

人種宗教

人種は普通暹羅人と稱せらるゝタイ人、外半島地方の馬來人、西南地方のモン人、東甫塞方面のカメン人、東部及北部のラオ人の五種に區別することが出来るが、これらは互に混血し或は南支那地方から移住し來れる支那人と混じて、現在では純粹なものは少い。佛教は暹羅の國教で、國王は法の守護者を以て任せられ、國民の大多數は佛教信者である。國民中の男子は生涯に一度は僧侶となつて精神上の修養をなす習慣があるが、在僧籍期間は一定せず、或は數ヶ月一年位で還俗するものもある。その結果、國內を通じて寺院僧侶の數は夥しく、最近の統

國王は法の
守護者

計によれば全國寺院數一萬五千九百五十、僧侶の數は十二萬七千三百四十一人を算する。僧侶は多大の尊敬を受け、凡ゆる儀禮式典には先づ僧侶を請じて手開きをするのが例である。又祝祭及年中行事も多くは佛教に基くものばかりである。全國に立派な寺院や殿堂や塔宇が澤山あ



僧侶の羅暹 僧侶の羅暹はとい多の侶僧 侶僧の羅暹 的級階はに侶僧、がるあでつ一の物名、ひ纏を衣法の色黄に様一、いなが別差肌片は合場の式儀他其時る寸經讀に前佛。るあて儀禮がのぐ脱

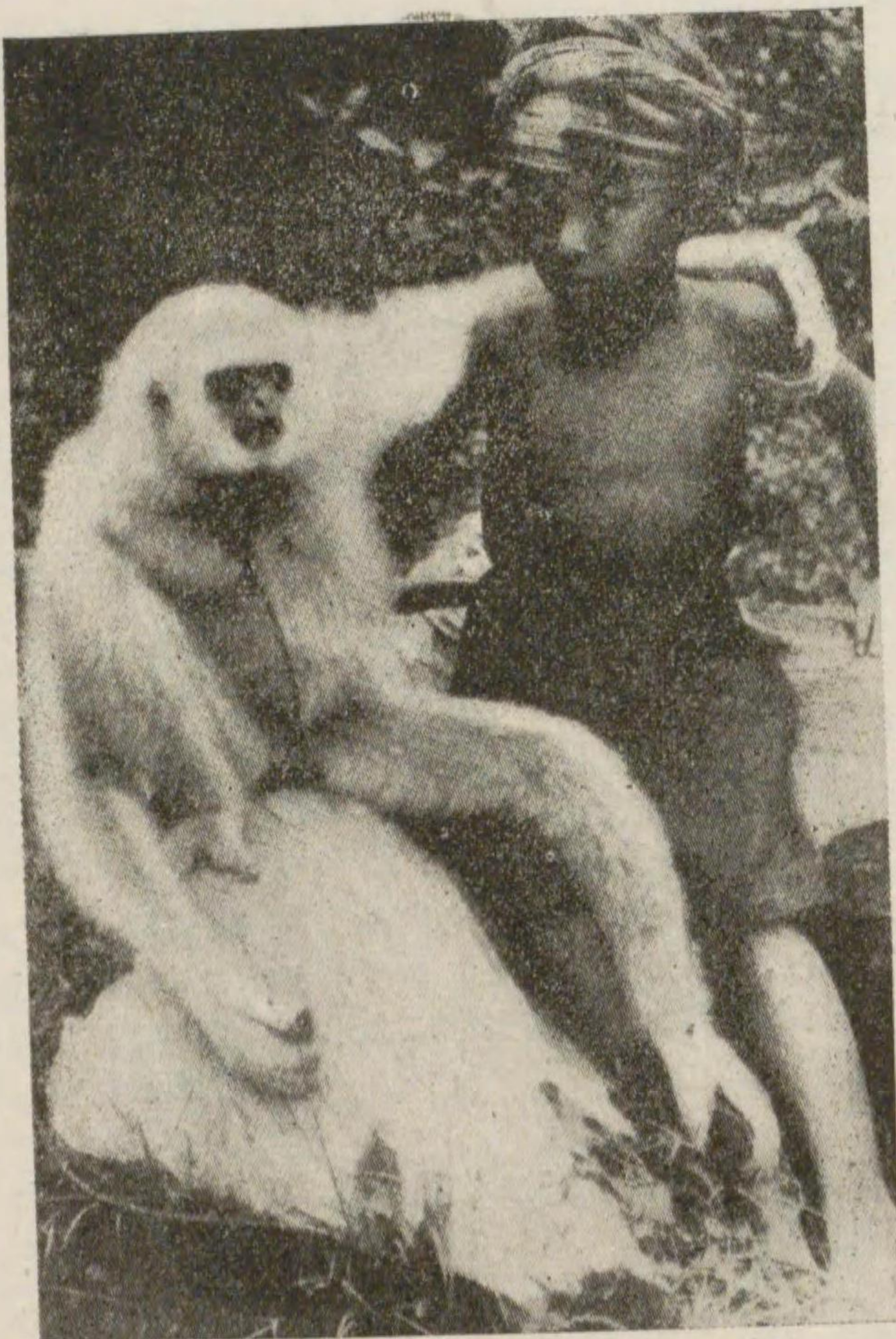
る。しかし信教の自由は能く保たれ基督教、回教、ヒンヅー教其他の宗教を奉ずる者も存在し、何等の迫害をも受けたことはない。

産業

下暹羅は湄南河の流

域を中心にバンパコン、メクロンの兩河を控へ、沖積土の平原地帯で地味豊沃なるのみならず、氣温も熱帯に屬するから作物の發育に適し、耕地面積約一千八百萬ライ(ライは日本の一反六畝

に當る)を算し、米、煙草、玉蜀黍、棉、豆類、胡麻、胡椒等の收穫が多く、就中米は年産額八千萬ピクル以上に達し、その内二千萬ピクル(價額一億圓内外)以上を外國に輸出し、實にこの國輸出の大宗である。しかも國內に平地が多く、總面積の三割八分乃至四割が耕作可能地と見られてゐるから、現在の耕地はその一割に過ぎない状態である。従つて如何に開墾の



猿長手の羅暹 猿長手の羅暹は猿長手るゐに、難し獲捕々却で快輕捷敏は猿長手一がい、の情く易れ馴と主飼とるす獲捕且一がい、不くどひ々時しかし。るあがることい深、もところせら擦古手を主飼てつなに嫌、るあて者嬌愛るあ

餘地が多く、又農業國として如何に有望なる將來を有するか、想見される。其他農産物としては椰子、護謨、檳榔樹を始めドリアン、マンゴスチン、マンゴ、鳳梨、龍眼肉、バナナ、柑橘類、ジャボン等の果實類を産し特にドリアンは果實中の王と稱し、マンゴは果實中の女王と稱

美味なる
果實